

TASCAM

TEAC Professional Division

D01001100A

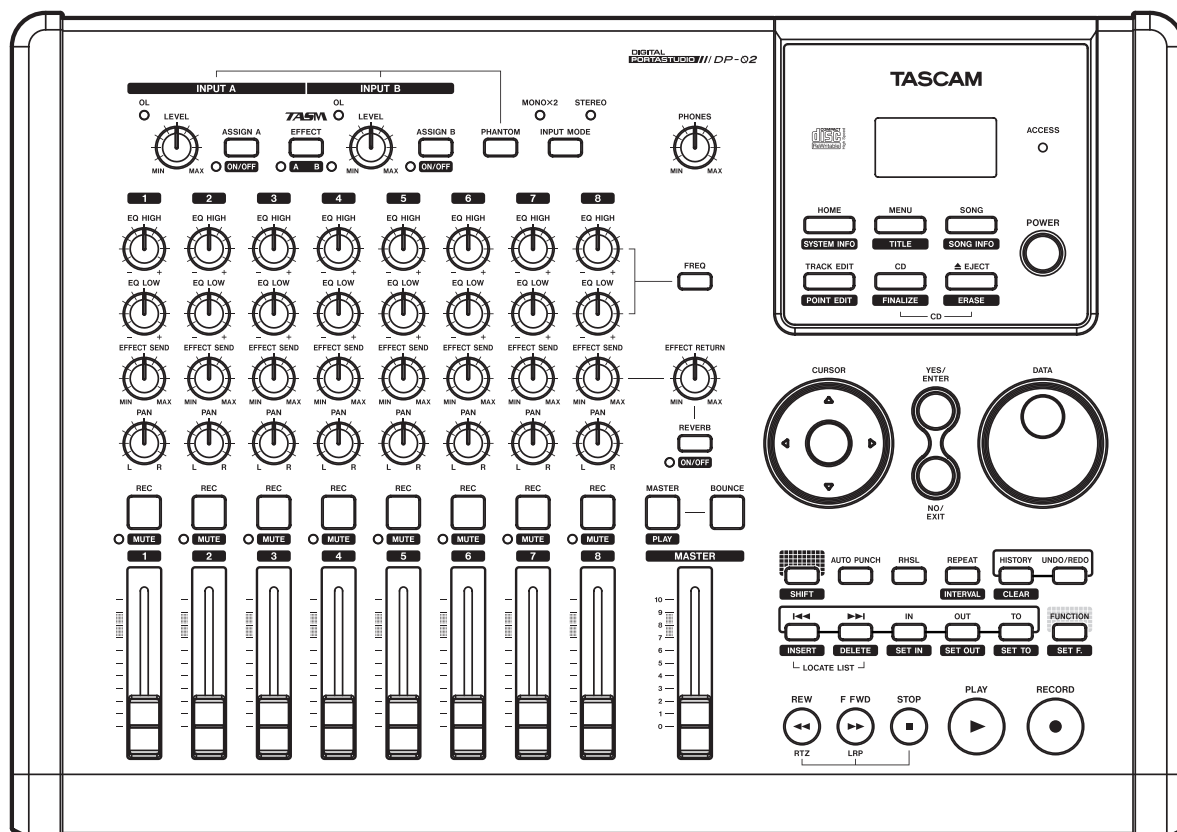
DP-02

DP-02CF

DIGITAL

PORTASTUDIO ///



取扱説明書






安全にお使いいただくために

この取扱説明書への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

警告



万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店またはティアック修理センターに修理をご依頼ください。



万一機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店またはティアック修理センターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。



この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。



この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。



この機器の上に花瓶や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。



電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。



電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。



この機器のカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センターにご依頼ください。



この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

⚠️ 警告



万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



この機器を設置する場合は、壁から 20 cm 以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から 2 cm 以上、背面から 10 cm 以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

⚠️ 注意



オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。



電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。



5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センターにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。なお、掃除費用についてはご相談ください。



次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。

- ・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所
- ・湿気やほこりの多い場所
- ・ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所



電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届くようにしてください。



移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行なってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行なってください。



この機器には、付属の AC アダプターおよび電源コードセットをご使用下さい。それ以外の物を使用すると故障、火災、感電の原因となります。



付属の AC アダプターおよび電源コードセットを他の機器に使用しないでください。故障、火災、感電の原因となります。

目次

安全にお使いいただくために	2	ディスプレイ画面	23
目次	4	ホーム画面	23
第1章 はじめに	6	各種画面構成	23
この取扱説明書について	6	DP-02画面構成	23
取扱説明書の概要	6	DP-02CF画面構成	23
取扱説明書の表記について	6	画面操作	24
DP-02とDP-02CFについて	6	名前の編集	24
本機の構成	6	外部機器と接続する	25
著作権に関して	6	FUNCTIONキーを設定する	28
CD-RとCD-RWについて [DP-02のみ]	7	コントラストを設定する	28
取り扱い上の注意	7	第5章 ソングの管理	29
CD-RディスクとCD-RWディスク	7	パーティションとソング	29
コンパクトフラッシュカードについて [DP-02CFのみ]	7	アクティブパーティションを選択する	29
取り扱い上の注意	7	ソングをロードする	29
結露について	8	新しいソングを作成する	30
製品のお手入れ	8	ソングを保存する	30
アフターサービス	8	以前の状態に戻す	30
		ソング情報を見る	31
		ソングをコピーする	31
		ソングを消去する	31
		ソングをプロテクトする	32
		使わないソングデータを消去する	32
第2章 クイックスタートガイド	9	第6章 基本レコーディング	33
クイックスタートガイド1 (準備)	9	入力をアサインする	33
接続と起動	9	レコーディング	33
コンパクトフラッシュカードを準備する [DP-02CFのみ]	9	さまざまなテクニック	34
カードをセットする	9	ミックスダウン	35
カードを初期フォーマットする	10	レベルとバランス	35
デモソングを聞く [DP-02のみ]	10	EQ	35
終了する	10	エフェクター	35
クイックスタートガイド2 (録音からマスタリング)	11	定位 (パン)	35
入力ソースを接続する	11	ミュート	35
ソングをロードする	11	マスタリング	36
入力をトラックにアサインする	11	実行した操作を取り消す (UNDO)	37
入力レベル調整とモニター	12	最後に行なった操作を取り消す (シングルアンドゥ)	37
最初のトラックを録音する	12	ある操作以降の操作を取り消して、以前の状態に戻す (マルチアンドゥ)	37
聞いてみる	12	メーターについて	38
録音を重ねる (1)	13	第7章 レコーダー機能	39
録音を重ねる (2)	13	ロケート (移動) 機能	39
ミックスダウンする	14	ダイレクトロケート	39
マスタリングする	14	ロケートマーク	39
ステレオマスターでオーディオCDを作成する [DP-02のみ]	15	IN / OUT / TO ポイント	40
終了する	15	オートパンチイン / アウト	40
		リハーサル	40
		パンチイン / アウトの実行	41
		プリロールタイムとポストロールタイムの設定	41
		トラックバウンス (トラックをまとめる)	42
		リピート	43
		リピートの間隔を設定する	43
第3章 各部の名称と働き	16		
トップパネル	16		
フロントパネル	19		
リアパネル	19		
サイドパネル	20		
第4章 準備	21		
起動と終了	21		
電源を接続する	21		
起動する	21		
終了する	21		
コンパクトフラッシュカードを使う [DP-02CFのみ]	22		
カードをセットする / 取り出す	22		
カードを初期フォーマットする	22		

第8章 エフェクタとシグナルプロセッサ [DP-02のみ]	44	第13章 パソコンと接続する	62
ノイズサプレッサ	44	必要なパソコンシステム	62
マルチエフェクト	44	USB接続する/解除する	63
エフェクターをアサインする	44	ソングのバックアップとリストア	64
エフェクトタイプを選択する	44	ソングをバックアップする	64
エフェクトを選択する	45	ソングをリストアする	64
パラメータを設定する	45	トラックのインポートとエクスポート	65
エフェクトボリュームを設定する	45	トラックをインポートする	65
マルチエフェクターのエフェクト一覧表	46	トラックをエクスポートする	66
リバーブ	49	ステレオマスターをエクスポートする	67
リバーブのオン/オフを切り換える	49		
リバーブを使う	49	第14章 CDを使う [DP-02のみ]	68
リバーブを設定する	49	CDをセットする/取り出す	68
		CDをセットする	68
第9章 さまざまな機能	50	CDを取り出す	68
バー/ビートを基準に作業する	50	強制排出	68
テンポの設定	50	オーディオCDを再生する	68
タイムモードを選択する	50	オーディオCDを作成する	69
メトロノーム	51	ディスク・アット・ワンスで書き込む	69
MIDIと一緒に使う	51	トラック・アット・ワンスで書き込む	70
MIDIクロックなど	51	ファイナライズする	70
MIDIタイムコード	52	CDからWAVファイルをインポートする	71
ギター/ベース用チューナー [DP-02のみ]	52	CDにトラックデータをエクスポートする	71
		CDにソングデータをバックアップする	72
		CDからソングをリストアする	72
第10章 ハードディスクの管理 [DP-02のみ]	53	CD-RWを消去する	73
ディスクをフォーマットする	53	メディア対応表	74
MTRパーティションをフォーマットする (リフォーマット)	54		
FATパーティションをフォーマットする	54	第15章 トラブルシューティング	75
自動ソング作成について	54	トラブルシューティング	75
第11章 コンパクトフラッシュカードの管理 [DP-02CFのみ]	55		
カードをフォーマットする	55	第16章 仕様・メッセージ・ブロックダイアグラム	76
MTRパーティションをフォーマットする (リフォーマット)	56	仕様	76
FATパーティションをフォーマットする	56	一般メッセージ	78
自動ソング作成について	56	CD操作メッセージ	80
カードをイニシャライズする	57	CD操作に関するエラーメッセージ	82
		ブロックダイアグラム (DP-02/DP-02CF)	83
第12章 トラックの編集	58	第17章 こんなことをやるには?	84
IN、OUT、TO	58		
編集の基本操作	58		
コピー・ペースト [COPY PASTE]	58		
コピー・インサート [COPY INSERT]	59		
ムーブ・ペースト [MOVE PASTE]	59		
ムーブ・インサート [MOVE INSERT]	60		
OPEN (無音挿入) [OPEN]	60		
CUT (部分削除) [CUT]	60		
SILENCE (部分消去) [SILENCE]	61		
クローントラック (トラックの複製) [CLONE TRACK]	61		
クリーンアウト (トラック削除) [CLEAN OUT]	61		

第1章 はじめに

このたびはTASCAMデジタルポータスタジオ DP-02/DP-02CFをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本機は高音質の録音が可能で8トラックのデジタルディスクレコーダーです。操作がわかりやすくシンプルですので、録音操作に悩むことなく、音楽創作に専念することができます。本機の正しい取扱い方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

この取扱説明書をよくお読みいただき、いつでも見られるところに保管してください。

この取扱説明書について

本書はDP-02とDP-02CF共用の取扱説明書です。「DP-02のみ」、「DP-02CFのみ」のような表記のある箇所以外は、両モデルに共通の記述です。また「本機」と表記した場合はDP-02とDP-02CF両方を指します。

取扱説明書の概要

「第2章 クイックスタート」をお読みになると、本機のおおまかな使い方がわかります。お買い上げいただいた直後、この章に述べられている操作例に従って、実際に操作してみることをお勧めします。

「第3章 各部の名称と機能」には、パネル上のキー、つまみ、端子などの働きが説明されています。

「第4章 準備」と「第5章 ソングの管理」は、本機をご使用する前にお読みになることをお勧めします。

「第6章 基本レコーディング」～「第14章 CDを使う」までは、本機の使い方と機能が詳しく述べられています。

「第15章 トラブルシューティング」には、本機を操作中に困ったことが起きたときにご覧ください。よくある質問と回答の一覧が記載されています。

「第17章 こんなことをやるには？」には、こんなことをしたいのに操作方法がわからない、というときにご覧ください。操作方法と参照ページが表にまとめてあります。

取扱説明書の表記について

- 本機および外部機器のキー／端子、画面に表示されるメッセージなどを「MENUキー」のように太字で表記します。
- 本文には、以下の追加情報などを記載します。

ヒント

本機をこんなふうに使することができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

ご注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、録音したデータが失われたりする可能性がある場合に記載します。

DP-02とDP-02CFについて

DP-02 / DP-02CFは、同時最大2トラック、トータル最大8トラックのマルチトラック録音を行なうことができます。さらに内蔵のミキサー機能を使ってマルチトラックをステレオミックスダウンして、ステレオマスターを作成することができます。

こうして作成されたステレオマスターをCDなどに書き込むことができるほか、USB接続したパソコンに転送することができます。

さらにDP-02 / DP-02CFとパソコン間で、個々のトラックデータの送受信を行なうことができますので、パソコンによるソングのバックアップ、リストアが可能です。

DP-02とDP-02CFの最も大きな違いは記録メディアです。DP-02は内蔵ハードディスクに記録を行なうのに対して、DP-02CFはコンパクトフラッシュカードに記録を行ないます。この他に、以下の違いがあります。

- DP-02はCD-RWドライブを内蔵。
作成したステレオマスターをCDに焼いたり、バックアップCDを作成することができます。
- DP-02はリバーブを内蔵。
外部エフェクターを使わずにリバーブを掛けることができます。
- DP-02はマルチエフェクトを内蔵。
レコーディング時、入力信号にエフェクトを掛けることができます。
- DP-02はノイズサプレッサーを内蔵。
レコーディング時、入力信号のノイズ低減が可能です。
- DP-02はギター／ベース用チューナーを内蔵。
入力したギター／ベースをチューニングすることができます。

本機の構成

本機の構成は以下の通りです。

付属品が不足している場合や輸送中の損傷がある場合、当社までご連絡ください。

- 本体 (DP-02またはDP-02CF) × 1
- ACアダプター (PS-1225L) × 1
- 電源コード × 1
- 取扱説明書 × 1
- 保証書 × 1

ご注意

本機には必ず、付属のPS-1225L(ACアダプター／電源コード)をご使用ください。また、付属のACアダプター／電源コードを他の機器に使用しないでください。故障、火災、感電の原因となります。

著作権に関して

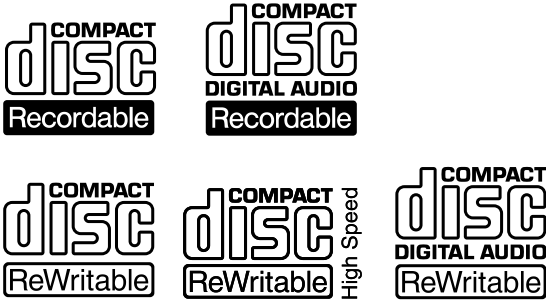
Windows、Windows XP、Windows 2000、Windows VistaはMicrosoft Corporationの登録商標です。

Macintosh、MacOS、MacOS XはApple Computer社の登録商標です。

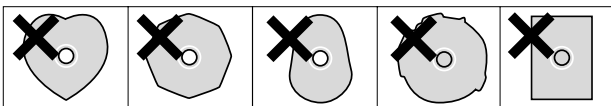
CD-RとCD-RWについて [DP-02のみ]

取り扱い上の注意

- 以下のマークがあるコンパクトディスクをお使いください。



- ディスクは、必ずレーベル面を上にして挿入してください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手で挟むように持ってください。
- 信号録音面（レーベルがない面）には触れないでください。指紋や脂などが付着していると、録音するときにエラーの原因になることがあります。
- 信号録音面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布を使って中心から外側に向かって直角に軽く拭いてください。ディスクの汚れは音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。
- ディスクの清掃に、レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの化学薬品を使用することは絶対にお止めください。表面が変質して再生不能になる恐れがあります。
- ディスクにラベルなどを貼ることはおやめください。盤面にゼロハンテープやレンタルCDのシールなどははがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは、使用しないでください。そのまま本機に挿入すると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因になります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。
- ハート形や名刺形、八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因になりますので使用しないでください。



- いくつかのレコード会社より「コピーコントロールCD」と銘打った著作権保護を目的としたディスクが販売されています。これらはCD規則に則っていないディスクも存在するため、本機で再生できない場合があります。
- CD-RやCD-RWディスクの取り扱いについてご不明な点がある場合は、ディスクメーカーに直接お問い合わせください。

CD-RディスクとCD-RWディスク

CD-Rディスクには、一度だけしか記録できません。記録したトラック（曲）を消去することもできません。ただし、ファイナライズ処理を施していないディスクで、ディスクの記録可能時間が残っている場合は、追加記録が行えます。記録が終わったCD-Rは、ファイナライズ処理を施すことで、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります（一部のCDプレーヤーでは再生できないことがあります）。

CD-RWディスクは、記録可能容量を使い終わった場合でも、記録した曲を消去すれば繰り返し使用することができます。ただし、消去できるのは指定した曲から最後に記録した曲までに限られます。途中の曲だけを消去することはできません。CD-RWは、ファイナライズ処理を施しても、CD-RWに対応したCDプレーヤーでしか再生できません。

コンパクトフラッシュカードについて [DP-02CFのみ]

DP-02CFではコンパクトフラッシュカードを使って録音／再生を行いません。

DP-02CFではタイプⅠのコンパクトフラッシュカードを使用します。タイプⅡやマイクロドライブは使うことができません。

なお、古いコンパクトフラッシュカードや安いコンパクトフラッシュカードの中にはスピードの遅いメモリー部品を使っていたり内部バッファ容量の小さいものがあり、こうしたコンパクトフラッシュカードを使うとDP-02CFの録音性能に影響を及ぼします。新しいコンパクトフラッシュカード（特に高密度デジタルスチルカメラ用に作られているもの）は読み書きのスピードが速いだけでなく、保存容量も大きくなっています。タスカムのウェブサイトには、当社でテスト済のコンパクトフラッシュカードのリストが掲載されていますので、ご参照ください。（<http://www.tascam.jp/>）

取り扱い上の注意

コンパクトフラッシュカードは精密にできています。カードやスロットの破損を防ぐため、取り扱いにあたって以下の点にご注意ください。

- 極端に温度の高いあるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を乗せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。
- カードの端子部に金属などを差し込まないこと。

結露について

本製品を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは約1～2時間放置した後、電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。

化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコール等で拭かないでください。表面を痛める原因となります。

アフターサービス

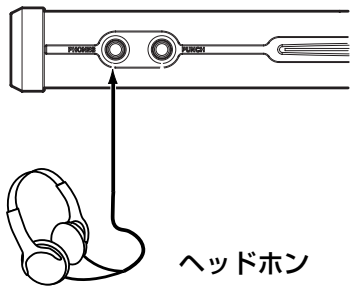
- この製品には保証書を別途添付しております。保証書は所定事項を記入してお渡ししておりますので、大切に保管してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年です。保証期間中は記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。ただし、業務用製品の場合は、保証期間内であっても使用1,000時間を超えた場合は有償になります。その他の詳細につきましては保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センターなどにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生し修理を依頼される場合は、次の事項を確認の上、ティアック修理センターまでご連絡ください。
 - 型名、型番 (DP-02/DP-02CF)
 - 製造番号 (Serial No.)
 - 故障の症状 (できるだけ詳しく)
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名

第2章 クイックスタートガイド

クイックスタートガイド1 (準備)

接続と起動

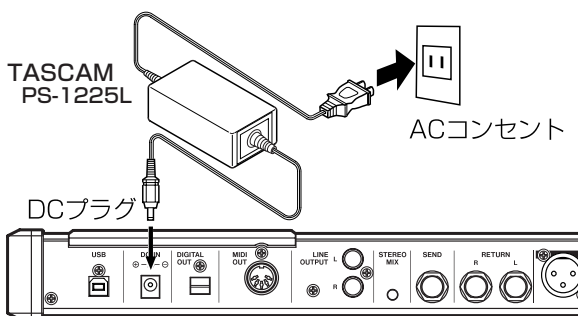
- 1 フロントパネルのPHONES端子にヘッドホンを接続します。



メモ

リアパネルのLINE OUT端子にアンプまたはアンプ内蔵スピーカーを接続することにより、スピーカーを使ってモニターすることもできます。

- 2 下図のように、付属のACアダプターを使って、本機の電源を接続します。



注意

電源がオンのときに電源コードを抜くなどして電源を切らないでください。

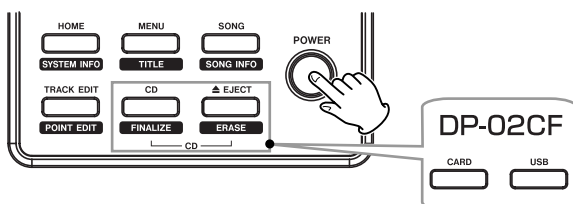
前回のシャットダウン処理もしくはソングをセーブしてから今までのレコーディングデータや設定が全て失われます。

また、失われたデータや設定は復活することができません。

ヒント

ACアダプターと本機を接続するコードを、本機の底面にあるコード抜け防止用のヒンジに嵌め込むことをお勧めします。

- 3 本機のトップパネルのPOWERキーを押して、電源をオンにします。



本機が起動して、ディスプレイに以下の画面（ホーム画面）が現れます。（→23ページ「ホーム画面」）



コンパクトフラッシュカードを準備する [DP-02CFのみ]

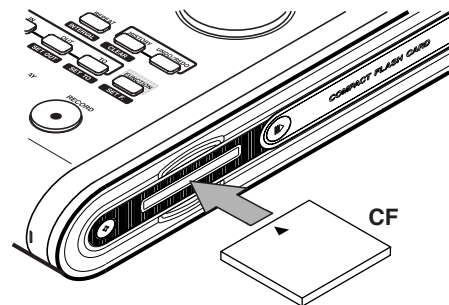
DP-02CFでは市販のコンパクトフラッシュカードを使って録音・再生を行います。作業を始める前に、コンパクトフラッシュカードをセットしてフォーマットを行う必要があります。

カードをセットする

- 1 DP-02CFのサイドパネルのCOMPACT FLASH CARDスロットに市販のコンパクトフラッシュカードをセットします。

コンパクトフラッシュカードをセットするには、ドアをスライドして開け、スロット部にカードを図の方向に差し込みます。

間違った向きに挿入して無理に力を加えると、スロットやカードを破損する危険性がありますのでご注意ください。



注意

DP-02CFの電源がオンのときにコンパクトフラッシュカードを取り出さないでください。

必ず電源をオフにしてからカードを取り出してください。

電源がオンのときにコンパクトフラッシュカードを取り出すと前回のシャットダウン処理

もしくはソングをセーブしてから今までのレコーディングデータや設定が全て失われます。

また、失われたデータや設定は復活することができません。

- 2 カードをセットしたら、ドアを閉めます。

ドアを開けたままでは本機は動作しません。

第2章 クイックスタートガイド

カードを初期フォーマットする

新しいコンパクトフラッシュカードを本機に最初にセットすると、フォーマットを促すポップアップ画面が表示されます。



メモ

DP-02CF以外の機器でフォーマットされたコンパクトフラッシュカードをセットした場合でも、フォーマットを促すポップアップ画面が表示されます。

1 YES/ENTERキーを押します。

カード容量に応じて、標準的な設定でフォーマットが行われます。

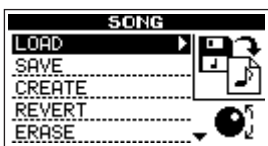
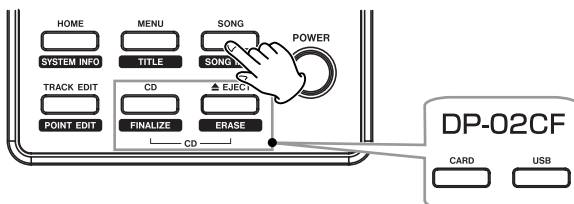
フォーマット時に、ソングファイル（SONG001）が自動作成されます。

2 正常に終了するとHOME画面に戻ります。

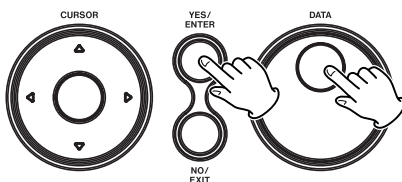
デモソングを聞く [DP-02のみ]

DP-02の内蔵ハードディスクには、あらかじめデモソングが録音されています。このデモソングを使って、再生・ミキシングの基本を体験してみましょう。

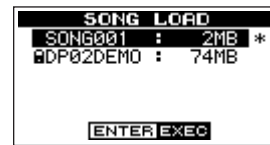
1 SONGキーを押して、SONGメニュー画面を表示します。



2 DATAダイアルを使ってLOAD項目を反転表示し、YES/ENTERキーを押します。



ソングリストが表示されます。



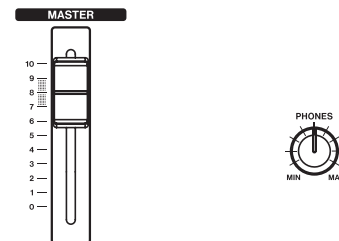
3 DATAダイアルを使って“DP02DEMO”を反転表示し、YES/ENTERキーを押します。

デモソングがロードされ、SONGメニュー画面に戻ります。

4 HOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。

5 トラックフェーダー(1～8)、MASTERフェーダー、PHONESつまみを上げていくと、デモソングが聞こえてきます。

MASTERフェーダーは7～9の位置が標準位置です。最終的なモニター音量はPHONESつまみを使って調節します。



6 トラックのPANつまみを使って、各トラック信号のステレオ定位を設定することができます。

7 トラックのEQつまみを使って、各トラック信号の高音と低音のトーンコントロールを行なうことができます。

終了する

作業が終わったら本機を終了します。

なお、このまま以下に述べるクイックスタートガイド2に進む場合は終了しないでください。

1 POWERキーを押し続け、ディスプレイに“DIGITAL PORTASTUDIO”が表示されたら離します。



本機が自動的にシャットダウン動作（今まで操作した各種情報の記録）を行なった後、電源がオフになります。

注意

電源がオンのときに電源コードを抜くなどして電源を切らないでください。

前回の終了時もしくはソングのセーブ操作を行なって以降に行なわれたレコーディングや設定のデータがすべて失われます。失われたデータや設定は復活することができません。

クイックスタートガイド2 (録音からマスタリング)

マルチトラックレコーディングを体験してみましょう。以下の例では、エレキギターを使ってリズムギターパートとリードギターパートを録音した後、マイクを使って歌を録音し、ミックスダウンを行なうまでの手順を説明します。

なお、上記の「クイックスタートガイド1 (準備)」に従って、本機にはすでにヘッドホンが接続され、本機が起動しているものとします。(→21 ページ「起動と終了」)

さらにDP-02CFの場合は、フォーマットされたコンパクトフラッシュカードがセットされているものとします。(→9 ページ「コンパクトフラッシュカードを準備する [DP-02CF]」)

入力ソースを接続する

- 1 リアパネルの **INPUT A** セクションのホンジャック端子にエレキギターを接続します。
- 2 ホンジャック端子脇の **MIC/LINE-GUITAR** 切換スイッチを **GUITAR** 側に設定します。

メモ

プリアンプ内蔵のエレキギターやアクティブタイプのエレキギターを接続する場合や、エレキギターと本機の間にはエフェクターなどを接続する場合は、**MIC/LINE-GUITAR** 切換スイッチを **MIC/LINE** 側に設定します。

- 3 **INPUT B** セクションの **XLR** 端子、またはホンジャック端子にマイクを接続します。

メモ

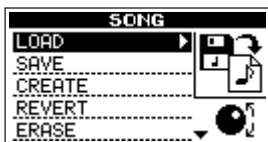
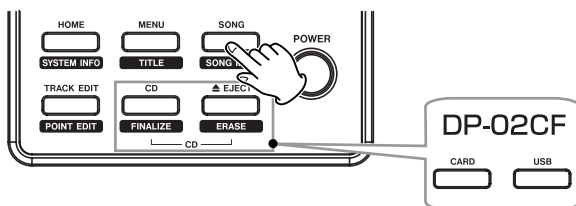
ファントム電源の必要なコンデンサーマイクを **XLR** 端子に接続する場合、**PHANTOM** キーを押して点灯させてください。

ソングをロードする

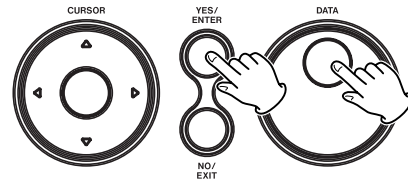
曲を録音するための「ソング」をロードします。

- DP-02 でデモソングを聴いた後は、以下の操作で **SONG001** をロードします。
- DP-02CF で上記の初期フォーマットを行った直後は、自動作成される **SONG001** がロードされていますので、以下の操作は不要です。

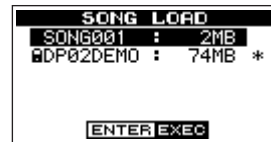
- 1 **SONG** キーを押して、**SONG** メニュー画面を表示します。



- 2 **DATA** ダイアルを使って **LOAD** 項目を反転表示し、**YES/ENTER** キーを押します。



ソングリストが表示されます。



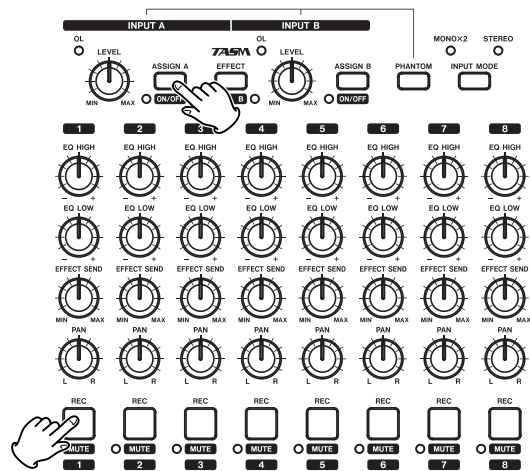
- 3 **DATA** ダイアルを使って "**SONG001**" を反転表示し、**YES/ENTER** キーを押します。

何も記録されていないソングがロードされ、**SONG** メニュー画面に戻ります。

- 4 **HOME** キー (または **NO/EXIT** キー) を押してホーム画面に戻します。

入力をトラックにアサインする

- 1 **INPUT A** セクションの **ASSIGN A** キーを押しながらトラック 1 の **REC** キーを押します。



これで **INPUT A** (ギター) がトラック 1 にアサインされました。

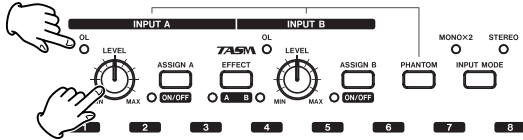
メモ

上記のアサインが行なわれているとき、**ASSIGN A** キーを押すとトラック 1 の **REC** キーが速く点滅し、アサインの状況が確認できます。

入力レベル調整とモニター

INPUT A セクションの LEVEL つまみを使って、入力レベルを調整します。

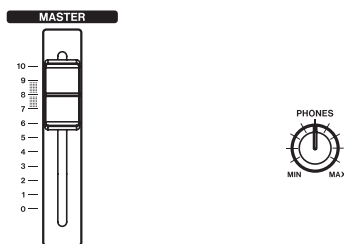
いちばん大きい音のときに INPUT A セクションの OL インジケーターが点灯しないように LEVEL つまみを設定します。



ギターを弾くと、ディスプレイ左側の“A”メーターに入力レベルが表示されます。

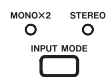


MASTER フェーダーと PHONES つまみを上げると、ヘッドホンからギターの音が聞こえます。このとき、ディスプレイ右側の“L/R”メーターが振れます。



メモ

INPUT MODE キーを使ってインプットモードを切り換えることができます。インプットモードが“STEREO”のとき、ギターの音がLチャンネルから聞こえ、Lメーターのみが振れます。“MONO×2”のとき、ギターの音が両チャンネルから聞こえ、L/R両方のメーターが振れます。



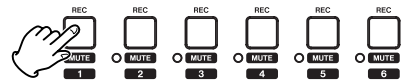
メモ

DP-02では、録音時にマルチエフェクトを使うことができます。(→44ページ「マルチエフェクト」)

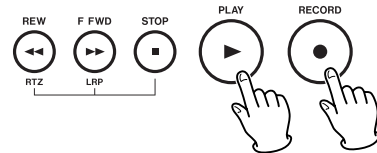
最初のトラックを録音する

1 トラック1のRECキーを押します。

キーが点滅し、録音待機状態になります。

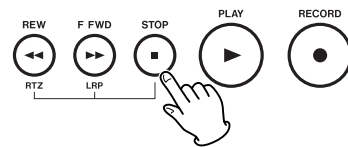


2 RECORDキーを押しながらPLAYキーを押して録音を開始し、ギターを演奏します。



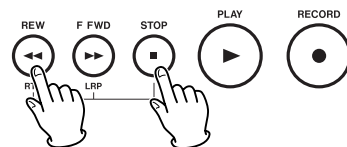
RECORDキーが赤く点灯し、PLAYキーが緑色に点灯します。トラック1のRECキーが点滅から点灯に変わります。

3 演奏が終わったらSTOPキーを押して録音を停止します。

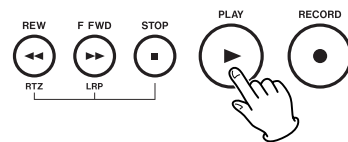


聞いてみる

1 レコーダーをスタートポイントに戻すには、STOPキーを押しながらREWキーを押します (RTZ = Return To Zero 機能)。



2 PLAYキーを押して、録音したトラックを再生します。



3 トラック1フェーダーとMASTERフェーダーを使って、再生モニターのレベルを調節します。最終的なモニター音量はPHONESつまみを使って調節します。

メモ

トラック1のPANつまみを使って、トラック信号のステレオ定位を設定することができます。

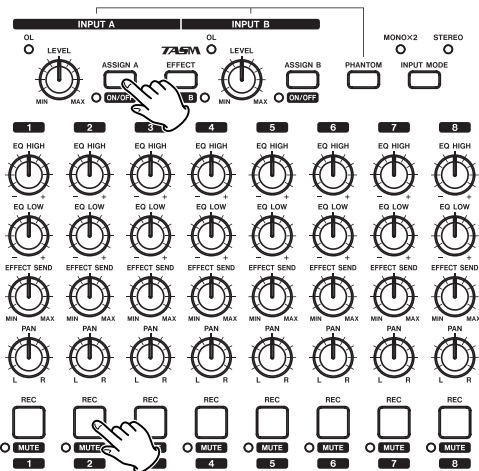
- 録音したサウンドに満足できなかったら、レコーダーをスタートポイントに戻してから、上記「最初のトラックを録音する」の手順を初めから繰り返します。録音したサウンドが気に入ったら、次に進みます。

録音を重ねる (1)

トラック1のリズムギターを聞きながら、トラック2にリードギターを録音してみましょう。

- INPUT AセクションのASSIGN Aキーを押しながらトラック1のRECキーを押して、「INPUT A→トラック1」のアサインを解除します。
- INPUT AセクションのASSIGN Aキーを押しながらトラック2のRECキーを押して、INPUT A (ギター) をトラック2にアサインします。

ASSIGN Aキーを押して、トラック2のRECキーのみが速く点滅することを確認してください。



- トラック2のRECキーを押します。

キーが点滅し、録音待機状態になります。

- (STOPキーを押しながらREWキーを押してレコーダーを頭に戻し、PLAYキーを押して) レコーダーを頭から再生し、録音されているリズムギターに合わせて、リードギターを演奏してみます。

ヘッドホンから、トラック1の再生および入力しているギターが聞こえます。

- 必要に応じて、トラックフェーダー1、MASTERフェーダー、PHONESつまみを使って、モニターのレベルやバランスを調節します。

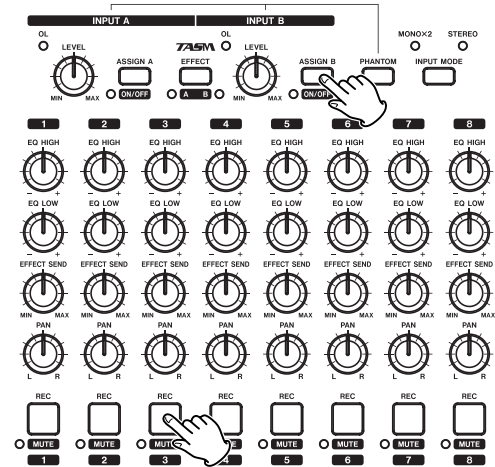
- レコーダーを頭に戻し、RECORDキーを押しながらPLAYキーを押して録音を開始し、リードギターを演奏します。

RECORDキーが赤く点灯し、PLAYキーが緑色に点灯します。トラック2のRECキーが点滅から点灯に変わります。

- 演奏が終わったらSTOPキーを押して録音を停止します。

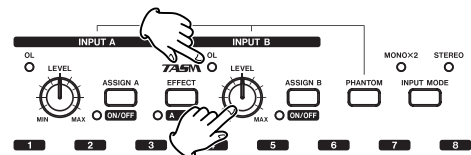
録音を重ねる (2)

- INPUT AセクションのASSIGN Aキーを押しながらトラック2のRECキーを押して、「INPUT A→トラック2」のアサインを解除します。
- INPUT BセクションのASSIGN Bキーを押しながらトラック3のRECキーを押して、INPUT B (マイク) をトラック3にアサインします。



- INPUT BセクションのLEVELつまみを使って、マイクの入力レベルを適正に調整します。

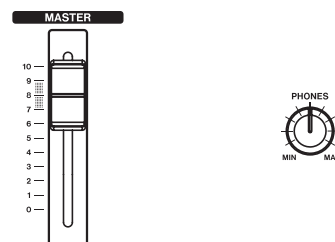
いちばん大きい音のときにINPUT BセクションのOLインジケーターが点灯しないようにLEVELつまみを設定します。



マイクに音を入れると、ディスプレイ左側の"B"メーターに入力レベルが表示されます。



MASTERフェーダーとPHONESつまみが上がっている状態で、ヘッドホンからマイクの音が聞こえます。





- 4 (STOPキーを押しながらREWキーを押してレコーダーを頭に返し、PLAYキーを押して)レコーダーを頭から再生し、録音されているリズムギターとリードギターに合わせて、歌ってみます。

ヘッドホンから、トラック1、2の再生および歌が聞こえます。

- 5 必要に応じて、トラックフェーダー1、トラックフェーダー2、MASTERフェーダー、PHONESつまみを使って、モニターのレベルやバランスを調節します。

- 6 レコーダーを頭に返し、RECORDキーを押しながらPLAYキーを押して録音を開始し、歌を歌います。

RECORDキーが赤く点灯し、PLAYキーが緑色に点灯します。トラック3のRECキーが点滅から点灯に変わります。

- 7 演奏が終わったらSTOPキーを押して録音を停止します。

- 8 INPUT BセクションのASSIGN Bキーを押しながらトラック3のRECキーを押して、「INPUT B (マイク) →トラック3」のアサインを解除します。

ミックスダウンする

録音が終わったら、ステレオにミックスダウンします。

- 1 トラックフェーダー1～3を使って、レベルとバランスを調節します。全体のレベルはMASTERフェーダーを使って調節します。またPANつまみを使って、ステレオの定位を設定します。

ディスプレイ右にあるL/Rメーターを監視しながら調節します。

- 2 EQ HIGHつまみとEQ LOWつまみを使って、各トラックの高音と低音を調節します。

メモ

FREQキーを押すとイコライザー周波数の設定画面が表示され、EQの周波数を変更することができます。(→35ページ「EQ」)

メモ

DP-02では、ミックスダウン時に内蔵リバーブを使うことができます。(→49ページ「リバーブを使う」)

またDP-02、DP-02CFともに、外部エフェクターを接続することができます。(→25ページ「外部機器と接続する」)

マスタリングする

ミックスしたサウンドをレコーディングして、ステレオマスターを作りましょう。この工程を本機ではマスタリングと呼びます。

ソングの頭(00:00:00:00)からOUT点までの範囲がステレオマスターになります。

メモ

ソング内で作成できるステレオマスターは一つです。

- 1 ステレオマスターの終了点にしたい位置でレコーダーを止め、SHIFTキーを押しながらOUT(SET OUT)キーを押します。

この位置がマスタリングの終了点として設定されます。

- 2 MASTERキーを押します(緑色に点滅)。

本機がマスターレコーディングモードになります。

- 3 RECORDキーを押しながらPLAYキーを押します。

ステレオマスターのレコーディングが始まります。

OUT点まで来ると、自動的にレコーディングが終了します。

メモ

レコーディング中にミックスの設定(フェーダー、パン、EQなど)を変えることもできます。

- 4 SHIFTキーを押しながらMASTERキーを押します(緑色に点灯)。

本機がマスター再生モードになります。

- 5 この状態でPLAYキーを押すと、作成したステレオマスターを聞くことができます。

メモ

- ステレオマスターを再生中、アナログLINE OUT端子およびDIGITAL OUT端子から出力されますので、外部のステレオレコーダーに録音することができます。

- DP-02では、内蔵のCDドライブを使って、ステレオマスターをCDに焼くことができます(以下参照)。

- 6 納得のいくステレオマスターが作成できたら、SHIFTキーを押しながらMASTERキーを押して(消灯)マスターモードを終了し、通常モードに戻ります。

ステレオマスターでオーディオCDを作成する [DP-02のみ]

DP-02内蔵のCDドライブを使って、作成したステレオマスターをオーディオCDの曲としてCDに焼くことができます。

1 CDキーを押します。

CD MENU画面が表示されます。



2 DATAダイアルを使ってMASTER WRITE項目を選択し、YES/ENTERキーを押します。

ステレオマスターのリスト (MASTER WRITE画面) が表示されます。



3 カーソル (▲/▼) キーを使って、CDに焼くマスターソングを反転表示します。

4 DATAダイアルを右に回して、チェックマークを付けます。



メモ

複数のステレオマスターを焼く場合は、上記の手順3、4を繰り返します。

5 YES/ENTERキーを押します。

SONG LIST画面が表示されます。



メモ

この画面表示時に、カーソル (◀/▶) キーを使って曲順や曲間ギャップの設定を行なう画面に進むことができますが、この手順例ではそのまま焼くことにします。

6 YES/ENTERキーを押します。

ファイナライズの設定画面が表示されます (CDに焼くソングを1曲のみ選択した場合)。



この操作例では、ファイナライズを行ないます。ファイナライズを行なわないとCDプレーヤなどの他の機器で再生出来ません。

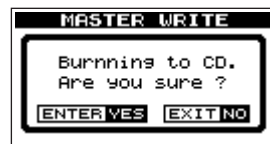
メモ

複数の曲を選択すると自動的にファイナライズが行なわれ、この画面は表示されません。また、オフの設定は出来ません。

7 DATAダイアルを使って、ファイナライズをONに設定します。

8 YES/ENTERキーを押します。

CDを焼くことを確認する画面が表示されます。



9 YES/ENTERキーを押します。

オーディオCDが作成されます。

終了する

作業が終わったら本機を終了します。

1 POWERキーを押し続け、ディスプレイに“DIGITAL PORTA STUDIO”が表示されたら離します。



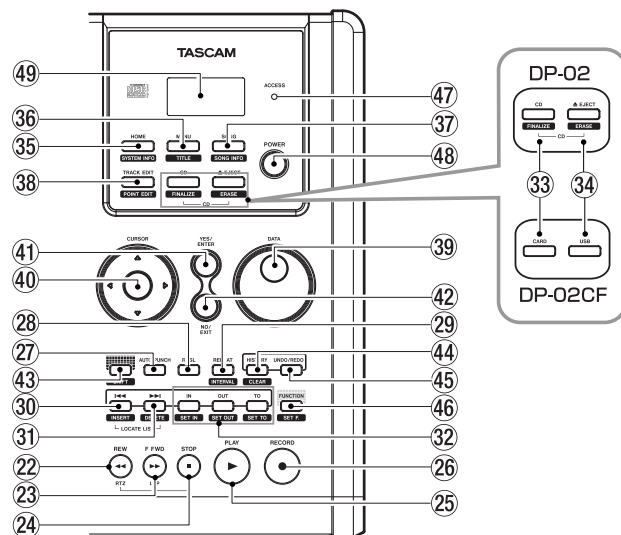
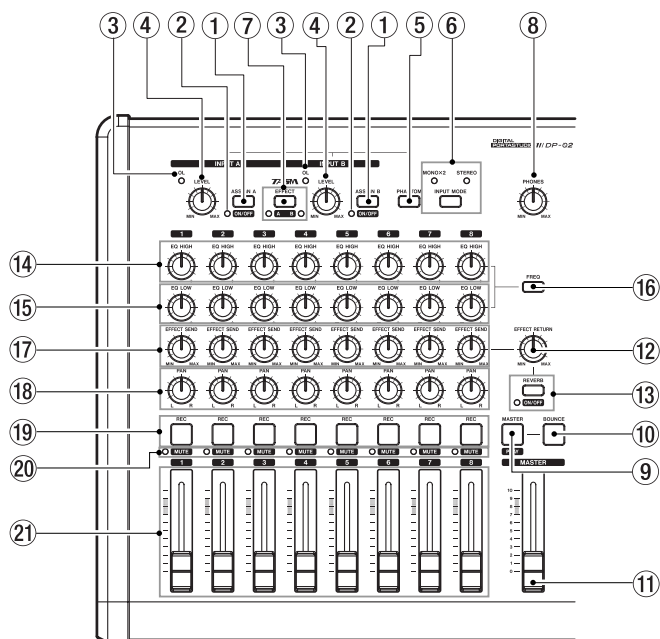
本機が自動的にシャットダウン動作(今まで操作した各種情報の記録)を行なった後、電源がオフになります。

注意

電源がオンのときに電源コードを抜くなどして電源を切らないでください。

前回の終了時もしくはソングのセーブ操作を行なって以降に行なわれたレコーディングや設定のデータがすべて失われます。失われたデータや設定は復活することができません。

トップパネル



① ASSIGN A, B キー

ASSIGN キー（A または B）を押しながらアサイン先にしたいトラックの REC キーを押すと、入力（INPUT A または INPUT B）がトラックにアサインされます。

SHIFT キーを押しながら ASSIGN キー（A または B）を押すと、入力（INPUT A または INPUT B）のオン/オフが切り替わります。

② ON/OFF インジケータ

入力（INPUT A または INPUT B）がオン（有効）のときは LED が点灯し、オフ（ミュート）のときは消灯します。

③ OL インジケータ

入力レベルを監視します。信号入力時にこのインジケータが点灯する場合は入力レベルが高過ぎますので、LEVEL つまみを使ってレベルを下げてください。

④ LEVEL つまみ

入力（INPUT A または INPUT B）のレベルを調整します。

⑤ PHANTOM スイッチ/インジケータ

このスイッチをオンにすると、2つの入力（INPUT A および INPUT B）の XLR 端子にファントム電源（+48V）が供給され、キーが点灯します。標準ホンジャック入力端子にはファントム電源が供給されません。

⑥ INPUT MODE キー/インジケータ

2つの入力（INPUT A および INPUT B）信号を、LINE OUT 端子、PHONES 端子および DIGITAL OUT 端子からステレオ、モノラルのどちらで出力するかを切り換えます。

MONO × 2：INPUT A および INPUT B からの入力信号がモノラルミックスされて、左右のステレオチャンネル（L、R）に送られます。MONO × 2 インジケータが点灯します。

STEREO：INPUT A は L チャンネル、INPUT B は R チャンネルに送られます。STEREO インジケータが点灯します。

⑦ EFFECT キー/インジケータ [DP-02 のみ]

このキーを押すと MULTI EFFECT 画面が表示されます。

SHIFT キーを押しながら EFFECT キーを押すことによって、マルチエフェクトをかける入力チャンネルを設定することができます。操作するたびに、INPUT A（A インジケータ点灯）→ INPUT B（B インジケータ点灯）→ OFF（インジケータ無点灯）の順で切り替わります。（→44 ページ「マルチエフェクト」）

⑧ PHONES つまみ

ヘッドホン出力の音量を調節します。

⑨ MASTER キー/インジケータ

このキーを単独で押すと、マスターレコーディングモードのオン/オフが切り替わります。マスターレコーディングモード時はキーが点滅します。SHIFT キーを押しながらこのキーを押すと、マスター再生モードのオン/オフが切り替わります。マスター再生モード時はキーが点灯します。（→36 ページ「マスターリング」）

⑩ BOUNCE キー/インジケータ

バウンスモードのオン/オフを切り換えます。オンにするとキーが点灯します。（→42 ページ「トラックバウンス（トラックをまとめる）」）

⑪ MASTER フェーダー

LINE OUT 端子、PHONES 端子および DIGITAL OUT 端子から出力されるステレオ信号のレベルを調整します。また、トラックバウンス時やミックスダウン時は、録音レベルを調整します。

⑫ EFFECT RETURNつまみ

DP-02では、内蔵リバーブのリターン、または外部エフェクターからのリターン (RETURN 端子) のレベルを調整します。

DP-02CFでは、外部エフェクターからのリターン (RETURN 端子) のレベルを調整します。(→44ページ「エフェクターとシグナルプロセッサ [DP-02のみ]」)

⑬ REVERBキー／インジケータ (DP-02のみ)

このキーを押すと内蔵リバーブの設定画面が表示されます。

SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、リバーブのオン／オフが切り換わります (オンのときインジケータが点灯)。(→49ページ「リバーブ」)

⑭ EQ HIGHつまみ

各トラックの高域イコライザーのゲインを調整します。

⑮ EQ LOW VRつまみ

各トラックの低域イコライザーのゲインを調整します。

⑯ FREQキー

このキーを押すと、イコライザー (EQ HIGH、EQ LOW) 周波数の設定画面が表示されます。(→35ページ「EQ」)

⑰ EFFECT SENDつまみ

SEND端子に送る各トラック信号のセンドレベルを調整します。DP-02では、内蔵リバーブに送る各トラック信号のセンドレベルもこのつまみで調整されます。

⑱ PANつまみ

各トラック信号のステレオミックスにおける定位を調整します。

⑲ RECキー／インジケータ

ASSIGNキー (AまたはB)を押しながらアサイン先にしたいトラックのRECキーを押すと、入力 (INPUT AまたはINPUT B) がトラックにアサインされます。再度同じ操作を行なうと、アサインが解除されます。(→33ページ「入力をアサインする」)

RECキーのみを押すと、トラックが録音待機状態になります (点滅)。再度同じ操作を行なうと、録音待機が解除されます (消灯)。(→33ページ「レコーディング」)

SHIFTキーを押しながらRECキーを押すと、各トラック信号がミュートされます。再度同じ操作を行なうと、ミュートが解除されます。(→35ページ「ミックスダウン」)

⑳ MUTEインジケータ

各トラック信号のミュートのオン (点灯) / オフ (消灯) 状態を表示します。ミュートをオン／オフするには、SHIFTキーを押しながらRECキーを押します。

㉑ トラックフェーダー

各トラックの再生出力レベルを調整します。

㉒ REW (◀) キー

停止中にこのキーを押すと、ソングの再生位置が早戻しされます。押し続けるかもしくは押す回数により、早戻しのスピードが10倍→50倍→100倍→1000倍と変化します。

再生中にこのキーを押すと、押している間だけ再生位置が早戻しされます。

STOPキーを押しながらこのキーを押すと、ゼロポイントにロケートして停止します (RTZ = Return To Zero 機能)。

CD再生時にこのキーを押すと、現在の曲の頭にスキップします。[DP-02のみ]

㉓ FF (▶) キー

停止中にこのキーを押すと、ソングの再生位置が早送りされます。押し続けるかもしくは押す回数により、早送りのスピードが10倍→50倍→100倍→1000倍と変化します。

再生中にこのキーを押すと、押している間だけ再生位置が早送りされます。

STOPキーを押しながらこのキーを押すと、最後に録音を終了した位置にロケートして停止します (LRP = Last Rec Point 機能)。

CD再生時にこのキーを押すと、次の曲にスキップします。[DP-02のみ]

㉔ STOP (■) キー

このキーを押すと録音、再生、早送り、早戻しを停止します。

CD再生時にこのキーを押すと、CD再生を停止します。[DP-02のみ]

㉕ PLAY (▶) キー／インジケータ

停止中にこのキーを押すと再生を開始します。また、RECORDキーを押しながらこのキーを押すと、録音を開始します。再生時または録音時はキーが点灯します。

録音中にこのキーを押すと、録音が終わって再生状態になります。(パンチアウト)

CDプレーヤ動作時は、CD再生を開始します。[DP-02のみ]

㉖ RECORD (●) キー／インジケータ

停止中にこのキーとPLAYキーを同時に押すと録音を開始します。録音時にはキーが点灯します。

録音待機状態 (キーが点滅) の再生中にこのキーを押すとマニュアルパンチインに入り、キーが点灯します。

㉗ AUTO PUNCHキー

オートパンチモードのオン／オフを設定します。

オートパンチモード時はキーが点灯します。(→40ページ「オートパンチイン／アウト」)

㉘ RHSLキー

リハーサルモードのオン／オフを設定します。

リハーサルモード時はキーが点灯します。(→40ページ「リハーサル」)

②9 REPEAT (INTERVAL) キー／インジケータ

リピートモードのオン／オフを設定します。オンにすると、INポイントとOUTポイントの間を繰り返し再生します。

リピートモード時はキーが点灯します。

SHIFT キーを押しながらこのキーを押すと、LCDにREPEAT INTERVAL 画面が表示され、リピートインターバル時間を0.5秒～9.9秒の間で変更できます。(→43ページ「リピート」)

③0 ◀◀ (INSERT) キー

このキーを押すと、手前のロケーションマークにスキップします。

停止中、録音中または再生中、希望の位置でSHIFT キーを押しながらこのキーを押すと、ロケーションマークとして設定されます。

CD再生時にこのキーを押すと、現在のトラックの頭にスキップします。

③1 ▶▶ (DELETE) キー

このキーを押すと、次のロケーションマークにスキップします。

SHIFT キーを押しながらこのキーを押すと、ホーム画面に表示中のロケーションマーク（現在の再生ポジションの手前にあるロケーションマーク）が削除されます。

CD再生時にこのキーを押すと、次のトラックの頭にスキップします。

◀◀ (INSERT) キーと ▶▶ (DELETE) キーを同時に押すと、ロケーションマークのリスト画面が表示されます。

③2 IN (SET IN), OUT (SET OUT), TO (SET TO) キー

SHIFT キーを押しながら、これらのキーを押すと、現在の再生ポジションがそれぞれINポイント、OUTポイント、TOポイントとして設定されます。

これらのキーを単独で押すと、INポイント、OUTポイント、TOポイントにロケートします。

③3 CD (FINALIZE) キー [DP-02のみ]

DP-02のCD (FINALIZE) キーを押すと、CD MENU画面が表示されます。

SHIFT キーを押しながらこのキーを押すとFINALIZE画面が表示されます。

CARD キー [DP-02CF]

DP-02CFのCARDキーを押すと、CARD MENU画面が表示されます。

③4 EJECT (ERASE) キー [DP-02のみ]

DP-02のEJECT (ERASE) キーを押すと、CDが排出されます。またSHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、CD-RWディスクの消去を行なう画面が表示されます。(→68ページ「CDを使う [DP-02のみ]」)

USBキー [DP-02CFのみ]

DP-02CFのUSBキーを押すと、USB画面が表示されます。(→62ページ「パソコンと接続する」)

③5 HOME (SYSTEM INFO) キー

このキーを押すとHOME画面を表示します（ただし例外があります）。

SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、SYSTEM情報を表示します。

③6 MENU (TITLE) キー

このキーを押すとMENU画面が表示されます。

SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、TITLE画面が表示されます。(→24ページ「名前の編集」)

③7 SONG (SONG INFO) キー

このキーを押すとSONGメニュー画面が表示されます。

SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、現在ロードしているソングの情報が表示されます。

③8 TRACK EDIT (POINT EDIT) キー

このキーを押すとTRACK EDIT画面を表示します。

SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、POINT EDIT画面が表示されます。

③9 DATA ダイアル

画面内で、選択中の値（反転表示または下線カーソルの置かれている値）を変更します。

メニュー画面やリスト画面では、項目を選択します。

④0 CURSOR (◀/▶、▲/▼) キー

画面内の項目選択やカーソル移動に使います。

またメニュー画面などでは、階層を進むときにCURSOR▶、階層を戻るときにCURSOR◀を使える場合があります。

④1 YES/ENTER キー

画面で操作や設定を確定するときや、質問に対して「はい」と答えるときに使います。

④2 NO/EXIT キー

手前の画面に戻るときや、質問に対して「いいえ」と答えるときに使います。

④3 SHIFT キー

このキーを押しながらシフト機能を持つ他のキーを押すと、そのキーの持つシフト機能を実行することができます。このキー単独では機能しません。

シフト機能を持つキーでは、キーの下部にシフト機能名が「オレンジ色の囲みに黒文字」で表記されています。

④4 HISTORY (CLEAR) キー

このキーを押すと履歴画面を表示し、履歴（今までの操作履歴）が存在する場合は任意のポイントにアンドゥ／リドゥできます。

SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、履歴データをクリアするための画面が表示されます。

④5 UNDO/REDO キー

このキーを押すと、操作のアンドゥ／リドゥができます。(→37ページ「実行した操作を取り消す (UNDO)」)

④6 FUNCTION (SET F.) キー

FUNCTION キーに登録された機能へのショートカット操作ができます。

SHIFT キーを押しながらこのキーを押すと、FUNCTION SET 画面が表示され、ショートカット操作が可能な機能の中から希望の機能を FUNCTION キーに登録できます。(→28 ページ「FUNCTION キーを設定する」)

④7 ACCESS インジケータ

DP-02 では、ハードディスクや CD-R/CD-RW ディスクの書き込み/読み出しを実行しているときに点灯/点滅します。

DP-02CF では、コンパクトフラッシュカードの書き込み/読み出しを実行しているときに点灯/点滅します。

④8 POWER スイッチ

電源のオン/オフを行なうときに使います。

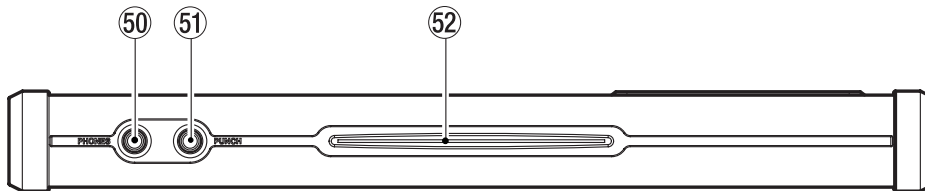
このキーを押して電源をオンにすると、本機が起動します。オン時はキーが点灯します。

オフにするには、“DIGITAL PORTA STUDIO” が表示されるまでこのキーを押し続けます。その後、本機が自動的にシャットダウン動作を行なった後、電源がオフになります。

④9 LCD ディスプレイ

本機の情報表示や設定を行うための各種画面を表示します。

フロントパネル



⑤0 PHONES 端子 (標準ステレオホンジャック)

ステレオ出力信号をステレオヘッドホンでモニターするときに使います。

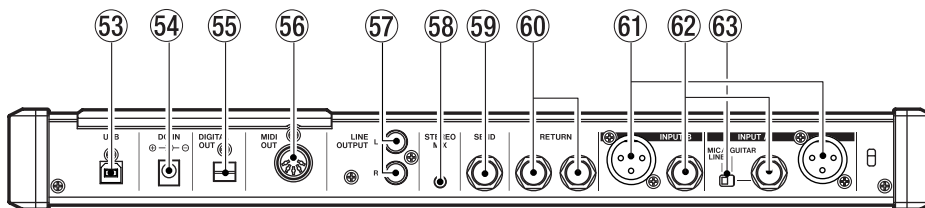
⑤1 PUNCH 端子 (標準ホンジャック)

TASCAM RC-30P などのフットペダルを接続して、パンチイン/パンチアウトを行うことができます。

⑤2 CD 挿入口 [DP-02 のみ]

CD を挿入します。

リアパネル



⑤3 USB 端子

USB ケーブルを使ってパソコンと接続します。

パソコンとのファイル共有やインポート、エクスポートが可能です。

DP-02 接続時に認識可能な内蔵デバイスはハードディスクの FAT パーティションのみです。

DP-02CF 接続時に認識可能な内蔵デバイスはコンパクトフラッシュカードの FAT パーティションのみです。

⑤4 DC IN 端子

付属の AC アダプタ (PS-1225L) を接続します。

⑤5 DIGITAL OUT 端子 (角形オプティカル)

ステレオミックス出力信号を S/PDIF フォーマットでデジタル出力します。

⑤6 MIDI OUT 端子

MIDI クロック、MIDI タイムコード、ソングポジションポイントを出力します。

第3章 各部の名称と機能

⑤7 LINE OUT (L, R) 端子 (RCAピンジャック)

ステレオミックス信号を出力します。

⑤8 STEREO MIX 端子 (ステレオミニジャック)

この端子に入力された信号はステレオ出力信号にミックスされて、LINE OUT 端子、PHONES 端子から出力されます。

⑤9 SEND 端子 (標準ホンジャック)

EFFECT SEND 信号を出力します。

⑥0 RETURN 端子 (標準ホンジャック)

外部エフェクタ出力などのステレオ信号を入力します。

⑥1 INPUT A/INPUT B 端子 (XLR)

INPUT A、Bのアナログ入力端子 (XLR)です。マイクからラインレベルの信号まで、さまざまな信号を入力できます。

PHANTOM スイッチをオンにすると、コンデンサーマイク用のファントム電源 (+48V) が供給されます。

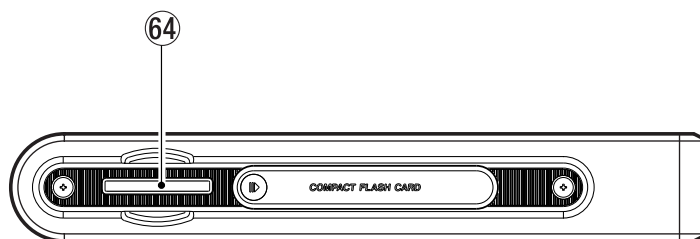
⑥2 INPUT A/INPUT B 端子 (標準ホンジャック)

INPUT A、Bのアナログ入力端子 (標準ホンジャック)です。マイクからラインレベルの信号まで、さまざまな信号を入力できます。また INPUT A にはエレキギターを直接入力することもできます。

⑥3 GUITAR, MIC/LINE 切換 スイッチ

INPUT A のホンジャック端子の入力信号に応じて、GUITAR または MIC/LINE を選択します。

サイドパネル



⑥4 Compact Flash Card 挿入口 [DP-02CFのみ]

ドアを開けて、コンパクトフラッシュカードをセットします。

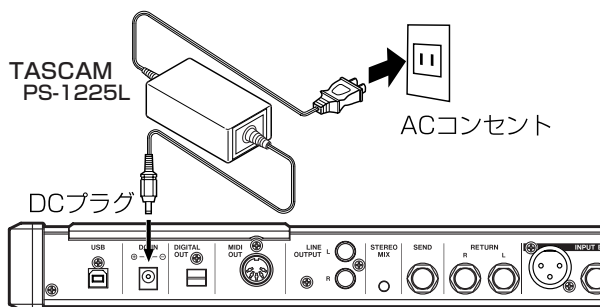
セットした後、必ずドアを閉じてください。開けた状態では本機が動作しません。

起動と終了

本機の電源を接続して起動するまでの手順、および作業後の終了の手順を説明します。

電源を接続する

付属の電源アダプターと本機、電源コードと電源アダプター、電源コードとコンセントをそれぞれ接続します。



起動する

トップパネルのPOWERキーを押します。
 キーの周囲がオレンジ色に点灯します。
 ディスプレイに以下が表示され、本機が起動します。



ACCESSインジケータが点灯し、ディスプレイには起動の状況が表示されます。

起動を終えるとACCESSインジケータが消灯し、ディスプレイに以下のような「ホーム画面」が表示されます。

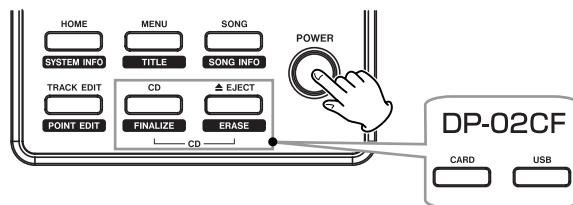


注意

本機の電源のオン/オフ操作は、本機に接続しているモニターシステムのボリュームを絞った状態で行なってください。また、電源オン/オフ操作時にヘッドホンを装着しないでください。ノイズによってスピーカーや聴覚を損傷する恐れがあります。

終了する

- 1 再生中または録音中の場合、レコーダーを停止します。
- 2 POWERキーを約2秒間、押したままにし、以下の画面が表示されたら離します。



シャットダウン処理今まで操作した各種情報や録音データの記録が始まり、やがて電源が自動的にオフになります。

注意

電源がオンのときに電源コードを抜くなどして電源を切らないでください。

前回の終了時もしくはソングのセーブ操作を行なって以降に行なわれたレコーディングや設定のデータがすべて失われます。失われたデータや設定は復活することができません。

コンパクトフラッシュカードを使う [DP-02CFのみ]

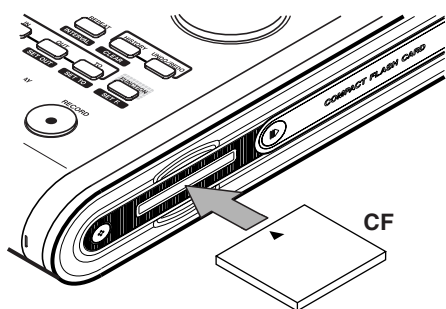
DP-02CFではコンパクトフラッシュカードを使って録音／再生を行いません。

- 使用できるコンパクトフラッシュカードはタイプIのみです。タイプIIやマイクロドライブは使用できません。(→7ページ「コンパクトフラッシュカードについて [DP-02CFのみ]」)
- 容量が512MB未満のカードは使用できません。512MB以上のカードをお使いください。
- タスカムのウェブサイトには、当社でテスト済のコンパクトフラッシュカードのリストが掲載されています。(http://www.tascam.jp/)

カードをセットする／取り出す

DP-02CFのサイドパネルにコンパクトフラッシュカードスロットがあり、ここにコンパクトフラッシュカードをセットします。

- **コンパクトフラッシュカードをセットするには：**
ドアをスライドして開け、スロット部にカードを図の方向に差し込みます。
間違った向きに挿入して無理に力を加えると、スロットやカードを破損する危険性がありますのでご注意ください。



カードをセットしたら、ドアを閉めます。

ドアを開けたままでは、本機は動作しません。

- **コンパクトフラッシュカードを取り出すには：**
DP-02CFの電源をオフにしてから、ドアをスライドして開け、カードを指でつまんで取り出します（イジェクトレバーはありません）。

注意

DP-02CFの電源がオンのときにコンパクトフラッシュカードを取り出さないでください。

必ず電源をオフしてからカードを取り出してください。

電源がオンのときにコンパクトフラッシュカードを取り出すと、前回の終了時もしくはソングのセーブ操作を行なって以降に行なわれたレコーディングや設定のデータがすべて失われます。失われたデータや設定は復活することができません。

カードを初期フォーマットする

新しいコンパクトフラッシュカードを使用するには、初期フォーマットを行いません。DP-02CFはコンパクトフラッシュカードをFATパーティションとMTRパーティションに分割します。コンパクトフラッシュカードの容量が大きい場合、複数のMTRパーティションに分割することもできます。

パーティションに関する詳しい説明は「コンパクトフラッシュカードの管理 [DP-02CFのみ]」（55ページ）をご覧ください。

新しいコンパクトフラッシュカードをDP-02CFに最初にセットすると、フォーマットを促すポップアップ画面が表示されます。



メモ

DP-02CF以外の機器でフォーマット済みのコンパクトフラッシュカードをセットした場合も、フォーマットを促す上記ポップアップ画面が表示されます。

- 1 YES/ENTER キーを押します。

カード容量に応じて、標準的なパーティション設定でフォーマットが行なわれます。

フォーマットが正常に終了するとホーム画面に戻ります。

メモ

カード容量によっては、あとからパーティション設定を変更できる場合があります。その場合、CARDメニューのFORMAT項目でパーティションサイズを設定してからフォーマットを行いません。(→55ページ「コンパクトフラッシュカードの管理 [DP-02CFのみ]」)

ディスプレイ画面

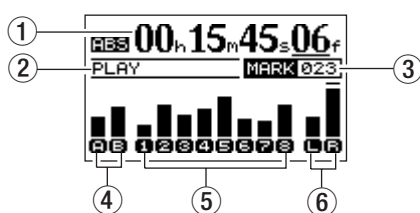
本機のディスプレイにはレコーダーの状態を示す「ホーム画面」と、設定や機能実行を行なう各種画面があります。

ホーム画面

本機のディスプレイの基本画面は以下のような「ホーム画面」です。通常の録音、再生を行なうときにはホーム画面が表示されます。

電源投入後、起動が完了するとホーム画面が表示されます。また、他の画面を表示中、**HOME**キーを押すと、ホーム画面に戻りますただし、表示中の画面によっては戻れない場合があります。(階層の深い設定画面など)

この画面は表示のみで、以下の情報を表示します。



- ① レコーダーのタイムカウンター
- ② レコーダーのトランスポート状態
- ③ 手前のロケットマークの番号
- ④ 入力レベルメーター
- ⑤ レコーダーのトラックレベルメーター
- ⑥ ステレオ出力のレベルメーター

各種画面構成

また本機では、ディスプレイを使って、さまざまな設定や機能実行、あるいは情報表示を行ないます。

各操作画面には、**MENU**キーを使って**MENU**画面を経由してアクセスするものと、専用キーからアクセスするものがあります。以下にDP-02、DP-02CFそれぞれの画面構成をまとめます。

DP-02 画面構成

MENUキーからMENU画面経由でアクセス

- DISKメニュー画面
- DATA BACKUPメニュー画面
- WAVEメニュー画面
- MIDIメニュー画面
- USBメニュー画面
- TUNERメニュー画面
- PREFERENCEメニュー画面

専用キーからアクセス

- CDメニュー画面 (CDキー使用)
- SONGメニュー画面 (SONGキー使用)
- TRACK EDITメニュー画面 (TRACK EDITキー使用)
- EFFECT画面 (EFFECTキー使用)
- REVERB画面 (REVERBキー使用)
- EQ FREQUENCY画面 (FREQキー使用)
- TITLE画面 (SHIFTキー+MENUキー使用)
- SYSTEM INFORMATION画面 (SHIFTキー+HOMEキー使用)
- SONG INFORMATION画面 (SHIFTキー+SONGキー使用)
- POINT EDIT画面 (SHIFTキー+TRACK EDITキー使用)
- LOCATE LIST画面 (◀◀キー+▶▶キー使用)
- REPEAT INTERVAL画面 (SHIFTキー+REPEATキー使用)
- HISTORY画面 (HISTORYキー使用)
- SET FUNCTION画面 (SHIFTキー+FUNCTIONキー使用)

DP-02CF 画面構成

MENUキーからMENU画面経由でアクセス

- DATA BACKUPメニュー画面
- WAVEメニュー画面
- MIDIメニュー画面
- PREFERENCEメニュー画面

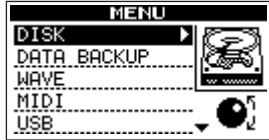
専用キーからアクセス

- USB画面 (USBキー使用)
- CARDメニュー画面 (CARDキー使用)
- SONGメニュー画面 (SONGキー使用)
- TRACK EDITメニュー画面 (TRACK EDITキー使用)
- EQ FREQUENCY画面 (FREQキー使用)
- TITLE画面 (SHIFTキー+MENUキー使用)
- SYSTEM INFORMATION画面 (SHIFTキー+HOMEキー使用)
- SONG INFORMATION画面 (SHIFTキー+SONGキー使用)
- POINT EDIT画面 (SHIFTキー+TRACK EDITキー使用)
- LOCATE LIST画面 (◀◀キー+▶▶キー使用)
- REPEAT INTERVAL画面 (SHIFTキー+REPEATキー使用)
- HISTORY画面 (HISTORYキー使用)
- SET FUNCTION画面 (SHIFTキー+FUNCTIONキー使用)

画面操作

MENU キーまたは専用キーを使って画面を表示した後、以下の要領で操作を行ないます。

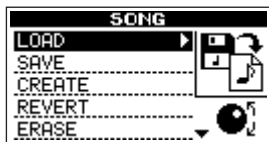
- 項目を選択するには、DATA ダイアルまたは CURSOR▲/▼ キーを使って希望の項目を反転表示します。



- 反転表示した項目を確定するには、YES/ENTER キーを押します。
サブ画面がある項目（MENU 画面など）では右側に▶が表示され、確定するのに CURSOR▶ キーを使うこともできます。
- 現在表示されているリストの上または（および）下にも項目がある場合、メニュー画面の右下に▲または（および）▼が表示されます。

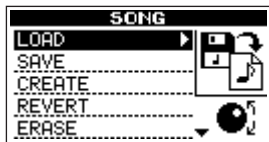
以下は SONG メニュー画面の例です。

（SONG メニューを表示するには SONG キーを押します。）



- DATA ダイアルまたは CURSOR▲/▼ キーを使って、メニューから希望の項目を反転表示します。

以下の例では LOAD が選択されています。また ERASE の表示の下には、他のメニュー項目が存在します。



- YES/ENTER キーまたは CURSOR▶ キーを押して、LOAD 画面を表示します。以下は LOAD 画面の例で、ソングのリストが表示されます。

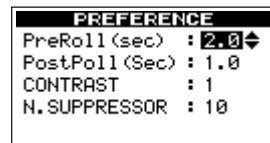
メモ

画面操作中、手前の画面に戻るには、NO/EXIT キーを押します。

- DATA ダイアルまたは CURSOR▲/▼ キーを使って、消去するソングを反転表示し、YES/ENTER キーを押します。



- 上記のような確認画面が表示された場合、YES/ENTER キーを押します。
キャンセルするときは NO/EXIT キーを押します。
- 下記のように、値を設定する画面の場合、CURSOR▲/▼ キーを使って項目を選択し、DATA ダイアルを使って値を設定します。



名前の編集

ソングやエクスポートするファイルなどの名前（タイトル）の編集ができます。

以下の場合に名前の編集が可能な画面が表示されます。

- ソングリストやトラックリストの画面を表示中、SHIFT キーを押しながら MENU (TITLE) キーを押すと、反転中のソングやトラックの名前を編集する画面が表示されます。
- ホーム画面表示中、SHIFT キーを押しながら MENU (TITLE) キーを押すと、現在ロードされているソングの名前を編集する画面が表示されます。
- ソングの作成や保存時など、名前を設定する画面が表示されます（以下の画面例参照）。

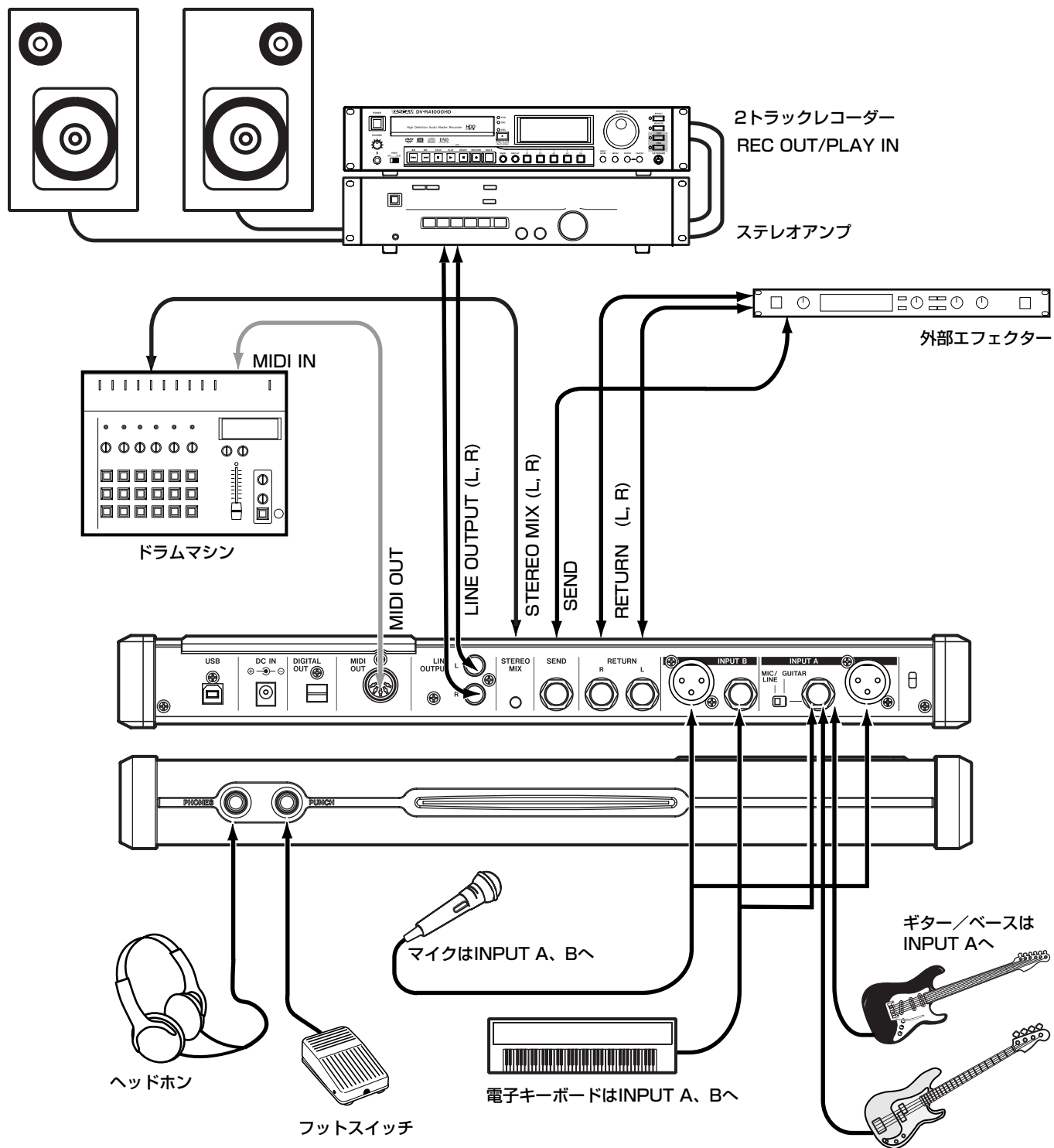


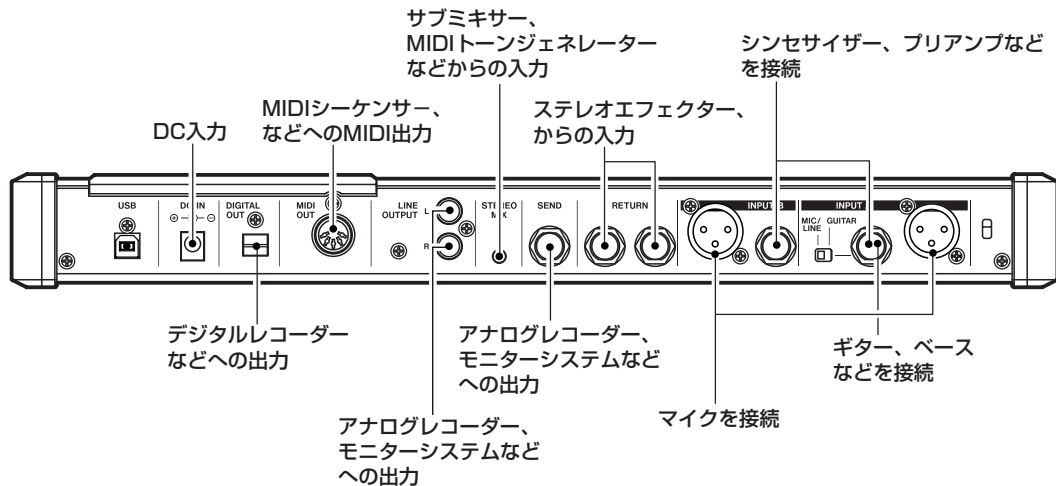
以下の要領で名前の編集を行ないます。

- CURSOR◀/▶ キーを使ってカーソル（下線）位置を移動します。カーソル位置が編集位置になります。
- DATA ダイアルを使ってカーソル（下線）位置の文字を変更します。一般的な記号、数字、英大文字、英小文字を入力することができます。
- カーソル位置に空白を挿入するには CURSOR▲ キーを使います。
- カーソル位置の文字を削除するには CURSOR▼ キーを押します。
- 入力/編集を終えたら YES/ENTER キーを押して、新しい名前を保存します。

外部機器と接続する

本機でレコーディングを行なう前に、外部機器との接続を行なう必要があります。接続例を示します。





マイク

マイクはリアパネルの入力セクションに接続します。**INPUT A**、**INPUT B**の2系統があります。それぞれ、XLRバランス端子と標準ホンジャック端子を装備し、どちらにもマイクの入力が可能です。

また、ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクも接続可能です。この場合トップパネルの**PHANTOM**キーをオンにしてください。

マイク信号はライン信号に比べてレベルが低いので、マイク接続時はトップパネルの**LEVEL**つまみを高めに設定します。ただし、録音入力信号がいちばん大きいときに**OL**インジケータが点灯しないような位置に設定します。

メモ

XLRコネクターのピン配列は、#1＝グラウンド、#2＝ホット、#3＝コールドです。

注意

ファントム電源をオンにした状態で、XLRコネクターのマイクの抜き差しをしないでください。

XLRコネクターにアンバランスのダイナミックマイクを接続しているとき、ファントム電源をオンにしないでください。

シンセサイザーなど

シンセサイザーの他に、ドラムマシン、ギターアンプシミュレーター、アクティブタイプのベースなど、またはCDプレーヤー、カセットデッキなどは、**INPUT A**、**INPUT B**の標準ホンジャック（モノラル、アンバランス）に接続します。

INPUT Aでは、**GUITAR – MIC/LINE**スイッチを**MIC/LINE**側に設定します。

外部機器の出力レベルつまみ、または本機のトップパネルの**LEVEL**つまみを使って、録音入力信号のレベルが最大の時だけ**OL**インジケータが点灯するように設定します。

ギター／ベース

ギター／ベース（パッシブタイプ）はフロントパネルの**INPUT A**の標準ホンジャック（モノラル、アンバランス）に接続します。

GUITAR – MIC/LINEスイッチを**GUITAR**側に設定します。

ヒント

DP-02では内蔵のチューナーを使ってギターやベースの調弦を行なうことができます。（→52ページ「ギター／ベース用チューナー [DP-02のみ]」）

楽器の出力ボリュームつまみ、または本機のトップパネルの**LEVEL**つまみを使って、レベルが最大の時だけ**OL**インジケータが点灯するように設定します。

ヘッドホン

フロントパネルの**PHONES**ジャック（標準ステレオホンジャック）にステレオヘッドホンを接続します。

トップパネルの**PHONES**つまみを使って、ボリュームを調節します。

フットスイッチ

フロントパネルの**PUNCH**ジャックに、タスカムRC-30Pなどの「プッシュ・トゥ・メイク」タイプのフットスイッチを接続します。フットスイッチ操作によるパンチイン／アウト（録音のスタート／ストップ）が可能です。

ヒント

ギターを弾きながら録音操作をする場合など、フットスイッチが役立ちます。

INPUT MODE スイッチ

入力**A**と**B**の両方を使ってレコーディングを行なう場合、**INPUT MODE**スイッチの設定によってモニターの間こえ方が変わります。

このスイッチはヘッドホンや**LINE OUTPUT**端子を使った入力信号のモニターに影響を与えます。以下の2つのポジションがあります。

メモ

INPUT MODEスイッチはレコーディングには影響を与えません。モニターにのみ影響を与えます。

● MONO × 2

入力AとBの信号がそれぞれ左右チャンネルの両方に送られません。

メモ

MONO × 2モードでは入力AとBの信号はどちらも中央に定位します。ソースによっては稀にモニターシステムからの音が歪んで聞こえることがありますが、入力レベルが適正ならば、録音される音が歪むことはありません。

● STEREO

入力Aの信号が左チャンネル、入力Bの信号が右チャンネルに送られます。ステレオシンセサイザーなどの外部ステレオソースを接続して録音するときに、ステレオモニターすることができます。

モニター

リアパネルのLINE OUTPUT端子(RCAピンジャック)を使って、本機とモニターシステム(アンプ/スピーカー)を接続します。なお最終のステレオミックス録音の段階では、このLINE OUTPUT端子を使って外部のレコーダーなどに接続することができます。

一般的には、LINE OUTPUT端子をステレオアンプのAUX INなどに接続します。そしてアンプの入力セレクターをAUXに設定して本機をモニターします。マスタリングだけでなく、マイクを使わないレコーディングやトラックバウンス時にも、アンプ/スピーカーによるモニターが可能です。

マスターレコーダー

マスタリングを終えたステレオマスターを外部のステレオレコーダーにアナログ録音する場合、LINE OUTPUT端子をレコーダーの入力に接続します。もちろん、モニターに使うアンプを経由してレコーダーに録音ができるようにすることも可能です。

エフェクター

外部のエフェクターを使う場合、リアパネルのSEND端子(モノラル・アンバランス・標準ホンジャック)をエフェクターのモノ入力に接続します。

そしてエフェクターのステレオ出力を本機のRETURN(L、R)端子(モノラル・アンバランス・標準ホンジャック)に接続します。

メモ

DP-02にはリバーブが内蔵されていますが、外部のエフェクターを使うこともできます。

外部ステレオ入力

本機にはSTEREO MIX端子(φ3.5ステレオミニジャック)が装備されています。この端子に入力された信号は本機のステレオマスター出力とミックスされてアナログのLINE OUTPUT端子に送られます。したがって本機と同期しているMIDI音源出力をSTEREO MIX端子に接続することにより、本機のトラック信号とMIDI音源を一緒にミックスすることができます。

なお、この端子に入力された信号はアナログのLINE OUTPUT端子だけに送られます。本機に録音することはできません。また本機で信号レベルの調整をすることもできません。

デジタル出力

オプティカルデジタルケーブルを使って、リアパネルのDIGITAL OUT端子とステレオデジタルレコーダーやモニターシステムのデジタル入力を接続します。

ヒント

DIGITAL OUT端子をCDやMDなどのデジタルレコーダーに接続し、同時にLINE OUT端子をモニター用に使用することができます。

LINE OUTPUT端子から出力されるアナログ信号と同じソースが出力されます(ただしSTEREO MIX端子から入力される信号は出力されません)。

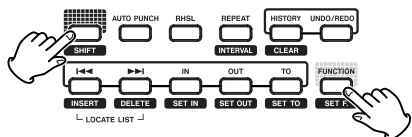
MIDI出力

リアパネルのMIDI OUT端子をシーケンサー、ドラムマシンなどに接続することにより、本機とこれらの機器をMIDI同期走行することができます。詳しくは「MIDIと一緒に使う」(51ページ)をご覧ください。

FUNCTION キーを設定する

FUNCTION キーを使って、あらかじめキーに登録した画面／機能をショートカット呼び出しすることができます。以下の手順で登録を行ないます。

- 1 SHIFT キーを押しながら FUNCTION キーを押します。



SET FUNCTION 画面が表示されます。



- 2 CURSOR▲/▼またはDATA ダイヤルを使って、ショートカット操作が可能な機能リストの中から希望の機能を反転表示します。

- 3 YES/ENTER キーを押します。

機能がFUNCTION キーに登録されます。

コントラストを設定する

LCD ディスプレーのコントラストを調整することができます。以下の手順でコントラストの調整を行ないます。

- 1 MENU キーを押します。
- 2 DATA ダイヤルを使って PREFERENCE 項目を反転表示させ、YES/ENTER キーを押します。

PREFERENCE 画面が表示されます。

- 3 CURSOR▲/▼キーを使って CONTRAST 項目を選択し、DATA ダイヤルを使ってLCDのコントラストを調整します。

選択肢は“1”～“10”です。数値が小さいほど表示が薄く、大きいほど濃くなります。

LCD は見る角度によって見えかたが変わります。コントラストを調整することで見えやすくなる場合がありますので、本機を使用するポジションで実際の表示を見ながら調整してください。

PREFERENCE	
PreRoll (sec)	: 2.0
PostPoll (Sec)	: 1.0
CONTRAST	: 05
N.SUPPRESSOR	: 10

本機はソングと呼ばれる単位でデータを管理します。通常、曲ごとにソングを割り当てます。作業を行なうときは、まず初めに、希望のソングをロードします（既存のソングをロードするか、あるいは新たなソングを作成）。

本章では、パーティションの説明に始まり、ソングのロード方法や新しいソングの作成手順といった基本操作から、各種のソング管理機能までを説明します。

ハードディスクの管理 [DP-02のみ] やコンパクトフラッシュカードの管理 [DP-02CFのみ] の詳細は、「ハードディスクの管理 [DP-02のみ]」（53ページ）、「コンパクトフラッシュカードの管理 [DP-02CFのみ]」（55ページ）をご覧ください。

パーティションとソング

ソングのデータの記録先は、DP-02では内蔵ハードディスク、またDP-02CFではセットしたコンパクトフラッシュカードです。DP-02の内蔵ハードディスクやDP-02CFのコンパクトフラッシュカードは、パーティションに仕切られています。

パーティションには、ソングデータを記録するための「MTRパーティション」と、パソコンからの読み込みが可能な「FATパーティション」があります。また（DP-02CFであるサイズ以下のコンパクトフラッシュカードを使う場合を除いて）MTRパーティションは複数存在します。

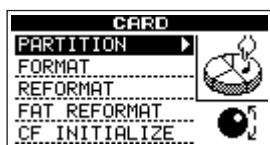
本機で録音、再生、編集などレコーダー操作を行なうには、作業対象のパーティション（アクティブパーティションと呼びます）を選択し、その中のソングをロードするか、あるいは新たにソングを作成します。

アクティブパーティションを選択する

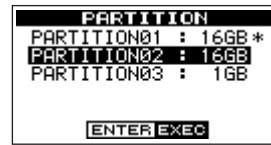
選択したアクティブパーティション上のソングをロードすることができます。また新規のソングをアクティブパーティション上に作成することができます。

- 1 [DP-02の場合] MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってDISKメニューを選択し、YES/ENTERキーを押します。

[DP-02CFの場合] CARDキーを押します。



- 2 CURSOR▲/▼キーを使ってPARTITION項目を選択し、YES/ENTERキーを押します。



MTRパーティションのリスト画面が表示されます。

アクティブパーティションには“*”が表示されています。

また、表示されている容量はパーティションのサイズです（空き容量ではありません）。

- 3 アクティブにしたいパーティションを反転表示し、YES/ENTERキーを押します。

確認メッセージ（Are you sure?）が表示されます。

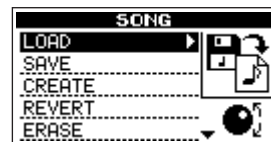
- 4 再度YES/ENTERキーを押します。

現在ロード中のソングが保存され、新しいパーティションから前回ロードされたソングがロードされます。

ソングをロードする

以下の手順で、アクティブパーティション上の希望のソングをロードします。

- 1 SONGキーを押します。



SONGメニュー画面が表示されます。

- 2 DATAダイアルを使ってLOAD項目を反転表示し、YES/ENTERキーを押します。



LOAD画面が表示されます。現在ロード中のソングには“*”が付いています。

- 3 DATAダイアルを使ってロードしたい曲を反転表示し、YES/ENTERキーを押します。

現在ロード中のソングが保存され、選択したソングがロードされます。

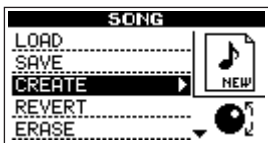
新しいソングを作成する

以下の手順で、アクティブパーティション上にソングを作成します。

- 1 SONG キーを押します。

SONG メニュー画面が表示されます。

- 2 DATA ダイアルを使って CREATE 項目を反転表示し、YES/ENTER キーを押します。



CREATE 画面が表示されます。



作成されるソングには、デフォルトのソング名 "SONG ***" (** * は番号) が付けられています。

- 3 必要に応じて「名前の編集」(24 ページ) で述べた方法に従って、タイトル (ソング名) を付けます。

ヒント

後からでも、SHIFT キーを押しながら MENU キーを押すことにより、現在ロードされているソングの名前を編集することができます。

- 4 YES/ENTER キーを押します。

現在ロードされているソングが保存され、新しいソングが作成されます。

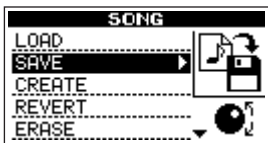
ソングを保存する

本機をシャットダウンするときや別のソングを呼び出すときなど、ソングが自動的に保存されますが、以下の手順でいつでもソングを保存することができます。

- 1 SONG キーを押します。

SONG メニュー画面が表示されます。

- 2 DATA ダイアルを使って SAVE 項目を反転表示し、YES/ENTER キーを押します。



SAVE 画面が表示されます。



- 3 ソング名を変更したいときは変更してから (→ 24 ページ「名前の編集」) YES/ENTER キーを押します。そのまま保存するときは単に YES/ENTER キーを押します。

ソングの保存中は "Storing Song"、保存が終了すると "Save Complete" と表示された後、SONG メニュー画面に戻ります。

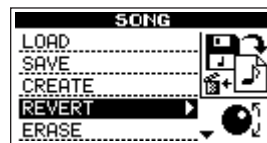
以前の状態に戻す

前回の保存の後でソングに加えた変更をすべてキャンセルして、以前のソング状態 (最後に保存操作を行なったときの状態) に戻すことができます。

- 1 SONG キーを押します。

SONG メニュー画面が表示されます。

- 2 DATA ダイアルを使って REVERT 項目を反転表示し、YES/ENTER キーを押します。



REVERT 画面が表示されます。



- 3 YES/ENTER キーを押します。

- 4 確認メッセージが表示されますので、再度 YES/ENTER キーを押します。

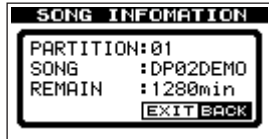
REVERT 操作をキャンセルするには NO/EXIT キーを押します。

ソング情報を見る

現在ロード中のソングの名前、現在のアクティブパーティション、録音残時間をチェックすることができます。

- 1 ホーム画面表示中、**SHIFT** キーを押しながら **SONG** キーを押します。

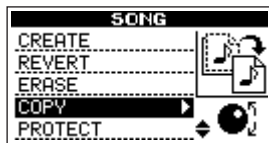
ソング情報が以下のように表示されます。



ソングをコピーする

あるソングを別のMTRパーティションにコピーすることができます。複数のソングをまとめて一括コピーすることもできます。

- 1 **SONG** キーを押します。
SONG メニュー画面が表示されます。
- 2 **DATA** ダイアルを使って **COPY** 項目を反転表示し、**YES/ENTER** キーを押します。



COPY 画面が表示されます。



- 3 **CURSOR**▲/▼キーを使ってコピーしたいソングを反転表示し、**DATA** ダイアルを右に回します。

コピー元として選択され、チェックボックスがチェックされます。



メモ

チェックボックスのチェックを外したいときは、反転表示した状態で**DATA** ダイアルを左に回します。

- 4 複数のソングをコピーする場合、手順3を繰り返します。

- 5 コピーするソングをすべて選択したら、**YES/ENTER** キーを押します。

コピー先のパーティションを選択する画面が表示されます。

- 6 **DATA** ダイアルを使ってコピー先パーティションを選択し、**YES/ENTER** キーを押します。

確認のメッセージ (**Are you sure?**) が表示されます。

- 7 **YES/ENTER** キーを押します。

コピーが実行され、終了すると **COPY** 画面に戻ります。

- ソングコピーをキャンセルしたいときは、**YES/ENTER** キーを押す代わりに **NO/EXIT** キーを押します。

ソングを消去する

ソングを消去することができます。複数のソングをまとめて一括消去することもできます。メディアの空き容量が少なくなった場合、不要なソングを消去しましょう。

- 1 **SONG** キーを押します。
SONG メニュー画面が表示されます。
- 2 **DATA** ダイアルを使って **ERASE** 項目を反転表示し、**YES/ENTER** キーを押します。



ERASE 画面が表示されます。



- 3 **CURSOR**▲/▼キーを使って消去したいソングを反転表示し、**DATA** ダイアルを右に回します。

消去するソングとして選択され、チェックボックスがチェックされます。



メモ

チェックボックスのチェックを外したいときは、反転表示した状態で**DATA** ダイアルを左に回します。

- 複数のソングを消去する場合、手順3を繰り返します。
- 消去するソングをすべて選択したら、YES/ENTERキーを押します。
確認のメッセージ (Are you sure?) が表示されます。
- YES/ENTERキーを押します。
消去が実行され、終了するとERASE画面に戻ります。
- ソング消去をキャンセルしたいときは、YES/ENTERキーを押す代わりにNO/EXITキーを押します。

ソングをプロテクトする

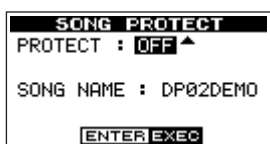
ソングをプロテクトすることにより、そのソングに対する編集、録音、消去といった操作ができなくなります。

- SONGキーを押します。
SONGメニュー画面が表示されます。
- DATAダイアルを使ってPROTECT項目を反転表示し、YES/ENTERキーを押します。



プロテクトのオン/オフを設定するPROTECT画面が表示されます。

- DATAダイアルを使ってPROTECTを“ON”に設定し、YES/ENTERキーを押します。



- コピー、削除などを行なうときに表示されるソングリスト上では、プロテクトされたソングの脇に錠アイコンが付いています。
- プロテクトされたソングに対して禁止操作（編集、録音、消去）を実行しようとすると、ディスプレイに“Song Protected”と表示され、操作を受け付けません。
- プロテクトされたソングのプロテクトを解除するには、上記の手順3でPROTECTを“OFF”に設定します。

使わないソングデータを消去する

ソングデータは必ずしも聞こえるパートのデータだけではありません。オーディオ編集によってカットまたは上書きをした場合、聞こえないパートのデータもソング内に含まれています。履歴をクリアすると、これらの使われていないデータが消去され、現在のソング状態だけが残ります。この操作を行なうことによって、メディアの空き容量を増やすことができます。

- SHIFTキーを押しながらHISTORY (CLEAR) キーを押します。

HISTORY CLEAR画面に確認メッセージが表示されます。



- YES/ENTERキーを押します。

再度、確認メッセージが表示されます。



- YES/ENTERキーを押します。

履歴がクリアされ、不要なデータが削除されます。

- 履歴のクリアをキャンセルしたいときは、YES/ENTERキーを押す代わりにNO/EXITキーを押します。

ヒント

クリア操作を行なった直後に履歴画面を見ると、イベント（操作）番号“0”（START UP）のみが表示され、すべての履歴がクリアされたことを確認できます。

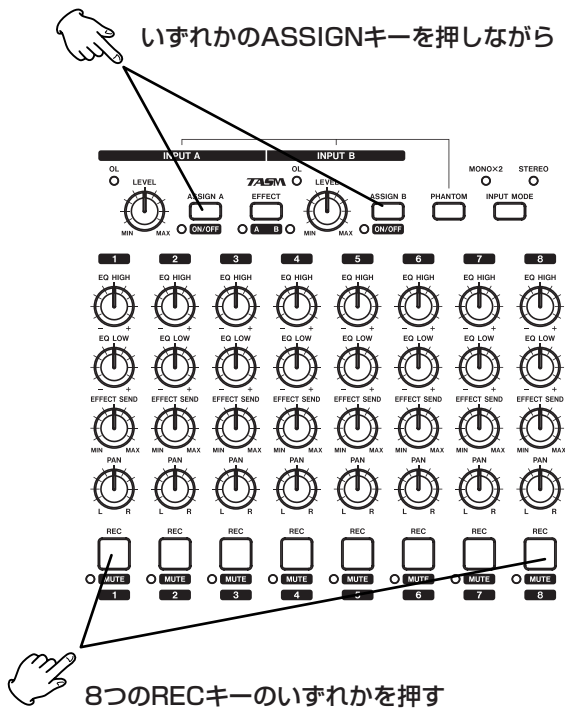
注意

この操作は取り消し（UNDO）できません。よく確認してから削除を実行してください。

入力をアサインする

本機において「入力をアサインする」ということは、2つの入力（INPUT AとINPUT B）信号をそれぞれのトラックの録音ソースにするかということです。

本機では同時に最大2トラックの録音が可能です。1つの入力を2つのトラックに同時にアサインすることもできます（この場合はもう一方の入力は使用できません）。2つの入力を同じトラックにアサインすることはできません。



- 1 アサインする入力信号（AまたはB）に対応するASSIGNキー（ASSIGN AキーまたはASSIGN Bキー）を押しながらアサイン先のトラックのRECキーを押します。

RECキーが速く点滅します。

ヒント

SHIFTキーを押しながらASSIGNキー（AまたはB）を押すと、入力のオン/オフが切り換わります（オン時にインジケータ点灯）。ノイズを低減するために、使用しない入力をオフにしておくことをお勧めします。

- 入力を別のトラックにアサインしたい場合、まず現在のアサインをクリアしてから（以下参照）、改めて入力のアサインを行いません。

ASSIGNキーを押したままにすると、すでに入力のアサイン先に指定されているトラックのRECキーが点滅します。

アサインをクリアする

- 1 ASSIGNキーを押したままにして、現在のアサインを確認します。その状態で点滅しているRECキーを押します。

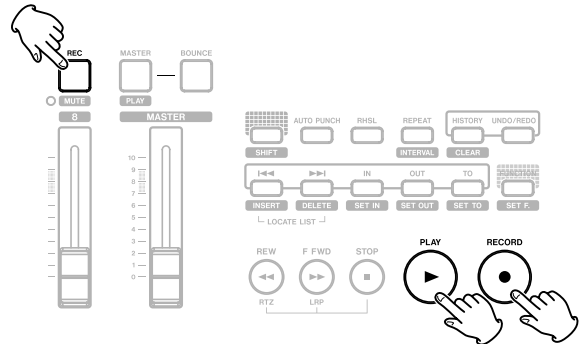
点滅していたRECキーが消灯します。

レコーディング

録音ソースを接続して、入力をトラックにアサインしたら、いよいよレコーディングです。

メモ

DP-02には入力用のエフェクター（EFFECT）が装備されています。詳しくは「マルチエフェクト」（44ページ）をご覧ください。



- 1 録音するトラックのRECキーを押します。

キーがゆっくりと点滅します（この状態を「録音待機状態」と言います）。

- 2 RECORDキーを押しながらPLAYキーを押します。

RECORDインジケータが赤く点灯し、PLAYインジケータが緑色に点灯します。トラックのRECインジケータが点滅から点灯に変わります。

- 3 録音が終わったらSTOPキーを押します。

- 4 録音を開始した位置に戻すには、STOPキーを押しながらFWDキーを押します。（LRP = Last Recording Point機能）

ゼロポイントに戻すには、STOPキーを押しながらREWキーを押します。（RTZ = Return To Zero機能）

- 5 PLAYキーを押して、録音したトラックを再生します。

トラックフェーダーとMASTERフェーダーを使って、再生レベルを調節します。最終的なモニター音量はヘッドホンつまみ、またはモニターシステムのボリュームを使って調節します。

メモ

フェーダーや他のミキサーつまみは、録音済みトラックの再生出力信号をコントロールします。入力信号はコントロールされません。

パンつまみを使って、左右スピーカー間における各トラック信号の定位を設定します。パンつまみを回していくとセンター位置でクリック感があります。

イコライザーつまみ（EQ HIGHとEQ LOW）を使って、それぞれ高音と低音のトーンコントロールを行いません。パンつまみと同様、センター位置でクリック感があります。この位置（センター）ではトーンコントロールがオフになります。

ヒント

イコライザーつまみの周波数設定を変更することができます。詳しくは「EQ」(35ページ)をご覧ください。

- 録音したサウンドに満足できなかったら、上記の手順を初めから繰り返します。
- 録音したサウンドが気に入ったら、トラックの**REC**キーを押して録音待機を解除します。そして入力を別のトラックにアサインし、そのトラックを録音待機にして、録音を行ないます。
- **REW**キー／**F FWD**キーを押すと、早戻し／早送りを行ないます(テープレコーダーのように)。これらのキーを押したままにすると、早戻し／早送りのスピードが速くなります。**STOP**キーを押すと停止します(テープレコーダーと同様)。

さまざまなテクニック

ここでは録音時のさまざまなテクニックについて説明しますが、機能の紹介にとどめます。それぞれの機能の詳細についてはそれぞれの該当個所で説明します。

マークなどを使ったロケート機能

あらかじめ、希望の位置にロケートマークを設定することができます(最大999ポイント)。ロケートマーク間のスキップや希望のロケートマーク位置にロケートすることができます。

- 詳しくは「ロケート(移動)機能」(39ページ)をご覧ください。

パンチイン／アウト

パンチイン／アウトでは、レコーダーが再生モードからそのまま止まらずに録音モードに入り(パンチイン)、録音モードから止まらずに再生モードに入ります(パンチアウト)。

本機では3通りの方法でパンチイン／アウトを行なうことができます。

- 少なくとも1トラックが録音待機状態(**REC**キーが点滅)で、ソングを再生しているとき、**RECORD**キーを押すとパンチインが実行されます。録音中に**PLAY**キーを押すと、パンチアウトが実行されます。
- フロントパネルの**PUNCH**端子にTASCAM RC-30Pなどのフットスイッチを接続している場合で、少なくとも1トラックが録音待機状態(**REC**キーが点滅)のとき、走行中にフットスイッチを押すたびに再生と録音切り替わりします。
- あらかじめパンチインポイントとパンチアウトポイントを設定しておき、自動的にパンチイン／アウトを実行することができます。詳しくは「IN／OUT／TOポイント」(40ページ)および「オートパンチイン／アウト」(40ページ)をご覧ください。

トラック数を増やすテクニック

本機には8つのトラックがありますが、8トラックでは足りない場合もあるでしょう。

そんなときは、録音済みトラックを再生してステレオミックスを作り、それを別のトラックに録音します(トラックバウンズ)。そして録音済みトラックには新たなソースを録音します。こうして、実質的にトラック数を増やすことができます。詳しくは「トラックバウンズ(トラックをまとめる)」(42ページ)をご覧ください。

トラック編集

本機はテープレスのレコーダーですので、テープレコーダーでは不可能なトラック編集を簡単に行なうことができます。

オーディオデータのコピー、カット、ペーストといった本機で可能な編集操作については「トラックの編集」(58ページ)をご覧ください。

操作の取り消し(UNDO)

多くのコンピュータシステムのように、本機の操作の多くは取り消し(**UNDO**)が可能です。たとえば消すべきでない個所に誤って上書きしてしまったレコーディング操作を取り消すことができます。

“取り消し”(**UNDO**)および“取り消しの取り消し”(**REDO**)に関する詳細は「実行した操作を取り消す(**UNDO**)」(37ページ)をご覧ください。

ミックスダウン

録音した個々のトラックの音質、音量、定位などを調整し、それらをミックスして曲としてバランス良く仕上げるのがミックスダウンです。

レベルとバランス

8本のトラックフェーダーを使ってトラックの相対バランスを調節します。そして**MASTER**フェーダーを使って全体のレベルを調節します。ディスプレイの右にあるL/Rメーターを見ながらレベルが適正になるように調節します。大きすぎると音が歪みます。

メモ

ホーム画面のトラックメーターには、トラックに録音された信号のレベルが表示されます。したがって、トラックフェーダーを動かしてもメーターのふれは変わりません。

ヒント

曲全体を通して同じ音量にする必要はありません。たとえば、ギターソロの間に徐々に音量を上げる、といったことも可能です。

EQ

EQ HIGHつまみと**EQ LOW**つまみを使って、トラックごとに高音と低音を調節します。以下の方法でEQのポイント周波数を変更することができます。

1 **FREQ**キーを押します。

FREQ画面が表示されます。

EQ FREQUENCY							
1	2	3	4	5	6	7	8
10k	10k	10k	10k	10k	10k	10k	10k
100	100	100	100	100	100	100	100
10k	10k	10k	10k	10k	10k	10k	10k
100	100	100	100	100	100	100	100

画面にはチャンネル1～8それぞれの高域(H)と低域(L)のEQのポイント周波数が表示されています。

2 **CURSOR** (▲/▼/◀/▶) キーを使って項目を選択し、**DATA**ダイヤルを使って値を設定します。

高域(H)は、1.7kHz～18kHzの範囲から選択します(初期設定は10kHz)。

低域(L)は、32Hz～1.6kHzの範囲から選択します(初期設定は100Hz)。

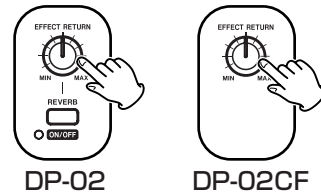
3 設定を終えたら、**FREQ**キー、**NO/EXIT**キーまたは**HOME**キーを押して、ホーム画面に戻します。

エフェクター

DP-02では内蔵のリバーブを使うことができます。DP-02およびDP-02CFでは、本機の**SEND**端子と**RETURN**端子を外部エフェクターに接続することができます。

DP-02内蔵のリバーブを使う場合も外部エフェクターを使う場合も、各トラックの**EFFECT SEND**つまみを使ってリバーブ/エフェクターに送るトラック信号のレベルを調節します。リバーブ/エフェクターをかけたくないトラックは**EFFECT SEND**つまみを絞ります。

また**EFFECT RETURN**つまみを使って、内蔵リバーブまたは外部エフェクターからのリターン信号のレベルを調節します。



DP-02内蔵リバーブを使うときは、**SHIFT**キーを押しながら**REVERB**キーを押して、内蔵リバーブをオンにします。

REVERBキー下部のインジケーターがオン/オフ状態を表示します。

- DP-02で外部エフェクターを使うときは、内蔵リバーブをオフにください。内蔵リバーブがオンのときは、**SEND**端子と**RETURN**端子が機能しません。

DP-02の内蔵リバーブの使い方の詳細は「リバーブ」(49ページ)をご覧ください。

定位 (パン)

PANつまみを使って、ステレオミックスにおける各トラック信号の左右の定位を設定します。

ミュート

トラックのサウンドをミュート(消音)するには、**SHIFT**キーを押しながらトラックの**REC**キーを押します。**MUTE**インジケーターが点灯してトラックがミュートされます。ミュートを解除するときも**SHIFT**キーを押しながらトラックの**REC**キーを押します。

ヒント

2つのトラックに同じパートの別のテイクを録音した場合、ミュート機能をうまく使って2つのテイクを切り換えることができます。

また演奏していないパートをミュートすることにより、ノイズを減らすことができます。

マスタリング

納得のいくミックスができれば、実際のステレオレコーディングを行ない、ステレオマスターを作成します。この工程がマスタリングです。

レコーディングされたステレオマスターは、ソングの一部として保存されます。

本機では作成したステレオマスターをステレオレコーダーに録音できるほか、WAV ファイル形式に変換してパソコンにエクスポートし、パソコン上でさらにサウンド処理やレコーディングを行なうこともできます。(→67ページ「ステレオマスターをエクスポートする」)

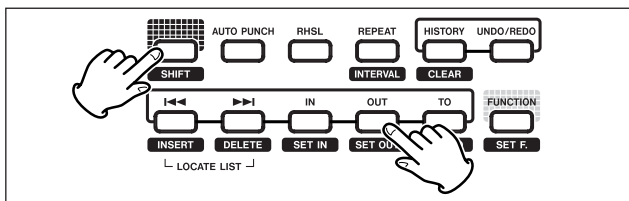
マスタリングを実行する前に、マスタリングの終了点を設定します。ソングの00:00:00:00 (ゼロポイント) からOUTポイントまでの範囲が、ステレオマスターとしてレコーディングされます。

通常OUTポイントは曲の終わりの時間に設定します。従ってOUTポイントの時間が、その曲の長さになります。

メモ

ソング内で作成できるステレオマスターは一つです。

- 1 マスタリングの終了点にしたい位置で、SHIFT キーを押しながらOUTキーを押します。



メモ

OUTポイントを修正する方法など、詳しい情報は「IN/OUT/TOポイント」(40ページ)をご覧ください。

- 2 MASTERキーを押します。

マスターレコーディングモードに入り、キーが点滅します。

この状態で録音や再生を行なうと、ヘッドホンやモニターシステムからは、トラックのミックス信号が聞こえます。

メモ

本機がマスターモードのとき(MASTERキーが点灯または点滅時)、再生機能などで機能しないものがあります。こうした機能を実行しようとする、ポップアップメッセージ(“In Master Mode”)が表示されます。

- 3 RECORDキーを押しながらPLAYキーを押します。

マスターレコーディングが始まります(RECORDインジケーターとPLAYインジケーターが点灯します)。

必要に応じてミックスの操作(フェーダー、パンなど)を行ないます。ここでの操作は最終のステレオマスターのサウンドに影響を与えます。

再生位置がOUTポイントに到達すると、レコーディングが自動的に終了します。

メモ

レコーダー位置がどこであっても、00:00:00:00からレコーディングが始まります。

- 4 SHIFTキーを押しながらMASTERキーを押します。

MASTERキーが点灯し、マスター再生モードになります。

この状態で、作成したステレオマスターを再生することができます。

- 5 PLAYキーを押すと、いま作成したステレオマスターが再生されます。

ステレオマスター信号はアナログ(LINE OUT端子およびPHONES端子)とデジタル(DIGITAL OUT端子)の両方から出力されますので、外部のステレオレコーダーに録音することができます。

ヒント

DP-02では、内蔵のCD-RWドライブを使ってステレオマスターをCDに焼くことができます。(→69ページ「オーディオCDを作成する」)

- 6 納得のいくステレオマスターを作成できたら、SHIFTキーを押しながらMASTERキーを押してマスターモードを終了します(MASTERキー消灯)。

マスタリングをやり直したい場合、MASTERキーを押してマスターレコーディングモードにして(キー点滅)、マスターレコーディングをやり直します。新しいステレオマスターが以前のステレオマスターを上書きします。

- 保存されているソングに録音されているステレオマスターを聞くには、そのソングをロードしてからSHIFTキーを押しながらMASTERキーを押して点灯させ(マスター再生モード)、PLAYキーを押して再生します。
- マスタリングの段階で、本機にMIDI同期したドラムマシンやMIDI音源の出力をINPUT AとBに接続することにより、これらの信号をミックスしてステレオマスターを作成することができます。

メモ

マスターレコーディング中、STEREO MIX端子に入力される信号をモニターすることができますが、ステレオマスターに録音することはできません。

- 再生しているステレオマスターに **STEREO MIX** 入力信号をミックスして、アナログ出力から出力することができます。したがって、本機に MIDI 同期したドラムマシンや MIDI 音源の出力を **STEREO MIX** 端子に接続することにより、ステレオマスターとこれらの音をミックスして外部ステレオレコーダー（カセット、CD、MD など）に録音することができます。

ヒント

- 本機で作成したマスターミックスのファイルをコンピューターで再生できるファイルとして書き出すには、USB 経由でコンピューターに転送します。（→67 ページ「ステレオマスターをエクスポートする」）
- ステレオマスターをトラック 1～8 のうちのいずれかのペアトラックにコピーして「クローン」トラックを作ることができます。（→61 ページ「クローントラック（トラックの複製）[CLONE TRACK]」）

実行した操作を取り消す (UNDO)

本機の操作上のミスをしてしまったときや、レコーディングがうまくいかなかったときなど、操作を取り消すことができます。編集操作、録音操作など、多くの通常の操作は取り消しが可能です。

最後に行なった操作を取り消す (シングルアンドゥ)

UNDO/REDO キーを押します。

最後の操作を行なう前の状態に戻ります。

この状態で UNDO/REDO キーが点灯し、リドゥ（以下参照）が可能です。

UNDO 操作を取り消すには (リドゥ)：

UNDO/REDO キーが点灯中に、このキーを押します。

ある操作以降の操作を取り消して、以前の状態に戻す (マルチアンドゥ)

1 HISTORY キーを押します。

HISTORY 画面が表示されます。

画面にはイベント（操作）番号“0”（START UP）から始まる操作のヒストリー（今までの操作履歴）が、操作順にリスト表示されます。いちばん上の行が最新の操作です。最新のイベントの脇には矢印が付いています。

このリスト内の指定イベント以降の操作を取り消すことができます。

HISTORY	
WAVE IMPORT	4 *
MASTERING	3
MASTERING	2
RECORDING	1
---START UP---	0
[ENTER]EXEC	

- 2 **DATA** ダイアルを使って、操作をさかのぼりたいイベントを選択します（選択したイベント以降の操作が取り消されることとなります）。

3 YES/ENTER キーを押します。

マルチアンドゥが実行され、本機は選択したイベントに戻ります。この状態で **HISTORY** キーが点灯します。

上記によって取り消された操作は情報が消えるわけではありません。本機の状態がさかのぼっているだけです。リスト上では、**UNDO** によってさかのぼったイベントの脇に * が表示されます。

マルチアンドゥした状態（**HISTORY** キー点灯）で新たに録音や編集作業を行なうと、現在のイベントより新しいイベント履歴がクリアされ、新たに行なった作業が最新イベントとして登録されます。

メモ

取り消された操作を完全に消去するには、ヒストリーのクリアを行ないます（→32 ページ「使わないソングデータを消去する」）。

メモ

マルチアンドゥを行なった状態で、**UNDO/REDO** キーを使ってシングルアンドゥとリドゥができます。

注意

ソングセーブ時（パワーオフ時のシャットダウン時を含む）にソングデータとして記録される操作履歴は最大500項目です。操作履歴が500項目を超えている場合、ソングセーブ時に古い操作履歴が削除されます。このときに削除された操作履歴は復活することはできません。

メーターについて

ホーム画面のメーターによって、本機のオーディオのレベルをチェックすることができます。

メーターは信号のレベルを監視するためのものですが、本機に信号が入力されているかどうかをチェックするときにも使うことができます。たとえばモニターに何も聞こえないのに入力メーターが振れている場合、本機には信号が入力されていることとなります（この場合、モニター機器の設定に問題がある可能性があります）。

メーターの一番上に“—”が表示される場合、レベルがピークに達しています（“—”表示はしばらくホールドされた後、自動的に消えます）。この状態ではサウンドが歪んでいる可能性がありますので、“—”が表示されないよう、レベルを下げてください。デジタル歪みは（真空管アンプの歪みなどと違って）不快なサウンドですので、避けなければなりません。



入力メーター（INPUT A、B）

左の2本のメーターは本機の入力（AとB）の入力レベルを表示します。

フロントパネルのレベルつまみ、またはソースの出力ボリュームを使ってレベルを調節します。

トラックメーター（TRACK 1-8）

これらのメーターはトラックの再生信号レベルまたはトラック入力信号レベルを表示します。

フェーダーはトラックに送られる信号のレベルをコントロールしませんので、メーター表示はフェーダーの位置によって影響されません。

トラックメーターは動作状態に応じて下記の信号のレベルを表示します。

- RECキー消灯時：トラック再生信号
- RECキー点滅（録音待機）で再生時：トラック再生信号
- RECキー点滅（録音待機）で再生以外の時：トラック入力信号
- RECキー点灯時（録音時）：トラック入力信号

ステレオメーター（L、R）

本機のステレオ出力のレベルを表示します。マスターレベルはMASTERフェーダーによってコントロールされます。

本章ではさらに本機を活用するための操作／機能を紹介します。

ロケート(移動)機能

ソング内のいろいろな位置にロケートする方法を説明します。

ダイレクトロケート

本機のディスプレイ上部には、現在のレコーダー位置が「時：分：秒：フレーム」として時間表示されています(30フレームで1秒)。

メモ

本機は現在の位置をバー／ビート単位(音楽的な小節数と拍数)で表示することもできます。(→50ページ「バー／ビートを基準に作業する」)

1 本機が停止中でホーム画面表示中、**DATA**ダイヤルを回します。時間表示が点滅します。

2 **CURSOR**◀/▶キーを使って、時間桁間でカーソル(下線)を移動します。

カーソル位置の桁の値を編集することができます。

下図の例では「秒」桁が選択されています。



3 **DATA**ダイヤルを使ってカーソル桁の値を変えます。

それぞれの桁は自動繰り上げ／繰り下げされます。たとえばプラス方向にダイヤルを回転して59秒から0秒になったとき、分桁の値が1つ大きくなります。**DATA**ダイヤルを使うと時間表示が点滅します。数秒間**DATA**ダイヤルに触れないか、または**YES/ENTER**キーを押すと、点滅が止まります。

4 別の桁を編集するには、**CURSOR**◀/▶キーを使って桁を移動し、**DATA**ダイヤルを使って値を変更します。

5 希望の時間値を設定後**PLAY**キーを押すと、その位置から再生が始まります。

ロケートマーク

本機では、1つのソングにつき999ポイントのロケートマークを設定することができます。イントロの始まるポイント、ボーカルに入るポイントといった個所にマークを付けておくと便利です。

ロケートマークを設定するには

(停止中、録音中、再生中に)ロケートマークを設定したい位置で**SHIFT**キーを押しながら**◀◀**(**INSERT**)キーを押します。

ホーム画面の2行目にマーク番号が表示されます。表示されるマーク番号は現在位置のマークまたは直前のマークの番号です。



メモ

登録順にマーク番号が付きます。ソング内の位置順ではありません。したがってマーク999がマーク001より手前にあるというような場合もあり得ます。

ロケートマークにロケートするには

再生中、停止中、早巻き中に、**◀◀**キーまたは**▶▶**キーを押すと、ソング内の手前または次のロケートマークにロケートします。録音中はこの操作ができません。

またロケートマークリストから選ぶ方法もあります。**◀◀**キーと**▶▶**キーを同時に押すと、ロケートマークリストが表示されます(ソング内の設定位置順に表示)。



DATAダイヤルを使って希望のロケートマークを選択して**YES/ENTER**キーを押すと、そのポイントにロケートします。

ロケートマークを削除するには

レコーダーが停止中に、削除したいロケートマーク(またはロケートマークより少し後)にロケートします。そして**SHIFT**キーを押しながら**▶▶**(**DELETE**)キーを押します。

メモ

この操作は取り消し(**UNDO**)できません。

ロケートマークを編集するには

ロケートマークを設定した後で、ロケートマークの時間を編集することができます。

ヒント

一般に「トリミング」と呼ばれています。

1 **◀◀**キーと**▶▶**キーを同時に押して、ロケートマークリストを表示します。

2 **DATA**ダイヤルを使ってマークを選択し、**CURSOR**▶キーを押します。

メモ

マークは時間順に表示されます。番号順ではありません。



3 DATAダイアルを使って時間値を、1/10フレーム単位（いちばん右の桁）で増減します。

ただし手前のマークポイントより手前、または次のマークポイントより後にポイントを設定することはできません。

ヒント

1/10フレームは1/300秒、つまり約3.3ミリ秒です。

4 編集を終えたらYES/ENTERキーを押します。

編集した値が確定し、画面はロケートリスト画面に戻ります。

YES/ENTERキーを押す代わりにNO/EXITキーを押すと、編集がキャンセルされてロケートマークリスト表示に戻ります。

IN/OUT/TOポイント

INポイントとOUTポイントはオートパンチイン/アウトにおけるパンチインポイントとパンチアウトポイントとして使われるほか、リピート再生やトラック編集の範囲設定（始点と終点）に使われるポイントです。また、TOポイントはトラック編集の編集先として使われるポイントです。録音時、再生時、停止時のいずれでも、これらのポイントを設定することができます。

INポイント/OUTポイント/TOポイントを設定するには

SHIFTキーを押しながらIN (SET IN) キー/OUT (SET OUT) キー/TO (SET TO) キーを押します。

INポイント/OUTポイント/TOポイントにロケートするには

INキー/OUTキー/TOキーを押します。

INポイント/OUTポイント/TOポイントを編集するには

SHIFTキーを押しながらTRACK EDIT (POINT EDIT) キーを押すと、以下の画面が表示されます。



1 CURSOR▲/▼キーを使って、編集したいポイントを選択します。

編集ポイントのサブフレーム桁にカーソルが表示されます。

2 CURSOR◀/▶キーを使ってカーソルを移動し、DATAダイアルを使って数値を変更します。

3 編集を終えたらYES/ENTERキーを押します。

オートパンチイン/アウト

本機では3通りのパンチイン/アウトのやり方があります。これらのうち、走行中にPLAYキーまたはRECORDキーを押す方法、および走行中にフットスイッチを押す方法は、いずれも手動による方法です。ここではもう一つの方法、オートパンチイン/アウトを詳しく説明します。

リハーサル

本機のオートパンチイン/アウトでは、実際に録音を行なう前にリハーサルを行なうことができます。リハーサルでは実際の録音は行なわれませんが、実際の録音と同じようにモニターが切り換わりま

ヒント

AUTO PUNCHインジケータ消灯時にRHSLキーのみを点灯させて、マニュアルパンチインでのレコーディングのリハーサルを行なうこともできます。

1 あらかじめINポイントとOUTポイントを設定します。(→40ページ「IN/OUT/TOポイント」)

録音を開始したいポイントをINポイント、録音を終了したいポイントをOUTポイントにします。

2 入力(A、Bまたは両方)をトラックにアサインし(→33ページ「入力をアサインする」)、トラックを録音待機にします(=トラックのRECキーを押して点滅させます)。

ヒント

失敗したパートをオートパンチイン/アウトで修正する(置き換える)場合、エフェクターやEQが以前の録音と同じ設定であることを確認してください。

3 AUTO PUNCHキーを押して点灯させます。

メモ

INポイントとOUTポイントが近すぎると、オートパンチイン/アウトモードに入ることができません。INポイントとOUTポイントは15フレーム以上離れている必要があります。

4 RHSLキーを押して点灯させます。

5 PLAYキーを押します。

INポイントの手前のプリロールポイントから再生が始まります(PLAYインジケータ点灯)。

INポイントまで来ると、録音待機トラックの再生信号が聞こえなくなります。そしてRECORDインジケータが点滅を始

ヒント

IN/OUTポイントの位置を変更したい場合、AUTO PUNCHキーを押してインジケータを消灯してからIN/OUTポイントを編集してください。(→40ページ「IN/OUT/TOポイント」)

**聞こえるのは：**

プリロール位置からINポイントまで、トラックに録音されている信号の再生音が聞こえます (PLAYインジケータ点灯)。

録音されている信号の再生音がミュートされます (RECORDインジケータは、リハーサル時に点滅、本番時に点灯)。

トラックの再生が再開し、(RECORDインジケータ消灯) ポストロールポイントでレコーダーが停止。

入力信号は常に聞こえます。

OUTポイントまで来ると、録音待機トラックの再生信号が再び聞こえるようになります。そしてRECORDインジケータが消灯します。

ポストロールポイントまで再生すると、レコーダーが停止します。

次にリハーサルまたは本番を行なうときは、プリロールポイントから再生が始まります。

6 必要に応じて、リハーサルを何度でも繰り返すことができます。

ヒント

REPEATキーを押してリピートモードにした状態 (REPEATインジケータ点灯) でリハーサルを行なうと、プリロールポイントとポストロールポイント間で繰り返しリハーサルを行います。

パンチイン／アウトの実行

納得が行くまでリハーサルを行なったら、パンチイン／アウトの本番を実行します。

1 RHSLキーを押してインジケータを消灯させます (AUTO PUNCHインジケータは点灯のまま)。

2 PLAYキーを押します。

プリロールポイントから再生が始まります。

INポイントまで来ると、録音モードになります (RECORDインジケータが点灯します)。

OUTポイントまで来ると、録音から再生モードになります (RECORDインジケータが消灯)。

ポストロールポイントまで再生すると、レコーダーは停止します。

そしてオートパンチイン／アウトモードが解除されます (AUTO PUNCHインジケータが消灯)。

- オートパンチイン／アウトがうまく行かず、もう一度実行したい場合、AUTO PUNCHキーを押してインジケータを点灯してから、再度PLAYキーを押します (上記の手順2)。

プリロールタイムとポストロールタイムの設定

初期設定では、プリロールタイムは2秒、ポストロールタイムは1秒に設定されています。これらの時間を変更することができます。

1 MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってPREFERENCEメニューを選択し、YES/ENTERキーを押します。

PREFERENCE	
PreRoll (sec)	: 2.0
PostRoll (Sec)	: 1.0
CONTRAST	: 05
N. SUPPRESSOR	: 10

2 CURSOR▲/▼キーを使ってPreRoll (sec)項目またはPostRoll (sec)項目を選択します。

3 DATAダイアルを使って値を変更します。

ヒント

プリロールおよびポストロールタイムは1.0～9.9秒の範囲 (0.1秒ステップ) で設定可能です。

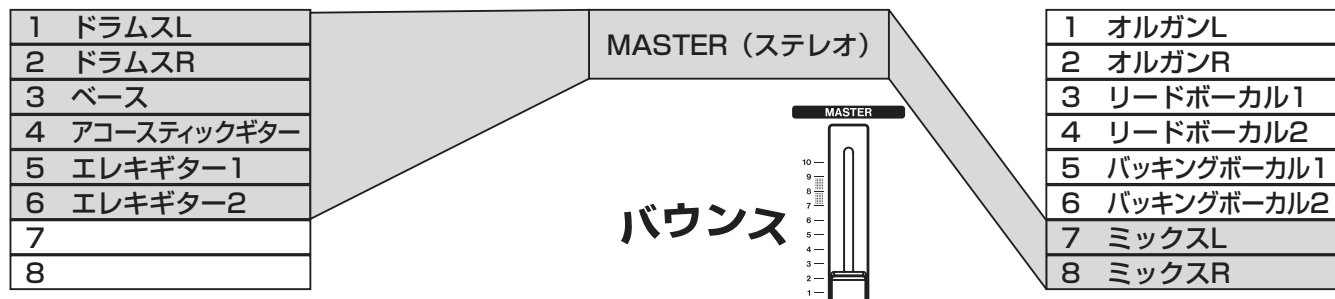
4 設定を終えたら、NO/EXITキーを押します。

設定が有効になります。

トラックバウンス (トラックをまとめる)

本機における「トラックバウンス」とは、録音済みトラックをミックスして、**MASTER** フェーダーを経由して未使用のペアトラックに録音することを言います。

下図はトラックバウンスの例です。



上図の例では、最初に本機のトラック **1～6** に、ドラムス (ステレオ)、ベース、2台のリズムギター (1台はアコースティックギター、もう1台はエレキギター)、およびリードギターが録音されています。さらにオルガン (ステレオ)、リードボーカル (2テイク)、バックアップボーカル (2人) を加えたいのですが、トラックはあと2つしか残っていません。

そこで、トラック **1～6** (バウンス元) をまとめてトラック **7-8** (バウンス先) に録音することにします。

1 録音済みトラック (上記例ではトラック **1～6**) が録音待機状態でないことを確認します。

ヒント

バウンスを行なう前にソングをコピーして別の名前を付けて保存することにより、オリジナルトラックをキープしておくことができます。

(→31 ページ「ソングをコピーする」)

2 **BOUNCE** キー (**MASTER** フェーダー上部) を押して点灯させます。

3 バウンス先のトラック (上記例ではトラック **7** と **8**) の **REC** キーを押して録音待機にします。

4 バウンス元のトラック (上記例ではトラック **1～6**) のフェーダー、EQ、パンを使ってステレオミックスを作ります。またこれらのトラックにエフェクトを掛ける場合は、この段階で掛けます。

5 **MASTER** フェーダーを使ってミックス全体のレベルを調節します。ディスプレイ右端の **L** と **R** のメーターを見ながら、レベルが最適になるように調整します。

6 レコーダーを曲の頭に戻します。

ヒント

一般的にはバウンス先として2つのトラックを選択しますが (ステレオミックスにするため)、バウンス先を1つのトラックにすることもできます (モノラルミックスになります)。

7 準備が整ったら、**RECORD** キーを押しながら **PLAY** キーを押して録音を始めます。

トラックバウンスが実行されます。

8 曲が終わったらレコーダーを停止し、**REC** キーを押して、バウンスモードをオフにします。

● トラックバウンスを終えたら、バウンス先のトラックをモニターしながらバウンス元のトラック (上記例ではトラック **1～6**) に新しい録音を行なうことができます。

ヒント

クローントラック機能を使って、さらに高度なトラックバウンスを行なうこともできます。(→61 ページ「クローントラック (トラックの複製) [CLONE TRACK]」)

リピート

リピート機能を使って、繰り返し再生を行なうことができます。またはオートパンチイン／アウトのリハーサル機能と組み合わせることにより、リハーサルを繰り返すことができます。

- 1 リピートしたい区間の始点と終点を、それぞれINポイントとOUTポイントとして設定します。(→40ページ「IN／OUT／TOポイント」)

メモ

REPEATインジケータ点灯中はこれらのポイントを設定できません。

- 2 REPEATキーを押してインジケータを点灯させます。

INポイントから再生が始まります。OUTポイントまで来ると、所定の間隔を置いてから（その間はPLAYインジケータが点滅）、再びINポイントから再生が始まります。

以後、INポイントとOUTポイント間を繰り返し再生します。

なお、OUTポイントまで再生してから再び再生を始めるまでの間隔を設定することができます(→43ページ「リピートの間隔を設定する」)

メモ

オートパンチイン／アウトのリハーサルはリピートすることができますが、オートパンチイン／アウトの本番をリピートすることはできません。

メモ

AUTO PUNCHインジケータ、RHSLインジケータおよびREPEATインジケータのすべてが点灯しているときに、RHSLキーを押してオートパンチイン／アウトの実行モードにすると、REPEATインジケータは自動的に消灯します。

- 3 リピート機能を解除するにはREPEATキーを押して、インジケータを消灯させます。

リピートの間隔を設定する

リピートの間隔を0.5秒～9.9秒の範囲で設定することができます。

- 1 SHIFTキーを押しながらREPEATキーを押して、以下の画面を表示させます。



ヒント

リピート間隔を長めに設定することにより、リピート機能を使ってリハーサルを繰り返す場合などに、ゆとりを持ってリハーサルを行なうことができます。

- 2 DATAダイヤルを使って、リピート間隔を0.5秒～9.9秒の範囲(0.1秒単位)で設定します。
- 3 設定を終えたら、NO/EXITキーまたはHOMEキーを押してホーム画面に戻します。

第8章 エフェクターとシグナルプロセッサ [DP-02のみ]

DP-02は、入力用のノイズサプレッサーとマルチエフェクト、およびミックスダウン用のリバーブを内蔵しています。

ノイズサプレッサー

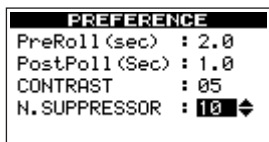
レコーディング時、マイクのバックグラウンドノイズやギターアンプのノイズなどが気になる場合があります。DP-02はノイズサプレッサーを内蔵し、入力信号があるレベル以下の場合に入力信号をカットすることができます。

なお、ノイズサプレッサーはマルチエフェクト動作中のみ有効です。

以下の手順でノイズサプレッサーの設定を行います。

- 1 MENUキーを押します。
- 2 DATAダイアルを使って PREFERENCE項目を反転表示させ、YES/ENTERキーを押します。

PREFERENCE画面が表示されます。



- 3 CURSOR▲/▼キーを使って N. SUPPRESSOR項目を選択し、DATAダイアルを使ってノイズサプレッサーの動作レベルを設定します。

選択肢は“1”～“60”および“OFF”です。数値が小さいほどノイズサプレッサーの動作レベルが下がります（より低いレベルの信号を通過させます）。

“OFF”に設定すると、ノイズサプレッサーが動作しません。

ノイズサプレッサーの動作レベルを高めに設定すると、静かな演奏パートで入力がカットされてしまう可能性があります。レコーディングを実行する前に、リハーサルで十分にチェックしながら動作レベルを設定してください。

マルチエフェクト

DP-02は入力信号用のマルチエフェクターを内蔵しています。エフェクトタイプ別にさまざまなエフェクト（エレキギター用、アコースティックギター用、ベースギター用、ボーカル用、ドラムス用）が用意されていますので、入力する音源に合わせて選択することができます。

エフェクターをアサインする

マルチエフェクトは、2系統の入力のうちのいずれか1つに対して使用することができます。

マルチエフェクターの出力はステレオですので、出力を2つのトラックにアサインすることができます。（→33ページ「入力をアサインする」）

- 1 SHIFTキーを押しながら EFFECTキーを押して、エフェクターをINPUT AまたはINPUT Bにアサインします。

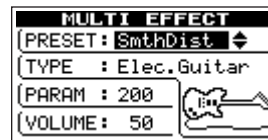
押すたびに、「Aインジケータ点灯→Bインジケータ点灯→両インジケータ消灯」が切り換わります。

エフェクトタイプを選択する

接続している入力ソースに応じて、エフェクトタイプを選択します。

- 1 EFFECTキーを単独で押します。

MULTI EFFECT画面が表示されます。



- 2 CURSOR▲/▼キーを使ってTYPE項目の値を反転表示させ、DATAダイアルを使って、エフェクトタイプを選択します。

Elec. Guitar	エレキギター
Aco. Guitar	アコースティックギター
Bass Guitar	ベースギター
Vocal	ボーカル
Drum	ドラムス

エフェクトタイプの選択にともなって、他の表示も変化します。

エフェクトを選択する

各エフェクトタイプごとに、いくつかのプリセットが用意されています。

エフェクトプリセットの種類とそれぞれの機能については、次ページの「エフェクト一覧表」をご参照ください。

CURSOR▲/▼キーを使って **PRESET** 項目の値を反転表示させ、**DATA** ダイアルを回して各エフェクトプリセットを選択します。

メモ

DATA ダイアルを右に回すと、全エフェクトタイプのエフェクトプリセット間を「エレキギター→アコースティックギター→ベースギター→ボーカル→ドラムス」の順にスクロールします。上記の **TYPE** 項目でエフェクトタイプを選択すると、そのエフェクトタイプの最初のプリセットが **PRESET** 項目に表示されますので、**DATA** ダイアルを右に回すことにより、目的のエフェクトプリセットを効率的に見つけることができます。

パラメータを設定する

各エフェクトごとに1つパラメータを設定できます。

パラメータの内容はエフェクトによって異なります。

CURSOR▲/▼キーを使って **PARAM** 項目の値を反転表示させ、**DATA** ダイアルを回して、パラメータ設定を行ないます。

エフェクトボリュームを設定する

CURSOR▲/▼キーを使って **VOLUME** 項目の値を反転表示させ、**DATA** ダイアルを回すことにより、エフェクトのボリューム(0~127)を設定することができます。

第8章 エフェクターとシグナルプロセッサ

マルチエフェクターのエフェクト一覧表

以下は、マルチエフェクターのエフェクトをエフェクトタイプ別に表にまとめたものです。

エレキギター用設定 (Elec.Guitar)

TraDist	オーソドックスなディストーションと、ショートディレイによるダブリングを組み合わせたサウンドです。
Tube OD	チューブアンプのオーバードライブサウンドにビブラートをかけ、アーミングしながら演奏した感じですか。
BlueDrv	オートワウを使用したサウンドです。ピッキングで音を短く切って弾くのがポイントです。
BlueSlid	軽くオーバードライブさせた音に、左右に振れるトレモロをかけたブルージーな音です。
R.Bottom	80年代のヘビーメタル向きのサウンドです。
ClsRock1	70年代のプリティッシュスタックのサウンドです。
ClsRock2	深めのドライブにディチューンコーラスを加えて、音に厚みのあるサウンドです。
MelSus	サスティーンが長めのサウンドです。ハムバッキングのフロントPUで弾くと甘いドライブサウンドが得られます。
SmthDist	粒の揃ったオーバードライブサウンドにエコーを組み合わせた、ソロ向きのサウンドです。
SpeeKing	シングルコイルPU向きのオーバードライブサウンドです。
Heavy1	プリティッシュスタックアンプにディストーションをプラスしたようなヘビーメタル向きのサウンドです。
Heavy2	ファジーなディストーションとジェットフランジャーの過激なサウンドです。
Heavy3	ディストーションとコーラスを組み合わせた太いサウンドです。
Metal	メタルディストーションのツインリードサウンドです。
80sRock1	エッジの効いたメタルサウンドです。
80sRock2	高域を抑えたディストーションサウンドに、深めのエコーを加えました。
90sRock	ブライトなディストーションにリバーブをかけた、ソロ向きのサウンドです。
FstChor	シングルコイル系のPUで、アルペジオやコード演奏に適しています。アコースティックギター的なサウンドを得たいときにも使えます。
CompChr1	高域を強調したサウンドに、プリディレイを長めに設定したコーラスで空間を演出しました。シングルコイルPU向きです。
CompChr2	爽やかな感じのバッキングサウンドです。
Rhythm1	エッジの効いたバッキングサウンドです。
Rhythm2	ジャジーな音楽にも向く、甘めのバッキングサウンドです。
Rhythm3	硬めの音質のバッキングサウンドです。
Funk	フェイザー効果を付加したファンキーな雰囲気を作ります。フュージョン系のバッキングにも最適です。
Groove	フランジャー効果を付加し、うねりのあるバッキングサウンドです。アルペジオ演奏にも合います。
Country	アタックが強めのコンプに、ショートエコーをかけたサウンドです。
Crying	ギターボリュームの位置によって、甘いトーンからエッジの効いたトーンまで、弾き手の感性を表現できるサウンドです。
Weeping	暖かみのあるオーバードライブサウンドです。
Fusion1	ロングサスティーンで甘いオーバードライブサウンドです。
Fusion2	ブライトなディストーションに、ロングディレイを使用したサウンドです。
ClnSolo	ロングサスティーン、ソロ向きのサウンドです。
PwrDist1	エコーをかけたプリティッシュスタックアンプサウンドです。
PwrDist2	アメリカンハードロック向きのディストーションにコーラスを加え、音に厚みを与えたサウンドです。
PwrDist3	荒削りなメタルディストーションサウンドです。
PwrDist4	エッジの効いたダブリングディストーションサウンドです。
Texas1	ブラックパネルアンプで鳴らしたようなサウンドです。
Texas2	芯のくっきりした、ハリのあるオーバードライブサウンドです。
Texas3	渋く決まるオーバードライブサウンドです。
Texas4	コーラスにより、広がりのあるオーバードライブサウンドです。
Swingy	中域にピークのある、暖かみのあるサウンドです。

FatJazz1	抜けのあるジャズギター向けのサウンドです。
FatJazz2	コンプのかかった太めのサウンドです。
R&B	ざらついた歪みのかかった、高域の強調されたサウンドです。
ClnVerb	クリーンなロングサスティーンサウンドです。
CtyBlues	太い音質のオーバードライブサウンドです。
Ltl Wng	ブライتناプリティッシュスタックアンプでのクランチサウンドです。
CoolPick	クランチサウンドに軽くフェイザーをかけた、立体感のあるサウンドです。
Fuzzy	ドライブの深いファジーなサウンドです。
Hazy	シングルコイルPUにピッタリのファズサウンドです。
BritCln	伝統的なプリティッシュコンボアンプをシミュレートしたクリーンサウンドです。
PowChord	バックギンに適したディストーションサウンドです。
BmLead	ピッチシフトで、7度上のサウンドをミックスしたソロ向けのディストーションです。
FIngGtr	トレブリーオーバードライブサウンドとジェットフランジャーの組み合わせです。
Oct.Dist	1オクターブ下のサウンドをミックスした重低音ディストーションです。
PhaseRev	フュージョン系のハーフトーンのバックギンに適したサウンドです。
Ensemble	ディチューンとフェイザーを加えた立体的なコーラスです。シングルコイルPU向きです。
Surf	サーフィンサウンドにぴったりのサウンドです。
Violin	バイオリン奏法をした時のようなサウンドです。ハムバックPUのような高出力PU向きです。
BlkPanel	有名なアメリカンコンボチューブアンプのトレモロとスプリングリバーブをシミュレートしたサウンドです。
UK Stack	おそらく最も有名なプリティッシュスタックアンプをシミュレートしたサウンドです。
Jimi Box	きめの粗いダーティーなディストーションです。
Mboogie	有名なアメリカンコンボアンプをシミュレートしたサウンドです。
HeartBrk	チューブのスタックアンプのローゲインサウンドです。
GentWeep	コーラスディストーションのうねりのあるサウンドで、むせび泣くようなソロに最適です。
Bfinger	ディチューンコーラスで厚みを加えたディストーションです。指弾きに最適です。
Tweed	シングルコイルPUのフロントPUで、ブルースを弾くのに最適なサウンドです。
RSCrunch	ウォームなクランチサウンドです。シングルコイルPU向き。
NightDrv	70年代のプリティッシュ・ハードロックのサウンドです。シングルコイルPU向きです。
Ult.Funk	強めのフェイザーで、ファンキーなカッティング向けのサウンドです。
Axe Bom	倍音の多いヘビーメタル向けのサウンドです。
Doctor	ペダルワウを途中で止めたようなサウンドです。
Sold No	最近のハイクオリティーチューブアンプをシミュレートしたサウンドです。
Run Away	ピッキングで音を短く切って弾くのがポイントです。
Remains	有名ミュージシャンのダブルネック 12弦のサウンドです。
Nostalgi	プリティッシュチューブアンプをベースにしたオーバードライブサウンドです。
RealDst1	ディストーションのみのサウンドです。大型のスタックアンプを意識しました。
RealDst2	ディストーションのみのサウンドです。アメリカ製の有名なコンボタイプの雰囲気です。
RealDst3	パワーチューブディストーションサウンドです。
RealDst4	有名な日本製アンプのサウンドにエコーを付加したようなサウンドです。

アコースティックギター用設定 (Aco.Guitar)

Heaven	抜けの良い音質に、高域の伸びたリバーブを付加したサウンドです。
Stroke	ディチューンコーラスによるコーラス効果とエコーにより、広がりのあるバックギンサウンドが得られます。
Solo	アコースティックギターのソロ演奏に適したサウンドです。
Blues	アコースティックギターで、スライド奏法をするのに適したサウンドです。
Arpeggio	ピッキングの粒を揃えたアルペジオ奏法に適したサウンドです。
12String	エキサイターで高域を強調したサウンドにコーラス効果を付加し、12弦ギターのような効果が得られます。
Crystal	高域の強調されたサウンドです。ギターの音の抜けが悪いときに適した効果です。

第8章 エフェクターとシグナルプロセッサ

Nashvill	太めのアコースティックサウンドです。ソロにも適しています。
Mellow	高域を抑えたメロウなサウンドです。スチール弦のギターからナイロン弦のようなサウンドを作り出します。
Chor Vib	ビブラートとコーラスで広がりのある厚いサウンドです。バックギンにも適しています。
TremSolo	ステレオパンニングのサウンドです。

ベース用設定 (Bass Guitar)

このプリセットサウンドはベース入力を想定しています。他の音源には適正な効果が得られないことがあります。

Miller	チョッパー奏法に適したサウンドに、ベースフランジャーを付加しました。
Singing	軽く歪みのかかった音にコーラスを付加してあります。プログレなどに最適です。
Fretless	フレットレスベースのようなサウンドを作り出します。
Chopper	スラップ奏法に適したサウンドです。
Heavy	過激なベースディストーションサウンドです。
Peculiar	暖かみのあるベースサウンドです。
RockBass	ピック弾きに適したベースディストーションです。高域が強調された音質で、ベースソロ向きです。

ボーカル用設定 (Vocal)

De-Esser	サ行などの、耳障りな子音成分のバランスを下げる事ができます。
Chorist	ディチューンによりボーカルに複音感を与えます。
Emphasis	埋もれがちなボーカルを際立たせることができます。
Shout	ボーカル用のディストーションサウンドです。
Moody	しっとりしたボーカルに最適なサウンドです。
Response	ボーカル用エコーサウンドです。
Proclaim	エコーのかかった特殊効果にも使えるサウンドです。
Quiverin	ビブラートのかかったボーカルを演出するサウンドです。
Duet	女性デュエット、男性デュエット、ハーモニーなどを演出します。
Lo-Fi	ローファイボーカルを演出します。
Megaphon	メガホーンを通したようなボーカルサウンドです。
Screamin	ボーカル用のフランジャーサウンドです。
Panning	左右に振れるボーカルサウンドを演出します。

ドラムス用設定 (Drum)

ドラムマシーンなどに最適です。

Groove	フランジャー効果でリズムなどにグルーブを与えるサウンドです。
Stepping	フィードバックの少ないディレイです。
TrnAroun	音ネタを前に出したり引っ込めたりする効果が得られるサウンドです。
GetSpace	ドラム用のリバーブです。
CsBottom	低域の強調されたサウンドが得られます。
Trem.PAD	左右に揺れるパンニング効果です。
PerfrmEQ	ドラムの音色に癖を付けて、パフォーマンスサウンドを演出します。
Lo-Fi	ローファイリズムサウンドです。
Reverb	リバーブのみを使用する場合のプリセット
Comp.	コンプレッサーのみを使用する場合のプリセットです。
Vibrato	ビブラートのみを使用する場合のプリセット
Filter	ローパスフィルターを使用する場合のプリセットです。

リバーブ

DP-02にはリバーブが内蔵され、ミックスダウン時にトラック信号にリバーブをかけることができます。

ヒント

リバーブ (Reverb) はリバーブレーション (Reverberation) を短くした呼び方です。残響音という意味で、部屋の壁からの短いエコーからなるサウンドです。

リバーブのオン／オフを切り換える

SHIFT キーを押しながら REVERB キーを押すことにより、リバーブのオン／オフを切り換えることができます。オンのとき REVERB インジケーターが点灯します。

メモ

内蔵リバーブがオンのときは本機の SEND 端子と RETURN 端子が機能しなくなります。つまり、内蔵リバーブと外部エフェクターを同時に使うことはできません。

リバーブを使う

リバーブがオンのとき、トラックミキサーの各チャンネルの EFFECT SEND つまみで調節されたトラック信号が内蔵リバーブに送られ、内蔵リバーブからリターン信号が EFFECT RETURN つまみで調節されてステレオミックスに戻されます。

リバーブを設定する

- 1 REVERB キーを押して REVERB 画面を表示させます。



- 2 CURSOR▲／▼キーを使って ROOM TYPE 項目の値を反転表示させ、DATA ダイアルを使って、Hall、Room、Live、Studioの中からタイプを選択します。

それぞれ、異なった特性を持っています。

- 3 CURSOR▲／▼キーを使って TIME 項目の値を反転表示させ、DATA ダイアルを使って残響時間を設定します。

0.1 秒～5.0 秒の範囲 (0.1 秒ステップ) で設定できます。

第9章 さまざまな機能

バー／ビートを基準に作業する

これまでの説明では、ロケートマーク、オートパンチイン／アウト、リピートなどにおけるポイントの設定／管理を、時間（ABSタイム）を基準に行なってきました。本機では、バー／ビートを基準にすることもできます。特に外部MIDI機器と組み合わせて本機を使うときにバー／ビート基準が便利です。

ヒント

「バー」は「小節」という意味です。「ビート」は「拍」という意味です。たとえば「002-01」のようにバー／ビート表記されている場合、「2小節目の1拍目」という意味です。

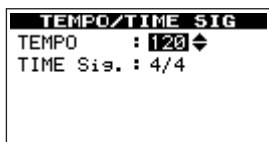
テンポの設定

バー／ビート基準を使うには、テンポと拍子を設定する必要があります。この設定に基づいて、本機はバー／ビート番号をソング内のポジションに対応させることができます。

メモ

ソングの先頭は、バー／ビート基準における「001-01」、時間（ABS）基準における「00:00:00:00」です。

- 1 停止中、MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってMIDIメニューを選択し、YES/ENTERキーを押します。
- 2 CURSOR▲／▼キーまたはDATAダイアルを使ってTEMPO/T.SIG項目を選択し、YES/ENTERキーを押します。



設定画面が表示されます。TEMPO（テンポ）とTIME Sig.（拍子）の2つのパラメータがあります。

- 3 CURSOR▲／▼キーを使ってパラメータを選択し、DATAダイアルを使って値を設定します。

- テンポ（BPM）は20～250の範囲で設定可能です。
- 拍子は、分母（1小節あたりの拍数）を1～12、分子（全音あたりの拍数）を1、2、4、8に設定できます。

ヒント

ロックやポップス曲の多くは4/4です。ワルツは3/4です。

タイムモードを選択する

拍子とテンポを設定すると、本機はバー／ビートと時間を対応させることができます。

バー／ビート表示にするには：

ホーム画面で、CURSOR◀／▶キーを使ってカーソルを“ABS”に合わせます。



DATAダイアルを時計方向に回します。“ABS”が“BAR”に変わり、現在のポジションがバー／ビート単位で表示されます。テンポは右側に表示されます。



- カーソルが“BAR”にあるときにDATAダイアルを反時計方向に回すと“ABS”に戻ります。

バー／ビートによるロケート

「ロケート（移動）機能」（39ページ）での説明と同じようにロケートを行なうことができます。

バー／ビートによるトラック編集

「トラックの編集」（58ページ）での説明と同じようにトラックを編集することができます。編集ポジションを「音楽的」に設定することができます。

ポイントの編集

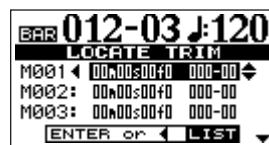
画面上でバー／ビート表示になっていても、ロケートマークの編集は時間単位で行ないます。（→39ページ「ロケートマークを編集するには」）

ただしバー／ビートも併せて表示されます。

「バー／ビート」モード時に◀◀キーと▶▶キーを同時に押し、ロケートリストが以下のように表示されます。



CURSOR▲／▼キーまたはDATAダイアルを使ってロケートマークを選択して、CURSOR▶キーを押すと、以下のようなポイント編集画面が表示されます。「時間（ABS）」ベースの場合と同じように、時間を編集します。バー／ビートの値を直接編集することはできません。ただし時間が変化すると、それに伴ってバー／ビート値が変化します。



メモ

IN、OUTおよびTOポイントを編集するときはバー／ビート値が表示されません。

メトロノーム

本機には、本機単体でメトロノーム音を聞ける内蔵メトロノーム機能とMIDI経由で外部の音源を発音させるMIDIメトロノーム機能が内蔵されています。

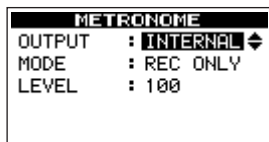
1 MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってMIDIメニューを選択し、YES/ENTERを押しします。

2 METRONOME項目を選択し、YES/ENTERキーを押しします。

METRONOME画面が表示されます。はじめにOUTPUT項目で出力モードを設定します。モードによってパラメータが異なります。

OUTPUTで“INTERNAL”を選択すると [内蔵メトロノーム]

外部の音源ではなく、本機に内蔵のメトロノーム音をPHONES端子およびLINE OUTPUT端子から出力します。



MODE項目

どういう時にメトロノームを出力するかを設定します。REC ONLY（録音時のみ）またはREC & PLAY（録音時と再生時）のいずれかを選択します。

メモ

つぎの場合は内蔵メトロノーム音は出力しません。

- BOUNCEキーが点灯中
- MASTERキーが点滅中または点灯中

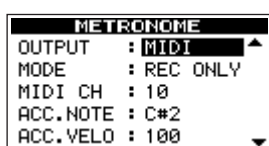
LEVEL

メトロノームの出力レベルを0～127の範囲で設定します。（メトロノームの出力レベルはMASTERフェーダーでは調整できません。）

OUTPUTで“MIDI”を選択すると [MIDIメトロノーム]

MIDI経由で外部の音源を発音させます。一般的にはパーカッション系のサウンドを使います。もちろん、どのようなサウンドでも鳴らすことができます。

MIDIチャンネル、通常のクリックのノート/ノートオンベロシティ、およびアクセントのノート/ノートオンベロシティを設定することができます。



リストをスクロールして下記のパラメータを設定します。

MODE

REC ONLY（録音時のみ）、REC & PLAY（録音時と再生時）の中から選択します。

MIDI CH

MIDIチャンネルを選択します。

ヒント

チャンネル10はGM機器のデフォルトのドラムチャンネルとして定義されています。

ACC.NOTE

各小節の1拍目のノートを設定します。C3がMIDIノート60に対応します。

ACC.VELO

各小節の1拍目のノートのベロシティ（音量に影響します）を設定します。

NRM.NOTE

各小節の1拍目以外のノートを設定します。C3がMIDIノート60に対応します。

NRM.VELO

各小節の1拍目以外のノートのベロシティ（音量に影響します）を設定します。

OUTPUTで“OFF”を選択すると

メトロノーム機能が無効になります。OUTPUT以外の項目は表示しません。

MIDIと一緒に使う

本機はMIDI OUT端子を装備しています。この端子からMIDIクロックやMIDIタイムコードを出力することにより、外部のシーケンサー、ドラムマシンなどを同期させることができます。また、MIDI OUT端子をMIDI音源に接続することにより、メトロノームを鳴らすことができます。（→51ページ「メトロノーム」）

MIDI音源のオーディオ出力は、INPUT A、Bに接続するか、またはミックスダウン時であればSTEREO MIX入力に接続することもできます。

MIDIクロックなど

本機のMIDI OUT端子から、MIDIコントロールメッセージとして、MIDIクロック、ソングポジションポインター、およびスタート/ストップ/コンティニューメッセージを送信することができます。

メモ

この機能を使うには、本機側でテンポと拍子を設定する必要があります。（→50ページ「テンポの設定」）

これらはドラムマシン/リズムマシンなどのバー/ビートベースのMIDI機器と同期するときに使います。

第9章 さまざまな機能

- 1 MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってMIDIメニューを選択し、YES/ENTERキーを押しします。
- 2 GENERATOR項目を選択し、YES/ENTERキーを押しします。
- 3 DATAダイアルを使って、MIDI OUT設定をOFFからCLKに切り換えます。



- 再生中および録音中、本機のMIDI OUT端子から上記のメッセージが送信されます。本機のMIDI OUT端子をMIDI機器のMIDI IN端子に接続します。
- 接続するMIDI楽器をMIDIクロック同期のスレーブとして使用する方法については、MIDI楽器の説明書をご覧ください。

MIDIタイムコード

本機のMIDI OUT端子から、現在のレコーダー位置（時：分：秒：フレーム）をMIDIタイムコード情報として出力することができます。タイムコードに対応しているレコーダーやデジタルオーディオワークステーション（DAW）などと本機を組み合わせると動作させるときに使います。

- 1 MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってMIDIメニューを選択し、YES/ENTERキーを押しします。
- 2 GENERATOR項目を選択し、YES/ENTERキーを押しします。
- 3 DATAダイアルを使って、MIDI OUT設定をOFFからMTCに切り換えます。



- 再生中および録音中、本機のMIDI OUT端子からタイムコードが送信されます。本機のMIDI OUT端子をMIDI機器のMIDI IN端子に接続します。
- 接続するMIDI楽器をMIDIタイムコード同期のスレーブとして使う方法については、MIDI楽器の説明書をご覧ください。

メモ

本機のMIDIタイムコードのフレームレートは30fpsに固定されています。変更することはできません。

OUTPUTで“OFF”を選択すると

MIDI OUT端子からMTCもMIDIクロックも出力されません。

ギター／ベース用チューナー [DP-02のみ]

内蔵のギター／ベース用チューナーを使ってギターやベースをチューニングすることができます。

- 1 ギターまたはベースをINPUT Aに接続します。

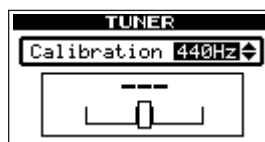
メモ

INPUT Bに接続してもチューニングできません。

- 2 MENUキーを押しします。
- 3 DATAダイアルを使ってTUNER項目を反転表示し、YES/ENTERキーを押しします。

チューナー画面が表示されます。

Calibration項目（基準周波数）の値が反転表示されています。



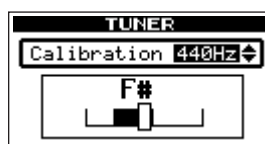
- 4 DATAダイアルを使って基準周波数（A音）を選択します。

435Hz～445Hzの間で選択できます（1Hz単位）。

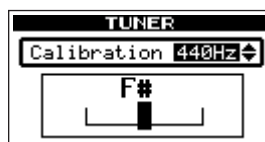
- 5 弦を弾いてチューニングを行ないます。

弾いた音に一番近いノートが表示され、そのノートより高すぎると右側のインジケーターが伸び、低すぎると左側のインジケーターが伸びます。

表示ノートとのズレが大きいほど、インジケーターが長く伸びます。以下の画面例はF#より低い場合です。



ぴったり合うと、中央の四角が反転します。



「パーティションとソング」(29ページ)で述べたように、DP-02のハードディスクはパーティションに仕切られています。パーティションには録音データ(ソング情報)を記録するためのMTRパーティションと、パソコンからの読み込みが可能なFATパーティションがあります。またMTRパーティションは複数存在します。

複数のMTRパーティションがあるため、ソングのタイプごとにMTRパーティションを分けて使うことができます。また、ソング情報を、保管などの目的のために別のMTRパーティションにコピーすることができます。FATパーティションはFAT32形式によるフォーマットで、DP-02とUSB接続したパソコンから読み込むことができます。パソコン上にソングを保存する場合やステレオマスターをパソコンにエクスポートする場合、あるいはDP-02のソングにオーディオファイルをインポートする場合など、このFATパーティションを介して行なわれます。そのため、パソコンとMTRパーティション間でソング情報をコピーするためには2段階の操作が必要です。

なお、必要に応じて内蔵ディスク全体のフォーマットやパーティション毎のフォーマット、あるいはパーティションの仕切り直し(リパーティション)を行なうことができます。

メモ

フォーマットとリパーティションは取り消し(UNDO)ができません。

メモ

FATフォーマット(File Allocation Table)はパソコンで読むことができるディスクフォーマットです。

メモ

作業対象パーティション(アクティブパーティション)を選択する方法については、「アクティブパーティションを選択する」(29ページ)をご覧ください。

ディスクをフォーマットする

この操作では、ハードディスクをフォーマットします。その際、DP-02のMTRパーティションのサイズを設定することができます。

注意

この操作によってハードディスク全体のデータが消去されます。取り消し(UNDO)はできません。フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

- 1 MENUキーを押します。
- 2 DATAダイアルを使ってDISK項目を反転表示し、YES/ENTERキーを押します。
DISKメニューが表示されます。
- 3 DATAダイアルを使ってFORMAT項目を選択し、YES/ENTERキーを押します。



- 4 DATAダイアルを使ってMTRパーティションのサイズを選択します。



MTRパーティションサイズは32GB、16GB、8GB、4GBの中から選択できます(本機における1GBは1024MBです)。

- 5 YES/ENTERキーを押します。
すべてのソングが消去されることを警告するメッセージが表示されます。
- 6 再度YES/ENTERキーを押します。
ディスクがフォーマットされます。

MTRパーティションは手順3で選択したサイズで作られますが、最後の1つは残ったスペースで作られるので、サイズが異なります。

フォーマット後の各MTRパーティションには、ソングが1つずつ自動作成されます。

フォーマットを取りやめる場合は、YES/ENTERキーの代わりにNO/EXITキーを押します。

フォーマットが終わると、DISKメニュー画面になります。

MTRパーティションをフォーマットする (リフォーマット)

ディスク上の指定したMTRパーティションを再フォーマットすることができます。パーティションサイズを変更する必要がなく、特定のパーティションのみをフォーマットしたい場合にこの機能を使います。

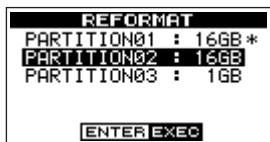
注意

この操作は取り消し（UNDO）ができません。選択したパーティションのすべてのデータが消えます。フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

- 1 MENUキーを押します。
- 2 DATAダイアルを使ってDISK項目を反転表示し、YES/ENTERキーを押します。
DISKメニューが表示されます。
- 3 DATAダイアルを使ってREFORMAT項目を選択し、YES/ENTERキーを押します。



アクティブパーティションには“*”が付いています。パーティションのサイズが表示されています（空き容量ではありません）。



- 4 再フォーマットしたいMTRパーティションを反転表示し、YES/ENTERキーを押します。

パーティション上のデータがすべて消えることを警告するポップアップメッセージが表示されます。

- 5 YES/ENTERキーを押します。

パーティションが再フォーマットされます。

フォーマット後のMTRパーティションには、ソングが1つ自動作成されず。

FATパーティションをフォーマットする

FATパーティションのみをフォーマットすることができます。FATパーティションのサイズは固定されていて、変更できません。

注意

この操作は取り消し（UNDO）ができません。FATパーティションのすべてのデータが消えます。フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

- 1 MENUキーを押します。
- 2 DATAダイアルを使ってDISK項目を反転表示し、YES/ENTERキーを押します。
DISKメニューが表示されます。
- 3 DATAダイアルを使ってFAT REFORMAT項目を選択し、YES/ENTERキーを押します。



FATパーティション上のデータがすべて消えることを警告するポップアップメッセージが表示されます。

- 4 YES/ENTERキーを押します。

FATパーティションが再フォーマットされます。

自動ソング作成について

ハードディスク全体や各MTRパーティションをフォーマットしたあと、新しいMTRパーティションには必ず新規のソングが1つ作成されます。同じように、ひとつしかソングが存在しないMTRパーティションの場合、そのソングを消去すると新規のソングが1つ作成されます（→31ページ「ソングを消去する」）。つまり、MTRパーティション上には必ずソングが存在し、いつでもレコーディング作業ができます。

第11章 コンパクトフラッシュカードの管理 [DP-02CFのみ]

「パーティションとソング」(29ページ)で述べたように、DP-02CFでフォーマットしたコンパクトフラッシュカードはパーティションに仕切られています。パーティションには録音データ(ソング情報)を記録するためのMTRパーティションと、パソコンからの読み込みが可能なFATパーティションがあります。またカード容量が大きい場合、MTRパーティションが複数存在します。複数のMTRパーティションがある場合、ソングのタイプごとにMTRパーティションを分けて使うことができます。また、ソング情報を、保管などの目的のために別のMTRパーティションにコピーすることができます。FATパーティションはFAT32形式によるフォーマットで、DP-02CFとUSB接続したパソコンから読み込むことができます。パソコン上にソングを保存する場合やステレオマスターをパソコンにエクスポートする場合、あるいはDP-02CFのソングにオーディオファイルをインポートする場合など、このFATパーティションを介して行なわれます。そのため、パソコンとMTRパーティション間でソング情報をコピーするためには2段階の操作が必要です。

なお、必要に応じてカード全体のフォーマットやパーティション毎のフォーマット、あるいはパーティションの仕切り直し(リパーティション)を行なうことができます。

メモ

フォーマットとリパーティションは取り消し(UNDO)ができません。

メモ

FATフォーマット(File Allocation Table)はパソコンで読むことができるディスクフォーマットです。

メモ

DP-02CFでは512MB以上のコンパクトフラッシュカードを使うことができます。

メモ

アクティブパーティションを選択する方法については「アクティブパーティションを選択する」(29ページ)をご覧ください。

カードをフォーマットする

この操作では、カード全体をフォーマットします。その際、容量の大きいカードではDP-02CFのMTRパーティションのサイズを設定することができます。

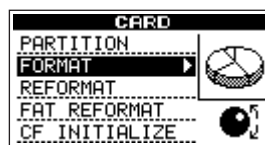
メモ

この操作によってカード全体のデータが消去されます。取り消し(UNDO)はできません。フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

1 CARDキーを押します。

CARDメニューが表示されます。

2 DATAダイアルを使ってFORMAT項目を選択し、YES/ENTERキーを押します。



FORMAT画面が表示されます。



以下の表は、コンパクトフラッシュカードの容量別に、FATパーティションサイズとMTRパーティションサイズを示しています。カード容量によってFATパーティションのサイズは決まります。MTRパーティションサイズに関しては下記表の(例)では4GB以下のカードでは固定、8GB以上のカードでは選択可能です。なお、最後の1つは残ったスペースで作られますので、サイズが異なります。

下記のように、カード容量が5GB以上の場合はMTRパーティションサイズを選択する必要があります。

カード容量	(例)	FATパーティションサイズ	MTRパーティションサイズ
カード容量 ≥ 35GB	64GB	4GB	2G、4G、8G、16G、32GBから選択。
35GB > カード容量 ≥ 17GB	32GB	4GB	2G、4G、8G、16Gから選択。
17GB > カード容量 ≥ 9GB	16GB	4GB	2G、4G、8Gから選択。
9GB > カード容量 ≥ 5GB	8GB	2GB	2G、4Gから選択。
5GB > カード容量 ≥ 2.5GB	4GB	2GB	2GB固定
2.5GB > カード容量 ≥ 1.5GB	2GB	1GB	1GB固定
1.5GB > カード容量 ≥ 600MB	1GB	512MB	512MB固定
600MB > カード容量 ≥ 500MB	512MB	256MB	256MB固定

- 3 (カード容量が5GB以上の場合) DATAダイアルを使ってMTRパーティションサイズを選択し、YES/ENTERキーを押します。

すべてのソングが消去されることを警告するメッセージが表示されます。

- 4 再度YES/ENTERキーを押します。

ディスクがフォーマットされます。

たとえば16GBのカードをMTRパーティションサイズ4GBでフォーマットを行なった場合、4GBのFATパーティションを除いた12GBがMTRパーティション用に使われ、4GBのパーティションが2つと、残りの3GBのパーティションが1つ作成されます。

フォーマット後の各MTRパーティションには、ソングが1つずつ自動作成されます。

メモ

本機における1GBは1024MBです。したがって、本機のパーティションの表示容量の合計がカードの表示容量と一致しない場合があります。

フォーマットを取りやめる場合は、YES/ENTERキーの代わりにNO/EXITキーを押します。

フォーマットが終わると、CARDメニュー画面になります。

MTRパーティションをフォーマットする (リフォーマット)

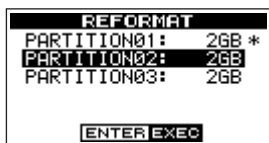
カード上の指定したMTRパーティションを再フォーマットすることができます。パーティションサイズを変更する必要がなく、特定のパーティションのみをフォーマットしたい場合にこの機能を使います。

注意

この操作は取り消し (UNDO) ができません。選択したパーティションのすべてのデータが消えます。フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

- 1 CARDキーを押します。
- 2 DATAダイアルを使ってREFORMAT項目を選択し、YES/ENTERキーを押します。

アクティブパーティションには“*”が付いています。パーティションのサイズが表示されています (空き容量ではありません)。



- 3 再フォーマットしたいパーティションを反転表示し、YES/ENTERキーを押します。

パーティション上のデータがすべて消えることを警告するポップアップメッセージが表示されます。

- 4 YES/ENTERキーを押します。

パーティションが再フォーマットされます。

フォーマット後のMTRパーティションには、ソングが1つ自動作成されます。

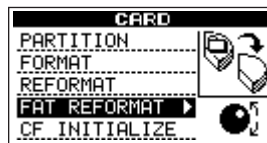
FATパーティションをフォーマットする

FATパーティションのみをフォーマットすることができます。FATパーティションのサイズは固定されていて、変更できません。

注意

この操作は取り消し (UNDO) ができません。FATパーティションのすべてのデータが消えます。フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

- 1 CARDキーを押します。



- 2 DATAダイアルを使ってFAT REFORMAT項目を選択し、YES/ENTERキーを押します。

FATパーティション上のデータがすべて消えることを警告するポップアップメッセージが表示されます。

- 3 YES/ENTERキーを押します。

FATパーティションが再フォーマットされます。

自動ソング作成について

カード全体や各MTRパーティションをフォーマットしたあと、新しいMTRパーティションには必ず新規のソングが1つ作成されます。同じように、ひとつしかソングが存在しないMTRパーティションの場合、そのソングを消去すると新規のソングが1つ作成されます (→31ページ「ソングを消去する」)。つまり、MTRパーティション上には必ずソングが存在し、いつでもレコーディング作業ができます。

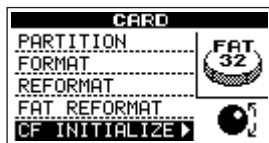
カードをイニシャライズする

コンパクトフラッシュカードのイニシャライズを行なうと、カード全体がFAT32形式でフォーマットされます。

メモ

本機で使用したコンパクトフラッシュカードを他の機器で使用する場合、イニシャライズを行なうことをお勧めします。

- 1 CARDキーを押します。
- 2 DATAダイアルを使ってCF INITIALIZE項目を選択し、YES/ENTERキーを押します。



カード上のデータがすべて消えることを警告するポップアップメッセージが表示されます。

- 3 YES/ENTERキーを押します。

カード全体がイニシャライズされ、FAT32形式でフォーマットされます。

第12章 トラックの編集

本機のようなテープレスのレコーダーでは、オーディオ編集を簡単に行なうことができます。以前のテープレコーダーでは、編集には高度なテクニックが必要だったばかりでなく、ミスを犯した場合にやり直しができず、またマルチトラックの編集はほとんど不可能でした。

本機ではソングの編集、素材のコピーや移動など、思いのままにできます。

しかも「ノンディストラクティブ・エディティング（非破壊編集）」と呼ばれる手法によって、編集元のデータが壊されないため、アンドゥによって簡単にやり直すことができます。

これらはコンピュータにおけるワープロソフトの編集によく似ています。文字の代わりにオーディオデータを編集する、と考えれば、簡単に理解できるでしょう。

メモ

編集機能は取り消し（UNDO）することができます。（→37ページ「実行した操作を取り消す（UNDO）」）

すべての編集内容は履歴として残されていますので、極端な例として全トラックのすべての素材を削除した場合でも、数回のキー操作ですべてを元に戻すことができます。

本機には以下のトラック編集機能があります。

- COPY PASTE（コピーペースト）
- COPY INSERT（コピーインサート）
- MOVE PASTE（ムーブペースト）
- MOVE INSERT（ムーブインサート）
- OPEN（無音挿入）
- CUT（部分削除）
- SILENCE（部分消去）
- CLONE TRACK（トラック複製）
- CLEAN OUT（トラック削除）

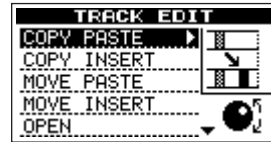
IN、OUT、TO

パンチイン／アウトやロケート機能では、**IN**、**OUT**ポイントが使われます。トラック編集では、これらのポイントに**TO**ポイントを加えた3つのポイントを使います。

- **IN**ポイントはトラック編集時の編集対象セクションの始点になります。
- **OUT**ポイントはトラック編集時の編集対象セクションの終点になります。
- **TO**ポイントはコピーやムーブ操作におけるペースト先や移動先のポイントになります。

編集の基本操作

- 1 本機が停止中（再生中／録音中以外）であることを確認します。
- 2 **TRACK EDIT**キーを押します。



トラック編集メニューが表示されます。

- 3 **DATA**ダイヤルを使って希望のトラック編集機能を選択し、**YES/ENTER**キーを押します。
- 4 設定項目の値を選択します。

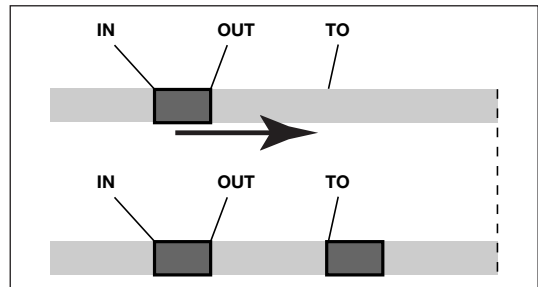
設定項目の詳細は、以下の各機能説明をお読みください。

- 5 **YES/ENTER**キーを押して、機能を実行します。

NO/EXITキーを押すと、実行しないで**TRACK EDIT**メニュー画面に戻ります。

以下に各編集機能ごとに詳しく説明します。（各見出しの [] 内がトラック編集画面の項目名です）

コピー・ペースト [COPY PASTE]



コピー元トラックの**IN**ポイントと**OUT**ポイント間のオーディオデータをコピーして、コピー先トラックの**TO**ポイントにペーストします。

この操作の後、コピー元のトラックは変化しません。

この操作によって、コピー先に録音されていたデータは上書きされます。したがって、コピー先トラックの長さは変化しません。

1回の操作で、複数回コピーすることができます。つまり、コピー先トラックの**TO**ポイント以降に、コピーデータが指定回数分、続けて上書きコピーされます。

- 設定パラメータは以下の3つです。

SOURCE TRK

コピー元トラックを選択します。選択肢は**1～8**（シングルトラック）、**1/2、3/4、5/6、7/8**（ペアトラック）および**1-8**（全トラック）です。

DESTINATION TRK

コピー先のトラックを選択します。**SOURCE TRK** で何を選択したかによって選択肢が変わります。

SOURCE TRKとしてシングルトラックを選択した場合は**DESTINATION TRK**の選択肢は1～8（シングルトラック）、**SOURCE TRK**としてペアトラック（たとえば1/2）を選択した場合は**DESTINATION TRK**の選択肢は1/2～7/8（ペアトラック）、**SOURCE TRK**として1-8（全トラック）を選択した場合は**DESTINATION TRK**の選択肢は1-8（全トラック）のみになります。

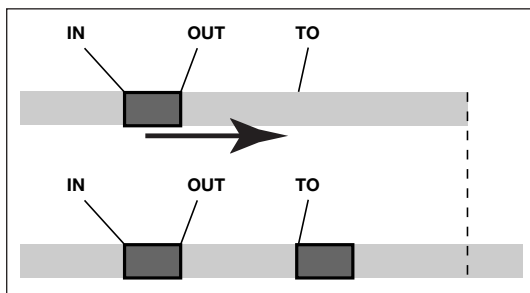
COPY TIMES

コピーしたセクションを何回ペーストするかを選択します。

1～99の中から選択できます。

パラメータを設定後、**YES/ENTER**キーを押すと編集が実行されます。**NO/EXIT**キーを押すと、実行しないで**TRACK EDIT**メニュー画面に戻ります。

コピー・インサート [COPY INSERT]



コピー元トラックの**IN**ポイントと**OUT**ポイント間のオーディオデータをコピーして、コピー先トラックの**TO**ポイント以降にインサートします。

この操作の後、コピー元のトラックは変化しません。

この操作によって、コピー先トラックの**TO**ポイントにコピーデータがインサートされます（上書きではありません）。コピー先トラックの**TO**ポイント以降に録音されていたデータは、新しい素材がインサートされた分だけ後ろにずれます。したがって、コピー先トラックの長さが長くなります。

1回の操作で、複数回インサートすることができます。つまり、コピー先トラックの**TO**ポイント以降に、コピーデータが指定回数分、続けてインサートされます。

- 設定パラメータは以下の3つです。

SOURCE TRK

コピー元トラックを選択します。選択肢は1～8（シングルトラック）、1/2、3/4、5/6、7/8（ペアトラック）および1-8（全トラック）です。

DESTINATION TRK

コピー先のトラックを選択します。**SOURCE TRK** で何を選択したかによって選択肢が変わります。

SOURCE TRKとしてシングルトラックを選択した場合は**DESTINATION TRK**の選択肢は1～8（シングルトラック）、**SOURCE TRK**としてペアトラック（たとえば1/2）を選択した場合は**DESTINATION TRK**の選択肢は1/2～7/8（ペアトラック）、**SOURCE TRK**として1-8（全トラック）を選択した場合は**DESTINATION TRK**の選択肢は1-8（全トラック）のみになります。

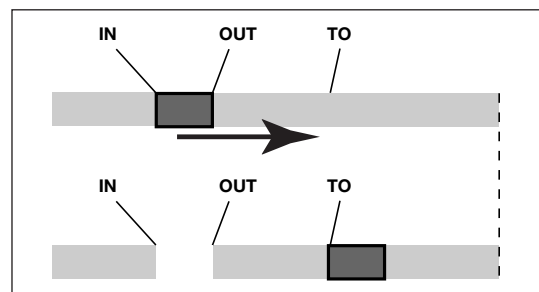
COPY TIMES

コピーしたセクションを何回インサートするかを選択します。

1～99の中から選択できます。

パラメータを設定後、**YES/ENTER**キーを押すと、編集が実行されます。**NO/EXIT**キーを押すと、実行しないで**TRACK EDIT**メニュー画面に戻ります。

ムーブ・ペースト [MOVE PASTE]



ムーブ元トラックの**IN**ポイントと**OUT**ポイント間のオーディオデータを、ムーブ先トラックの**TO**ポイント以降に移動します。

この操作の後、ムーブ元トラックの**IN**ポイントと**OUT**ポイント間は無音になります。

この操作によって、ムーブ先に録音されていたデータは上書きされます。したがって、ムーブ先トラックの長さは変化しません。

- 設定パラメータは以下の2つです。

SOURCE TRK

ムーブ元トラックを選択します。選択肢は1～8（シングルトラック）、1/2、3/4、5/6、7/8（ペアトラック）および1-8（全トラック）です。

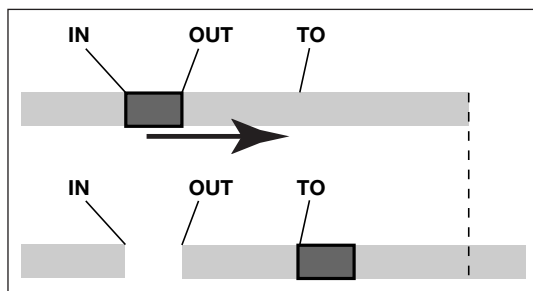
DESTINATION TRK

ムーブ先のトラックを選択します。**SOURCE TRK** で何を選択したかによって選択肢が変わります。

SOURCE TRKとしてシングルトラックを選択した場合は**DESTINATION TRK**の選択肢は1～8（シングルトラック）、**SOURCE TRK**としてペアトラック（たとえば1/2）を選択した場合は**DESTINATION TRK**の選択肢は1/2～7/8（ペアトラック）、**SOURCE TRK**として1-8（全トラック）を選択した場合は**DESTINATION TRK**の選択肢は1-8（全トラック）のみになります。

パラメータを設定後、**YES/ENTER**キーを押すと、編集が実行されます。**NO/EXIT**キーを押すと、実行しないで**TRACK EDIT**メニュー画面に戻ります。

ムーブ・インサート [MOVE INSERT]



ムーブ元トラックのINポイントとOUTポイント間のオーディオデータを移動して、ムーブ先トラックのTOポイントにインサートします。

この操作の後、ムーブ元トラックのINポイントとOUTポイント間は無音になります。

この操作によって、ムーブ先トラックのTOポイント以降に移動データがインサートされます。したがって、ムーブ先トラックの長さが長くなります。

- 設定パラメータは以下の2つです。

SOURCE TRK

ムーブ元トラックを選択します。選択肢は1～8（シングルトラック）、1/2、3/4、5/6、7/8（ペアトラック）および1-8（全トラック）です。

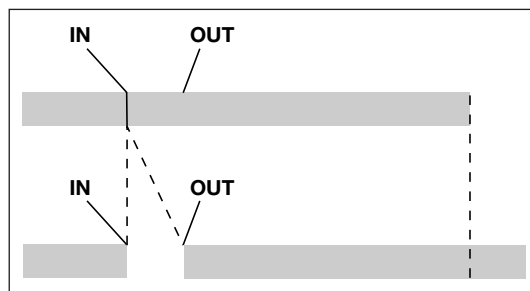
DESTINATION TRK

ムーブ先のトラックを選択します。SOURCE TRKで何を選択したかによって選択肢が変わります。

SOURCE TRKとしてシングルトラックを選択した場合はDESTINATION TRKの選択肢は1～8（シングルトラック）、SOURCE TRKとしてペアトラック（たとえば1/2）を選択した場合はDESTINATION TRKの選択肢は1/2～7/8（ペアトラック）、SOURCE TRKとして1-8（全トラック）を選択した場合はDESTINATION TRKの選択肢は1-8（全トラック）のみになります。

パラメータを設定後、YES/ENTERキーを押すと、編集が実行されます。NO/EXITキーを押すと、実行しないでTRACK EDITメニュー画面に戻ります。

OPEN（無音挿入） [OPEN]



選択したトラックのINポイントとOUTポイント間に無音部分を挿入します。

この操作では、INポイントの位置でトラックが前後に分割され、INポイント以降のパートがOUTポイント以降に移動します。したがってトラックの長さが長くなります。

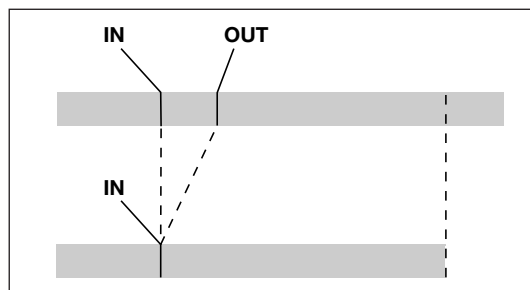
- 設定パラメータは1つだけです。

OPEN TRK

選択肢は1～8（シングルトラック）、1/2、3/4、5/6、7/8（ペアトラック）、1-8（1～8トラック）およびALL（1～8+マスタートラック）です。

パラメータを設定後、YES/ENTERキーを押すと、編集が実行されます。NO/EXITキーを押すと、実行しないでTRACK EDITメニュー画面に戻ります。

CUT（部分削除） [CUT]



選択したトラックのINポイントとOUTポイント間をカット（削除）して詰めます。

この操作では、OUTポイント以降のパートが手前に移動します。したがって、トラックの長さが短くなります。

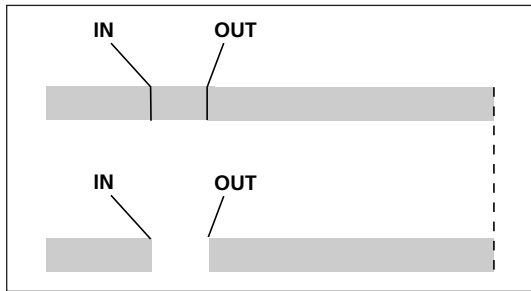
- 設定パラメータは1つだけです。

CUT TRK

選択肢は1～8（シングルトラック）、1/2、3/4、5/6、7/8（ペアトラック）、1-8（1～8トラック）およびALL（1～8+マスタートラック）です。

パラメータを設定後、YES/ENTERキーを押すと、編集が実行されます。NO/EXITキーを押すと、実行しないでTRACK EDITメニュー画面に戻ります。

SILENCE (部分消去) [SILENCE]



選択したトラックのINポイントとOUTポイント間を消去します。INポイントとOUTポイント間に無信号を録音したときと同じです。

この操作では、トラックの長さは変わりません。

設定パラメータは1つだけです。

SILENCE TRK

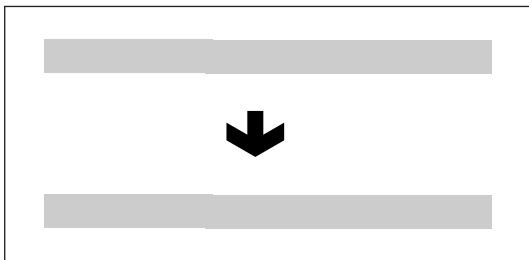
選択肢は1～8 (シングルトラック)、1/2、3/4、5/6、7/8 (ペアトラック) および1-8 (全トラック) です。

パラメータを設定後、YES/ENTERキーを押すと、編集が実行されます。NO/EXITキーを押すと、実行しないでTRACK EDITメニュー画面に戻ります。

ヒント

この機能を使って、短いノイズなどを消すことができます。

クローントラック (トラックの複製) [CLONE TRACK]



シングルトラックまたはペアトラック全体を、別のトラックにコピーして、クローントラックを作成します。トラック全体のコピーですので、IN/OUTポイントは関係ありません。

- 設定パラメータは以下の2つです。

SOURCE TRK

コピー元トラックを選択します。選択肢は1～8 (シングルトラック)、1/2、3/4、5/6、7/8 (ペアトラック) およびMASTER (マスターステレオトラック) です。

DESTINATION TRK

コピー先トラック (クローントラック) を選択します。SOURCE TRKで何を選択したかによって選択肢が変わります。

SOURCE TRKとしてシングルトラックを選択した場合はDESTINATION TRKの選択肢は1～8 (シングルトラック)、SOURCE TRKとしてペアトラック (たとえば1/2) またはMASTERを選択した場合はDESTINATION TRKの選択肢は1/2、3/4、5/6、7/8 (ペアトラック) になります。

パラメータを設定後、YES/ENTERキーを押すと、編集が実行されます。NO/EXITキーを押すと、実行しないでTRACK EDITメニュー画面に戻ります。

メモ

SOURCE TRKと同じトラックをDESTINATION TRKに設定すると、YES/ENTERキーを押したときにメッセージが表示され、操作を受け付けません。

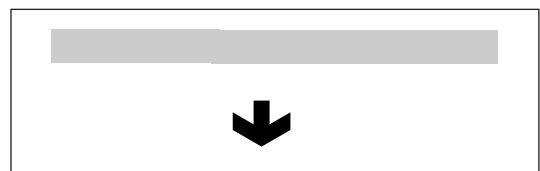
ヒント

42ページで述べたトラックバウンスは、トラック信号をまとめて別のトラックに録音するものでしたが、クローントラック機能を使って、さらに高度なトラックバウンスを行なうことができます。

- 1 トラック1～8をミックスダウンしてステレオマスターを作成します。(→36ページ「マスタリング」)
- 2 CLONE TRACK機能を使って、ステレオマスターのクローンをペアトラック (たとえばトラック1/2) 上に作ります。

これで実質的に、トラック1～8のミックス信号をトラック1～2にバウンスしたことになり、トラック3～6に新たな音を重ねることができます。

クリーンアウト (トラック削除) [CLEAN OUT]



指定したトラック全体を削除します。トラック全体の削除ですので、IN/OUTポイントは関係ありません。

- 設定パラメータは1つだけです。

CLEAN OUT TRK

削除するトラックを選択します。選択肢は1～8 (シングルトラック) および1/2、3/4、5/6、7/8 (ペアトラック) です。

パラメータを設定後、YES/ENTERキーを押すと、編集が実行されます。NO/EXITキーを押すと、実行しないでTRACK EDITメニュー画面に戻ります。

第13章 パソコンと接続する

本機のFATパーティション上のソングファイルをUSB接続したパソコンで読み込んだり、パソコン上のソングファイルをFATパーティションに書き込むことができます。

パソコンと本機間のデータ転送は常にFATパーティションを経由して行なわれます。ソングファイルが記録されているMTRパーティションには、パソコンから直接アクセスすることができません。データの転送には常に2段階のプロセスが必要です。

メモ

本章で「パソコン」と表記する場合、WindowsまたはMacintoshのパーソナルコンピュータを指します。

メモ

本取扱説明書では「DP-02の内蔵ハードディスク」や「DP-02CFにセットしたコンパクトフラッシュカード」を含めて「本機」と呼ぶ場合があります。(例：本機のFATパーティション)

FATパーティション内には3つのディレクトリ（フォルダ）—BACKUP、WAVE、UTILITY—があります。

メモ

これらのディレクトリを削除したり名前を変更したりしないでください。削除や変更を行なうと本章で説明する操作ができなくなります。

メモ

UTILITYディレクトリは本機のシステムをアップデートするときなどに使われます。アップデートの方法についてはアップデートソフトウェアに添付の説明書をご覧ください。

本機では以下のデータを転送することができます。

● ソング全体

本機では、ソング全体のデータをFATパーティション内のBACKUPディレクトリからパソコンに転送することができます。この操作を「バックアップ」と呼びます。またパソコンにバックアップしたデータをFATパーティション内のBACKUPディレクトリに転送し、ソングデータとして復元することができます。この操作を「リストア」と呼びます。

● WAVフォーマットのトラック

トラック（複数可）をWAVファイルに変換してパソコンにエクスポートしたり、パソコン上のWAVファイル（1つずつ）を本機にインポートすることができます。WAVファイルは本機のFATパーティション上のWAVEディレクトリに格納されます。

● ステレオマスターミックス

本機のステレオマスターミックスを、ステレオWAVファイルとして（FATパーティション上のWAVEディレクトリから）パソコンに転送することができます。エクスポートのみが可能です。

必要なパソコンシステム

本機と以下のパソコンを接続することができます。

● マイクロソフトOS

Windows 2000、Windows XP、Windows Vista

● アップルコンピュータOS

Mac OS X 10.2以上

本機はマストレージクラスのデバイスとしてパソコンに接続されます。対応OSは標準でマストレージクラスのデバイスに対応していますので専用のドライバは不要です。

ただし本機とコンピュータの接続を切り離すときは、それぞれのコンピュータのUSBリムーバブルディスク接続解除方法に従ってください。それに従わずむやみに接続を解除すると、FATパーティションのデータが破壊される可能性があります。(→63ページ「USB接続する／解除する」)

メモ

DP-02CFをMac OS 9.2.2以前のMacintoshとUSB接続すると、正常な接続解除ができない場合があります。

メモ

本機とパソコン間のデータ転送は、USB2.0スピード（最大）で行なわれます。お使いのコンピュータがUSB 2.0ではなくUSB 1.1の場合、データ転送は可能ですが、動作が遅くなります。なお、最大のデータ転送スピードを得るためには、高品質のUSB 2.0ケーブルを使用することをお勧めします。

USB 接続する／解除する

本機のFATパーティションを使う前に、USBモードを「オープン」状態にしてパソコンで読み込める状態にする必要があります。USBモードが「オープン」状態のとき、録音／再生など本機の記録メディアを使用する操作はいっさいできません（YES/ENTERキー以外の操作はすべて無効です）。

メモ

USB接続をオープンする前に、パソコンに転送するファイルをすべてFATパーティションにコピーしてあることを確認してください。

以下の手順でUSB接続を「オープン」します。

- 1 本機とパソコンを接続します。
- 2 [DP-02の場合]：MENUキーを押してMENU画面を表示させ、DATAダイヤルを使ってUSBメニューを選択し、YES/ENTERキーを押します。

[DP-02CFの場合]：USBキーを押します。

USB画面が表示されます。



- 4 YES/ENTERキーを押します。

確認メッセージ（“Are you sure?”）が表示されます。

- 5 再度 YES/ENTERキーを押します。

現在ロード中のソングが保存された後、USB接続がオープンし、ディスプレイは以下のような表示になります。



以下の手順でUSB接続を「クローズ」します。

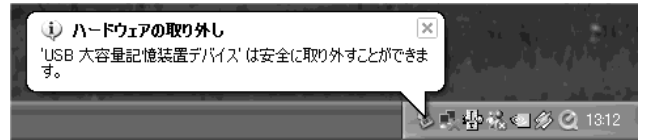
注意

データを転送中にUSB接続を切断したり、USBケーブルを抜いたりしないで下さい。パソコンもしくは本機のデータが破壊される可能性があります。

Windows 2000／Windows XP／Windows Vista システムの場合

Windows 2000、Windows XP、Windows Vistaの場合、単純にUSBケーブルを外すわけにはいきません。

システムトレイ（通常は画面の右下）内に、PCカードのアイコンと矢印があります。



- 1 このアイコンを左クリックしてポップアップバーを表示します。本機をコンピュータから切り離すには、このポップアップバーをクリックします。

- 2 コンピュータ画面に、本機の接続を安全に解除できることを告げるメッセージが表示されたら、本機のYES/ENTERキーを押します。

USB接続が「クローズ」され、ディスプレイにホーム画面が表示されます。

- 3 USBケーブルを外します。

- コンピュータ画面に、本機の接続を安全に解除できないことを告げるメッセージが表示された場合、USBモードを「クローズ」したりUSBケーブルを外したりしないでください。本機上のファイルにアクセスしているすべてのプログラムとウィンドウを閉じてから、再度上記の操作を行なってみてください。

Macintoshの場合

- 1 本機のアイコン（“DP-02”）をゴミ箱にドラッグするか、“Command +E”操作を行ないます（さらにOS X 10.3では、ファインダーにリムーバブルメディアをイジェクトするためのボタンがあります）。

- 2 アイコンがデスクトップから消えたら、本機のYES/ENTERキーを押します。

メモ

DP-02CFをMac OS 9.2.2以前のMacintoshとUSB接続すると、正常な接続解除ができない場合があります。

USB接続が「クローズ」され、ディスプレイにホーム画面が表示されます。

- 3 USBケーブルを外します。

ソングのバックアップとリストア

ソングのバックアップでは、オーディオトラックだけでなく編集データなどもバックアップします。ソングのリストアは、これと逆のプロセスになります。つまり、コンピュータハードディスクから本機のFATパーティションへ転送し、ソングデータを復元します。

ソングをバックアップする

- バックアップを開始する前に、バックアップするソングを含むMTRパーティションが選択されていることを確認してください。(→29ページ「アクティブパーティションを選択する」)

- 1 MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってDATA BACKUPメニューを選択し、YES/ENTERキーを押します。
- 2 DATAダイアルを使ってSONG BACKUP項目を選択し、YES/ENTERキーを押します。



- 3 DATAダイアルを使ってバックアップしたいソングを反転表示して、YES/ENTERキーを押します。
- 4 CURSOR◀/▶キーやDATAダイアルを使って、ソングの名前(最大8文字)を付けます。(→24ページ「名前の編集」)



- 5 YES/ENTERキーを押します。

ソングがアクティブパーティションからFATパーティションにバックアップコピーされます(拡張子“.001”が付加されます)。ディスプレイには進行状況を示すアイコンが表示されます。

なおFATパーティションに必要な空きスペースがない場合、エラーメッセージが表示されます。

ヒント

FATパーティションにソングをバックアップするのに必要な空きスペースがない場合、本機をパソコンに接続し、パソコンからの操作で不要なファイルを削除するなどして空きスペースを作る必要があります。

- 6 USBケーブルを使って本機とコンピュータを接続し、USBモードを「オープン」します。(→63ページ「USB接続する/解除する」)

- 7 パソコン側の操作で、本機のFATパーティションのBACKUPディレクトリからパソコンにバックアップファイルをコピーします。

メモ

パソコン上でソングファイルの名前を変更しないことをお勧めします。あとでファイルを本機にリストアするときに混乱する可能性があります。

- バックアップファイルをパソコンにバックアップしたら、本機のUSBモードを「クローズ」にすることができます。
- パソコンにバックアップしたファイルを、さらにCD-Rなどにバックアップすることができます。あとで、バックアップしたソングを同じDP-02/DP-02CFまたは他のDP-02/DP-02CFにリストアすることができます。このようにファイルのやりとりが自由にできますので、別の場所でオーバーダブやファイナルミックスを行なうことも簡単にできます。

ソングをリストアする

リストアは基本的にバックアップの逆の作業です。つまりパソコンから本機にバックアップファイルを転送し、ソングを復元します。

- 1 USBケーブルを使って本機とコンピュータを接続し、USBモードを「オープン」します。(→63ページ「USB接続する/解除する」)
- 2 パソコン側の操作で、パソコン上のバックアップファイルを本機のFATパーティションのBACKUPディレクトリにコピーします。
- 3 本機のUSBモードを「クローズ」します。
- 4 MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってDATA BACKUPメニューを選択し、YES/ENTERキーを押します。
- 5 DATAダイアルを使ってSONG RESTORE項目を選択し、YES/ENTERキーを押します。

画面にFATパーティション上のバックアップファイルが表示されます。



メモ

FATパーティションにファイルが存在しない場合、エラーメッセージが表示されます。

- 6 DATAダイアルを使ってリストアしたいファイルを反転表示し、YES/ENTERキーを押します。

「実際の」ソング名と確認メッセージ (Are you sure?) が表示されます。



メモ

ファイル名が短い場合、FATパーティション上のファイル名の最後にスペースが表示されますが、実際のファイル名にはそのスペースは含まれません。

- 7 YES/ENTERキーを押します。

現在ロード中のソングが保存され、ソングがリストアされてロードされます。

ディスクの空きスペースが足りない場合などは、エラーメッセージが表示されます。

トラックのインポートとエクスポート

パソコンと本機のFATパーティション間で、トラック個別のインポート/エクスポートが可能です。トラックのインポート/エクスポートに使われるファイルは16ビット、44.1kHzのモノラルWAV形式です (拡張子“.WAV”が付きます)。別の形式のオーディオを本機にインポートする場合、事前に16ビット、44.1kHzのモノラルWAVファイルに変換する必要があります。

トラックをインポートする

トラックをインポートする前に、インポート先のパーティションを選択していることと、ソングがロードされていることを確認してください。

- 1 本機とパソコンを接続し、本機のUSBモードを「オープン」します。(→63ページ「USB接続する/解除する」)
- 2 パソコン側の操作で、パソコン上のWAVファイルを本機のFATパーティションのWAVEディレクトリにコピーします。
- 3 本機のUSBモードを「クローズ」します。
- 4 MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってWAVEメニューを選択し、YES/ENTERキーを押します。
- 5 DATAダイアルを使ってIMPORT TRACK項目を選択し、YES/ENTERキーを押します。

FATパーティション上に存在するソングファイルがディスプレイに表示されます。



メモ

本機は、44.1kHz以外のサンプリング周波数のWAVファイルやステレオ形式のWAVファイルに対応していません。これらのファイルをインポートしても、ディスプレイに表示されません。

メモ

ファイル名が短い場合、FATパーティション上のファイル名の最後にスペースが表示されますが、実際のファイル名にはそのスペースは含まれません。

- 6 DATAダイアルを使って、インポートするWAVファイルを選択し、YES/ENTERキーを押します。



ディスプレイに、現在のアクティブパーティションの空きスペースサイズおよび選択したWAVファイルのサイズが表示されます。

7 DATAダイアルを使って、WAVファイルのインポート先のトラックを選択し、YES/ENTERキーを押します。

十分な空きスペースがない場合や、ファイルのフォーマットが間違っている場合など、エラーメッセージが表示されます。

メモ

インポート先のトラックは空のトラックでなければなりません。

- 本機はFATパーティションからファイルを読み、指定のトラックにインポートします。このときファイルの先頭がソングの先頭（ゼロ時位置）に対応します。
- 他の録音トラックと同じように、トラックにインポートされたファイルに対して、編集（ムーブ、コピーなど）を行なうことができます。（→58ページ「トラックの編集」）

トラックをエクスポートする

希望のトラックを16ビット、44.1kHzのモノラルWAV形式のファイルとしてエクスポートすることができます。

- 1 MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってWAVEメニューを選択し、YES/ENTERキーを押します。
- 2 DATAダイアルを使ってEXPORT TRACK項目を選択し、YES/ENTERキーを押します。

オーディオが記録されているソングトラックのファイルリストがディスプレイに表示されます。ファイル名から元のトラック番号がわかります。



メモ

オーディオが記録されていないトラックはリストに表示されません。

- 3 CURSOR▲/▼キーを使ってエクスポートするトラックを選択し、DATAダイアルを右に回します。

エクスポートするトラックとして選択され、チェックボックスがチェックされます。

複数のチェックボックスをチェックすることにより、それらをまとめてエクスポートすることができます。

チェックボックスのチェックを外したいときは、そのトラックを反転表示した状態でDATAダイアルを左に回します。



トラック名を編集するには：

SHIFTキーを押しながらMENU（TITLE）キーを押すと、以下のような画面が表示され、反転表示中のトラックの名前を編集することができます。

名前を編集し、最後にYES/ENTERキーを押します。（→24ページ「名前の編集」）

- 4 エクスポートしたいトラックにチェックマークを付け終わったら、YES/ENTERキーを押します。

FATパーティション（エクスポートするトラックのエクスポート先）の空きスペースおよびエクスポートするトラックの総容量が表示されます。



ヒント

上記手順3でトラックを選択してから（チェックマークを付けずに）YES/ENTERキーを押すと、選択したトラックだけがエクスポートされます。

- 5 YES/ENTERキーを押します。

選択したトラックが、編集した名前に拡張子“.WAV”を付加したトラックファイル名でエクスポートされます。

以前に同じ名前のトラックファイルをエクスポートしている場合、確認メッセージ（“Duplicate name—Are you sure?”）が表示されます。YES/ENTERキーを押すと上書きされます。

- 6 本機とパソコンを接続し、本機のUSBモードを「オープン」します。（→63ページ「USB接続する／解除する」）

- 7 パソコン側の操作で、トラックファイルを本機のFATパーティションのWAVEディレクトリからパソコンにコピーします。

- トラックをパソコンにエクスポートしたら、本機のUSBモードを「クローズ」することができます。

- パソコンにエクスポートしたトラックを、さらにCD-Rなどにバックアップすることもできます。

- パソコンにエクスポートしたトラックの名前を、パソコン側で変更することができます。この場合、「8.3形式」に従い、拡張子“.WAV”を付加することを忘れないでください。また特殊なシンボルなどを使用しないでください。

- パソコンにエクスポートしたトラックを、あとで同じDP-02/DP-02CFまたは他のDP-02/DP-02CFにインポートすることができます。

ステレオマスターをエクスポートする

マスタリングを終えたステレオマスター（→36ページ「マスタリング」）をパソコンにエクスポートすることができます。新しいステレオマスターを作成するとき、既存のステレオマスターは上書きされますので、複数の異なるステレオマスターを残しておきたい場合はパソコンに保存するとよいでしょう。

以下に述べるエクスポート手順を開始する前に、ステレオマスターをエクスポートするソングが現在ロードされていることを（もちろん、ステレオマスターが作成されていることも！）確認してください。

- 1 MENUキーを押し、DATAダイアルを使ってWAVEメニューを選択し、YES/ENTERキーを押します。
- 2 DATAダイアルを使ってEXPORT MASTER項目を選択し、YES/ENTERキーを押します。

デフォルトのファイル名が表示されます。この状態で編集が可能です。



メモ

ステレオマスターが存在しない場合、エラーメッセージが表示されます。

- 3 CURSOR◀/▶キーとDATAダイアルを使って、エクスポートするステレオマスターファイルの名前を編集します。（→24ページ「名前の編集」）

メモ

エクスポートをキャンセルしたい場合は、NO/EXITキーを押します。

- 4 編集を終えたら、YES/ENTERキーを押します。
 - 16ビット、44.1kHzの1つのステレオWAVファイルとして、ステレオマスターがエクスポートされます。
 - 上記手順3で編集した名前に拡張子“.WAV”を付加したファイル名でエクスポートされます。
- 5 USBケーブルを使ってvとコンピュータを接続し、USBモードを「オープン」します。（→63ページ「USB接続する／解除する」）
- 6 パソコン側の操作で、本機のFATパーティションのWAVEディレクトリ内のステレオマスターファイルをパソコンにコピーします。
 - ファイルをコピーしたら、本機のUSBモードを「クローズ」します。

第14章 CDを使う [DP-02のみ]

このセクションでは、DP-02のCD-R/RWドライブの機能について説明します。CDを使った機能と対応メディアの関係については、メディア対応表（74ページ）をご覧ください。

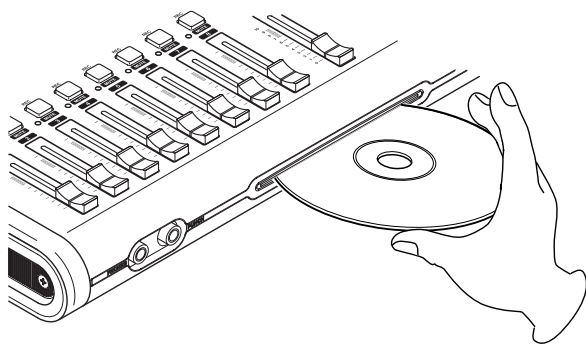
CDをセットする／取り出す

CDはフロントパネルのCDスロットにセットされます。

注意

INPUT LEVEL ノブの設定によっては、CDの出し入れなどの操作するとディスクのローディングノイズが聞こえる場合があります。ノイズが録音データに混入しないよう、録音中はCDの操作を行わないで下さい。

CDをセットする



- 1 図のようにレーベル面を上にしてディスクの側面を持って、途中までディスクを挿入してください。
- 2 さらにディスクを押していくと、ディスクが挿入口に隠れる直前で自動的に引き込まれます。

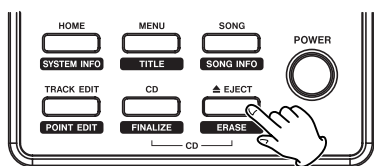
ディスクがうまく入らないとき

ディスクが引っかかる等、押しにくい時は、無理に押し込まずに一度ディスクを抜いてEJECTキーを押してから、再度入れ直してください。（無理に押し込むと、製品を破損する場合があります。）

CDを取り出す

- CDの取り出しは、ハードディスクおよびCDドライブが停止状態のときに可能です。

EJECTキーを押します。



途中までCDが排出されますので、手で引き出してください。

強制排出

CD挿入口の下部にディスクの強制排出用の穴があります。

電源を切った状態でディスクを取り出す必要がある場合、この穴にクリップなどを伸ばした細長いピンを差し込んで手で取り出すことができます。

何度かピンを奥に押し込む操作を繰り返すと、やがてディスクが出てきます。さらに数回、ピンを押し込む操作を繰り返して、ディスクが半分程度出てきたら、手で引き出します。

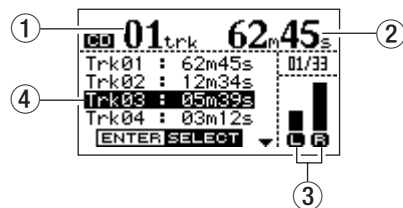
オーディオCDを再生する

- 1 オーディオCDをセットします。
- 2 CDキーを押して、CDメニューを表示します。



- 3 CDメニューからCD PLAYERを選択し、YES/ENTERキーを押します。

CD PLAYER画面が表示され、CD-RWドライブがCDプレーヤーとして機能します。



- ① 現在再生中のトラック番号を表示します。
- ② 現在再生中のトラック番号の、先頭からの経過時間を表示します。
- ③ CDに記録されているオーディオのレベルメーターです。本機のLINE OUT端子やPHONES端子へ送られるCD信号レベルは、MASTERフェーダーで調整できます。
- ④ トラック番号とトラック時間を表示します。

DATAダイアルまたはCURSOR▲/▼キーにより、選択トラックを上下に移動できます。CDプレーヤー停止中に、PLAYキーまたはENTERキーを押すと、選択トラックが再生されます。

- 4 CD PLAYER画面表示中は、以下のキー／ダイアルを使うことにより、CDプレーヤーのコントロールを行なうことができます。

- STOPキー：CDプレーヤーを停止
- PLAYキー：停止中に押すと、選択されたトラックを再生
- F FWDキー：次のトラックへスキップ
- REWキー：現在のトラックの先頭へスキップ
- DATAダイアル：再生するトラックを選択
- STOP + REWキー：CDの最初のトラックにスキップして停止
- YES/ENTERキー：選択されたトラックを再生
- CURSOR▲/▼キー：再生するトラックを選択

メモ

- 再生中、トラックを選択しても再生には反映されません。いったん停止してから再生を行なうと選択したトラックが再生されます。
- 早送り、早戻しはできません。

オーディオCDを作成する

DP-02では、各ソングごとに作成したステレオマスター（→36ページ「マスタリング」）をCD-RまたはCD-RWに書き込み、一般のCDプレーヤーで再生可能なオーディオCDを作成することができます。

CDを作成する方法には、以下の2つがあります。

ディスク・アット・ワンス (DAO = Disk At Once)

複数のステレオマスターを、一度に書き込む方法です。

一般のCDプレーヤーで再生するためのファイナライズ（→70ページ「ファイナライズする」）まで自動実行するため、書き込み終了後すぐに他のCDプレーヤーでの再生が可能となります。

ディスク・アット・ワンスでは自動でファイナライズまで実行するため、終了後CDへの追記はできません。

トラック・アット・ワンス (TAO = Track At Once)

ステレオマスターを、1トラックずつCDに書き込む方法です。

何回かに分けてCDへの書き込みを行ないたい場合はトラック・アット・ワンスで行ないます。

トラック・アット・ワンスでは、自動でのCDのファイナライズは行ないません。ファイナライズしていないCDは一般のCDプレーヤーでは再生できません。(DP-02での再生は可能です)

書き込みたいステレオマスターをすべてトラック・アット・ワンスで書き込んだ後、ファイナライズ（→70ページ「ファイナライズする」）を行なってください。ファイナライズ終了後はCDへの追記ができません。

ディスク・アット・ワンスで書き込む

ディスク・アット・ワンスで複数トラックを書き込む場合、自由にトラックの順番を設定できます。

また、曲間に指定の長さの無音部分を追加することができます。

- CDスロットに未使用のCD-R/CD-RWまたは消去済みのCD-RWをセットします。
- CDキーを押してCDメニュー画面を表示します。
- DATAダイアルを使ってMASTER WRITERを選択し、YES/ENTERキーを押します。



ステレオマスターが録音されているソングの一覧が表示されません。



- CURSOR▲/▼キーを使って、CDに書き込みたいソングを選択し、DATAダイアルを右に回します。

選択したソングのチェックボックスがチェックされます。

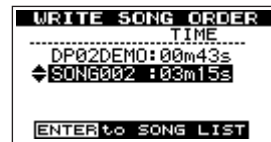
チェックを外すにはDATAダイアルを左に回します。

- 上記の手順4を必要に応じて繰り返します。
- 書き込むソングが決まったら、YES/ENTERキーを押します。

WRITE SONG LIST画面が表示されます。

この画面では、CDに書き込むステレオマスターの順番および曲間ギャップを設定することができます。

- (ソングの順番を変更するには) DATAダイアルを使って順番を変えたいソングを選択し、CURSOR◀キーを押します。



ソング名の手前に上下矢印が表示されます。

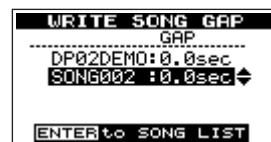
- DATAダイアルを使ってソング位置を移動します。
- 曲順を変更したら、YES/ENTERキーを押します。

WRITE SONG LIST画面に戻ります。

メモ

順番を変えたいソングが複数ある場合は、上記手順7～9を繰り返してください。

- (曲間ギャップを変更するには) DATAダイアルを使って曲間ギャップを変えたい曲を選択し、CURSOR▶キーを押します。



現在の曲間ギャップ秒数の後ろに上下矢印が表示されます。

- DATAダイアルを使って曲間ギャップを設定します。

曲間ギャップは0.0秒から9.9秒まで0.1秒単位で設定が可能です。

第14章 CDを使う

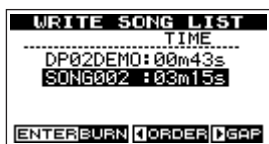
12 変更を終えたら、YES/ENTERキーを押します。

WRITE SONG LIST画面に戻ります。

メモ

曲間ギャップを変えたいソングが複数ある場合は、上記手順10～12を繰り返してください。

13 曲順と曲間ギャップの設定が終了したら、YES/ENTERキーを押します。



14 確認のメッセージが表示されますので、再度YES/ENTERキーを押します。

CDへの書き込みが開始されます。

15 書き込み終了後、同じ内容をさらに別のCDに書き込むかどうかの確認メッセージが表示されます。



別のCDに書き込む場合は、YES/ENTERキーを押します。

別のCDに書き込まない場合は、NO/EXITキーを押します。

トラック・アット・ワンスで書き込む

トラック・アット・ワンスでは、1トラックの書き込みを終えると、最後に2秒間の無音を記録します。

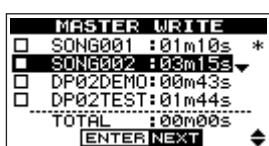
1 CDスロットに未使用のCD-R/CD-RWまたは消去済みのCD-RWをセットします。

2 CDキーを押してCDメニュー画面を表示します。

3 DATAダイアルを使ってMASTER WRITERを選択し、YES/ENTERキーを押します。



ステレオマスターが録音されているソングの一覧が表示されます。



4 CURSOR▲/▼キーを使って、CDに書き込みたいソングを1曲選択し、DATAダイアルを右に回します。

選択したソングのチェックボックスがチェックされます。

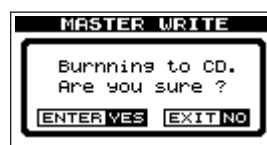
5 YES/ENTERキーを押します。

書き込み後にファイナライズするかどうかを選択する画面が表示されます。

これ以上CDへの書き込みを行なわない場合はファイナライズを行ないます。

6 ファイナライズする場合にはDATAダイアルでONを、ファイナライズしない場合はDATAダイアルでOFFを選択し、再度YES/ENTERキーを押します。

以下の書き込み確認メッセージが表示されます。



7 YES/ENTERキーを押します。

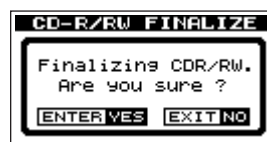
CDへの書き込みが開始されます。

ファイナライズする

TAOで書き込んだCDにこれ以上書き込みを行なわない場合、一般のCDプレーヤーで再生できるようにファイナライズを行ないます。

1 SHIFTキーを押しながらCDキーを押します。

ファイナライズの確認メッセージが表示されます。



2 もう一度YES/ENTERキーを押します。

ファイナライズが開始されます。

CDからWAVファイルをインポートする

データCD上に記録されているWAVフォーマットのファイルを、現在ロードされているソングのトラックにインポートすることができます。

メモ

インポート、エクスポートで扱えるWAVファイルは、16ビット、44.1kHzのモノラルのファイルのみです。(このフォーマット以外のファイルは、ファイル名表示もされません。)

- 1 CDスロットにWAVフォーマットのファイルが記録されているCDをセットします。
- 2 CDキーを押してCDメニュー画面を表示します。
- 3 DATAダイヤルを使ってCD IMPORTを選択し、YES/ENTERキーを押します。



CD上に記録されているWAVフォーマットのファイル名がリスト表示されます。



- 4 DATAダイヤルを使って、インポートするWAVファイルを選択し、YES/ENTERキーを押します。
- 5 DATAダイヤルを使って、WAVファイルのインポート先トラックを選択し、YES/ENTERキーを押します。

CDからのインポートが実行され、終了するとCDメニュー画面に戻ります。

CDにトラックデータをエクスポートする

現在ロードされているソングのトラックデータをWAVフォーマットのファイルに変換して、CDに書き込むことができます。

- 1 CDトレイに未書き込みのCD-R/CD-RWまたは消去済みのCD-RWをセットします。
- 2 CDキーを押してCDメニュー画面を表示します。
- 3 DATAダイヤルを使ってCD EXPORTを選択し、YES/ENTERキーを押します。



オーディオが記録されているトラックのファイルリストが表示されます。

- 4 CURSOR▲/▼キーを使ってエクスポートしたいトラックを反転表示し、DATAダイヤルを右に回します。

エクスポート元として選択され、チェックボックスがチェックされます。



メモ

チェックボックスのチェックを外したいときは、反転表示した状態でDATAダイヤルを左に回します。

- 5 複数のトラックをエクスポートする場合、手順4を繰り返します。
- 6 エクスポートするトラックをすべて選択したら、YES/ENTERキーを押します。

CDの空き容量とエクスポートするトラックの総容量が表示されます。

- 7 YES/ENTERキーを押します。

以下の確認メッセージが表示されます。



- 8 もう一度YES/ENTERキーを押します。

CDへのエクスポートが開始されます。

- 9 CDへのエクスポート後、同じ内容をさらに別のCDにエクスポートするかどうかの確認画面が表示されます。



別のCDにエクスポートする場合は、ENTERキーを押します。

別のCDにエクスポートしない場合は、EXITキーを押します。

CDにソングデータをバックアップする

ソングデータをCDにバックアップ（書き込み）することができません。

- 1 CDトレイに未書き込みのCD-R/CD-RWまたは消去済みのCD-RWをセットします。
- 2 CDキーを押してCDメニュー画面を表示します。
- 3 DATAダイアルを使ってCD BACKUPを選択し、YES/ENTERキーを押します。



現在選択されているパーティションに含まれているソングリストが表示されます。



- 4 DATAダイアルを使って、バックアップするソングを選択し、YES/ENTERキーを押します。

CDに書き込むファイル名の登録画面が表示されます。



メモ

バックアップCDに書き込めるソングは1つだけです。

- 5 CURSORキーとDATAダイアルを使って、ソングの名前（最大8文字）を付けます。（→24ページ「名前の編集」）
- 6 YES/ENTERキーを押します。

確認メッセージが表示されます。



- 7 もう一度YES/ENTERキーを押します。

ソングを保存後、バックアップに必要なCDの枚数が表示されます。

- 8 表示された枚数のCDを準備し、YES/ENTERキーを押します。CDへのバックアップが開始されます。

- 9 1枚目のCDへの書き込みが終了後、2枚目のCDの要求メッセージが表示されたら、ブランクCDをセットしてください。

書き込み済みCD-RWディスクをセットすると以下のメッセージが表示されます。



ENTERキーを押すと、CD-RWディスクを消去後バックアップが続行されます。

CD-RWディスクを消去したくない場合は、EJECTキーを押してディスクを取り出し、別のディスクをセットしてください。

CDからソングをリストアする

CDにバックアップしてあるソングをリストア（読み込み）します。

- 1 CDトレイにバックアップファイルが記録されているCDを入れます。
- 2 CDキーを押してCDメニュー画面を表示します。
- 3 DATAダイアルを使ってCD RESTOREを選択し、YES/ENTERキーを押します。



CD上に記録されているバックアップソング名が表示されます。



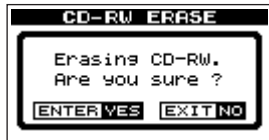
- 4 YES/ENTERキーを押します。
- 5 複数枚のCDにバックアップされていた場合には、一枚目のCDからのリストアが終了後、2枚目のCDを要求するメッセージが表示されますので、バックアップCDをセットします。

CD-RWを消去する

以下の手順で書き込み済みCD-RWディスクを消去することができます。

- 1 SHIFTキーを押しながらEJECTキーを押します。

以下の確認メッセージが表示されます。



- 2 もう一度YES/ENTERキーを押します。

CD-RWディスクの消去が開始されます。

消去が終わるとCDメニュー画面になります。

メモ

CD-Rディスクは消去できません。

メディア対応表

	オーディオCD再生	オーディオCD書き込み データバックアップ データエクスポート	データリストア データインポート
12cmCDDA規格フォーマット CD-R/CD-RW本機で作成	○	—	—
12cmCDDA規格フォーマット 市販CD	○	—	—
12cmCDDA規格フォーマット CD-R/CD-RW本機以外で作成	△	—	—
12cmCDDA規格フォーマット CD-R/CD-RW本機で作成 未ファイナライズ	○	—	—
12cmCDDA規格フォーマット CD-R/CD-RW本機以外で作成 未ファイナライズ	×	—	—
8cmCDDA規格フォーマット 市販CD	×	—	—
CDDA規格外フォーマット 市販CD (プロテクトCD, DATA CD,CD extra 等)	△	—	—
CDDA規格外フォーマット CD-R/CD-RW (DATA CD,CD extra 等)	△	—	—
12cm "Ultra Speed" CD-RWメディア	×	×	×
12cm CD-R/CD-RW ~HIGH Speed	—	○	—
8cm CD-R/CD-RW	—	×	—
記録済みCD-R/CD-RW (CD-RWはERASEで使用可)	—	×	—
12cm ISO 9660 Level1 CD-R/CD-RW 本機でBackup	—	—	○
12cm ISO 9660 Level1 CD-R/CD-RW 本機以外で作成	—	—	○
12cm ISO 9660 Level1 以外 CD-R/CD-RW	—	—	×
8cm ISO 9660 Level1 CD-R/CD-RW	—	—	△
12cm ISO 9660 Level1 CD-R/CD-RW 本機用データ以外を追記	—	—	△

○：対応 △：動作保証外 ×：非対応

トラブルシューティング

本機を使って作業しているとき、思いどおりに動作してくれなかったり、どうしていいかわからないような場合、まずこのトラブルシューティングをご覧ください。「よくあるトラブル」とそれに対する「考えられる原因」が書かれています。

また78ページ「一般メッセージ」、80ページ「CD操作メッセージ」、82ページ「CD操作に関するエラーメッセージ」には、ディスプレイに表示されるメッセージの内容／意味が表にまとめてあります。行なった操作に対して、メッセージが表示されて本機が操作を受け付けられない場合、この表を参考にしてください。

再生しているのに音が出ない

- トラックフェーダーは適正なレベルまで上がっていますか？
- MASTER フェーダーは適正なレベルまで上がっていますか？
- LINE OUTPUT 端子からモニターシステムに正しく接続されていますか？ またモニターシステムが正しく設定されていますか？
- トラックがミュートされていませんか？（MUTE インジケータが点灯していませんか？）ミュートされている場合、SHIFT キーを押しながら REC キーを押してください。
- ヘッドホンを使ってモニターしている場合、PHONES つまみが適正なレベルまで上がっていますか？

録音しようとするサウンドが歪んで聞こえる

- 本機のトップパネルの LEVEL つまみが上がりすぎていませんか？
- アコースティック楽器を録音する場合、エレキギター用のエフェクトをかけていませんか？ [DP-02]
- モニターレベルが高すぎて、モニターシステムが歪んでいませんか？

録音ができない

- RECORD キーを押しながら PLAY キーを押して録音を開始する時点で、少なくともいずれか一つのトラックが録音待機状態（REC インジケータ点滅）になっていますか？
- 入力がトラックにアサインされていますか？（→33ページ「入力をアサインする」）

パソコン上に本機のファイルが表示されない

- 本機がUSB 端子経由でパソコンに接続されていて、USB モードが「オープン」になっていますか？（→63ページ「USB 接続する／解除する」）
- USB モードを「オープン」する前に、FAT パーティションにソング、トラックまたはステレオマスターをバックアップまたはエクスポートしてありますか？（パソコンからはソング用 MTR パーティション内のファイルを読むことはできません。）

選択したエフェクトがかからない [DP-02]

- EFFECT キーまたは REVERB キーが点灯していますか？
- REVERB の場合、（エフェクトをかけるトラックの）EFFECT SEND つまみと EFFECT RETURN つまみが上がっていますか？
- EFFECT の場合、ボリュームが低すぎませんか？ またはパラメータ設定が低すぎませんか？（→44ページ「マルチエフェクト」）

第16章 仕様・メッセージ・ブロックダイアグラム

仕様

アナログ入出力

INPUT (A, B)

標準ホンジャック (アンバランス) 入力

入力インピーダンス	10k Ω 以上 (INPUT B、およびINPUT Aの切換スイッチを“MIC/LINE”に設定時) 1M Ω (INPUT A、切換スイッチを“GUITAR”に設定時)
-----------	---

規定入力レベル	-44dBV ~ -4dBV
---------	----------------

最大入力レベル	+12dBV
---------	--------

XLRコネクタ入力 (バランス)

入力インピーダンス	2.4k Ω
-----------	---------------

規定入力レベル	-48dBu ~ -8dBu
---------	----------------

最大入力レベル	+8dBu
---------	-------

RETURN (L, R)

コネクタ	標準ホンジャック (アンバランス)
------	-------------------

入力インピーダンス	10k Ω 以上
-----------	-----------------

規定入力レベル	-10dBV
---------	--------

最大入力レベル	+6dBV
---------	-------

STEREO MIX (L, R)

コネクタ	ϕ 3.5ステレオミニジャック (アンバランス)
------	-------------------------------

入力インピーダンス	10k Ω 以上
-----------	-----------------

規定入力レベル	-10dBV
---------	--------

最大入力レベル	+6dBV
---------	-------

LINE OUTPUT (L, R)

コネクタ	RCAピンジャック
------	-----------

出力インピーダンス	1k Ω
-----------	-------------

規定出力レベル	-10dBV
---------	--------

最大出力レベル	+6dBV
---------	-------

SEND (L, R)

コネクタ	標準ホンジャック (アンバランス)
------	-------------------

出力インピーダンス	1k Ω
-----------	-------------

規定出力レベル	-10dBV
---------	--------

最大出力レベル	+6dBV
---------	-------

PHONES

コネクタ	標準ホンジャック (ステレオ)
------	-----------------

最大出力	25mW + 25mW (30 Ω)
------	----------------------------

デジタル出力

DIGITAL OUT

コネクタ	角型オプティカル
------	----------

データフォーマット	S/PDIF1
-----------	---------

オーディオ性能

周波数特性	20Hz ~ 20kHz +1dB / -3dB
-------	--------------------------

S/N比	85dB以上 (A-weighted, 22kHzLPF)
------	-------------------------------

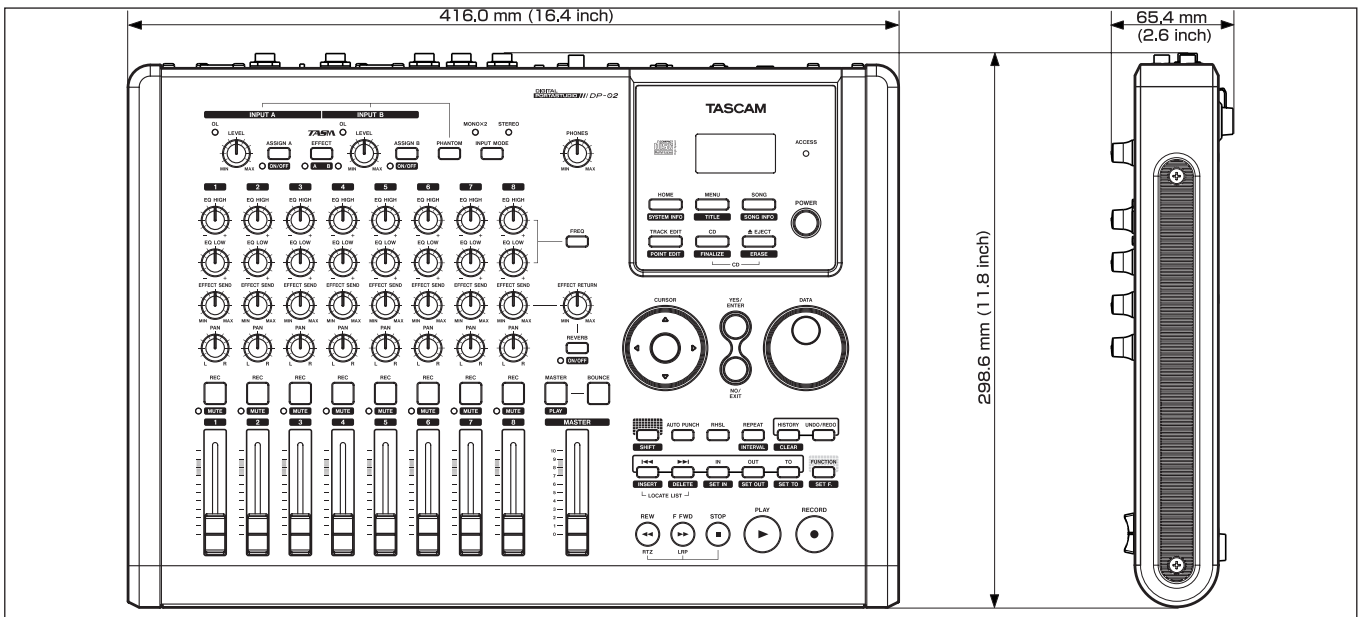
THD (歪率)	0.02%以下 (1kHz, -10dBV, 22kHz LPF, MASTER フェーダー基準位置)
----------	---

一般

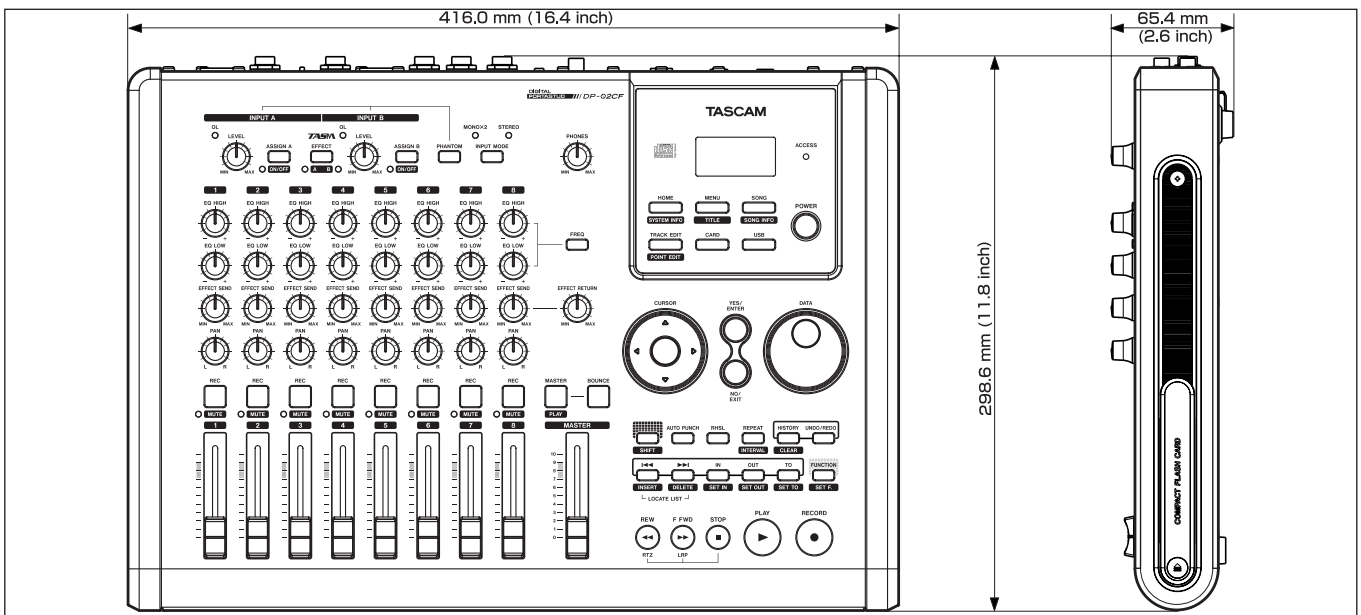
電源

ACアダプター入力	AC100 – 240V、50Hz – 60Hz
ACアダプター出力電圧	12V DC
ACアダプター出力電流	2.5A
消費電力	DP-02CF: 8W、DP-02: 11W
質量	DP-02CF: 4.1kg、DP-02: 4.5kg
外形寸法	DP-02CF: 416 (幅) × 65.4 (高さ) × 298.6 (奥行) mm DP-02: 418 (幅) × 65.4 (高さ) × 298.6 (奥行) mm

外形寸法図



DP-02 外形寸法図



DP-02CF 外形寸法図

一般メッセージ

以下にポップアップメッセージの一覧表を示します。DP-02では状況に応じてポップアップメッセージが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

Empty Export Track	<p>「エクスポートトラックが空っぽです。」</p> <p>何も録音されていないトラックをエクスポートしようとする则表示されます。(→65ページ「トラックのインポートとエクスポート」)別のトラックをエクスポートしてください。</p>
File Not Found	<p>「ファイルが見つかりません。」</p> <p>FATパーティションにバックアップされたソングがないときに、ソングをリストアしようとする则表示されます。(→64ページ「ソングのバックアップとリストア」)</p>
I/O Too Short	<p>「INポイントとOUTポイントが近すぎます。」</p> <p>リピートモードに入ろうとするときにINポイントとOUTポイントが近すぎると表示されます。INポイントとOUTポイントをもっと離して下さい。</p>
Import File Not Found	<p>「インポートするファイルが見つかりません。」</p> <p>WAVファイルのないFATパーティションからWAVファイルをインポートしようとしています。(→65ページ「トラックをインポートする」)</p> <p>本機をパソコンに接続して、インポートするファイルをパソコンから本機のFATパーティションに転送してください。</p>
Import File Too Big	<p>「インポートするファイルが大きすぎます。」</p> <p>パーティションの空きスペースより容量の大きいWAVファイルをFATパーティションからインポートしようとしています。ファイルを削除してパーティションのスペースを拡げてから再度インポートを試みてください。</p>
In Bounce Mode	<p>「バウンスモード中です。」</p> <p>バウンスモード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。</p>
In Master Mode	<p>「マスタリングモード中です。」</p> <p>マスタリングモード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。</p>
In Punch Mode	<p>「パンチイン/アウトモード中です。」</p> <p>パンチイン/アウトモード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。</p>
In Repeat Mode	<p>「リピートモード中です。」</p> <p>リピートモード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。</p>
Mark Full	<p>「ロケートマークをこれ以上登録できません。」</p> <p>1つのソング内のロケートマーク数は最大999までです。(→39ページ「ロケートマーク」)</p> <p>新しいロケートマークを登録するには、不要なロケートマークを削除してから行なってください。</p>
Master Track Not Found	<p>「マスタートラックが見つかりません。」</p> <p>ステレオマスターがソング内に録音されていないときにステレオマスターをエクスポートしようとする则表示されます。(→67ページ「ステレオマスターをエクスポートする」)</p> <p>ソングをマスタリングしてから、ステレオマスターをエクスポートしてください。</p>
Master Track Too Big	<p>「マスタートラックが大きすぎます。」</p> <p>FATパーティションの空き容量より大きなステレオマスターをエクスポートしようとしています。(→67ページ「ステレオマスターをエクスポートする」)</p> <p>本機をパソコンに接続して、FATパーティションの空きスペースを拡げてください。</p>
No Armed Track	<p>「録音待機トラックがありません。」</p> <p>トラックを録音待機にしないでオートパンチイン/アウトモードに入ろうとしています。(→40ページ「オートパンチイン/アウト」)</p> <p>録音待機にしてからAUTO PUNCHキーを押してください。</p>

No Disk Space	<p>「ディスクスペースがありません。」</p> <p>パーティションに十分な空きスペースがないときにソングを作成しようとすると、このメッセージが表示されます。(→30ページ「新しいソングを作成する」)</p> <p>スペースを拡げてからソングを作成してください。</p>
No Locate Mark	<p>「ロケートマークがありません。」</p> <p>ロケートマークが登録されていないときにロケートマークリストを編集しようとすると表示されます。(→39ページ「ロケートマーク」)</p>
No Master Trk	<p>「マスタートラックが存在しません。」</p> <p>トラックのクローンを作るとき、存在しないマスタートラックをソースとして選択しようとすると表示されます。(→61ページ「クローントラック (トラックの複製) [CLONE TRACK]」)</p> <p>マスタートラックを作るか、または別のソースを選択してください。</p>
No Redo Histy	<p>「Redoのヒストリーがありません。」</p> <p>Undoを行っていないため、Redoするべき操作が存在しません。(→37ページ「実行した操作を取り消す (UNDO)」)</p>
No Song	<p>「ソングがありません。」</p> <p>ソングが存在しないパーティションからソングをロードしようとしています。(→29ページ「ソングをロードする」)</p> <p>パーティションを変更してください。(→29ページ「アクティブパーティションを選択する」)</p>
No Undo Histy	<p>「Undoのヒストリーがありません。」</p> <p>Undoするような操作が存在しません。(→37ページ「実行した操作を取り消す (UNDO)」)</p>
Not Stopped	<p>「レコーダーが停止していません。」</p> <p>レコーダーが停止していないとき、たとえばBOUNCEキーのように停止中でないと受け付けられないキーを押すと、このメッセージが表示されます。</p>
Now Recording	<p>「レコーディング中です。」</p> <p>レコーディングを行なっているときにメニュー操作を行なおうとすると表示されます。他にもレコーディング中に受け付けられない操作があります。</p>
Same Track	<p>「同じトラックを指定しています。」</p> <p>クローントラック設定で、「Src Trk」と「Dst Trk」とで同じトラックを指定すると表示されます。</p>
Song Protected	<p>「ソングがプロテクトされています。」</p> <p>プロテクトされているソングに変更 (録音、編集など) を加えようとすると表示されます。(→32ページ「ソングをプロテクトする」)</p> <p>変更を加える前にプロテクトを解除してください。</p>
Too Many Songs	<p>「これ以上ソングを作成できません。」</p> <p>一つのパーティションが持つことができるソングの数は最大250です。不要なソングを削除してから、新しいソングを作成してください。</p>
Track Full	<p>「トラックが録音済みです。」</p> <p>FATパーティションからすでに録音されているトラックにファイルをインポートしようとすると表示されます。(→65ページ「トラックをインポートする」)</p>
Trk Too Short	<p>「トラックが短すぎます。」</p> <p>ゼロポジションをOUTポイントに設定してマスタリングを行なおうとすると表示されます。(→36ページ「マスタリング」)</p> <p>OUTポイントを設定し直してください。(→40ページ「IN / OUT / TO ポイント」)</p>

CD操作メッセージ

Blank CD Insert CD-RW	<p>「ブランクのCDがセットされています、ブランクでないCD-RWをセットしてください。」</p> <p>CD-RW ERASEメニューで、消去済みのCD-RWまたは未書き込みのCD-Rがセットされた場合表示されます。セットされているCDは消去する必要がありません。</p>
Blank CD Insert Opened CD	<p>「ブランクのCDがセットされています、ファイナライズされていないCDをセットしてください。」</p> <p>FINALIZEメニューで、消去済みのCD-RWまたは未書き込みのCD-Rがセットされた場合表示されます。</p> <p>FINALIZEしたいCDをセットしてください。</p>
Empty Export Track	<p>「エクスポート可能なトラックがありません。」</p> <p>CD EXPORTメニューでトラック1-8にオーディオデータが記録されていない場合表示されます。</p>
Finalized CD Insert CD-RW	<p>「クローズされたCDがセットされています、ブランクでないCD-RWをセットしてください。」</p> <p>CD-RW ERASEメニューでファイナライズ済みのCD-Rがセットされた場合表示されます。</p> <p>CD-RWのみが消去可能です。</p>
Finalized CD Insert Opened CD	<p>「ファイナライズ済みのCDがセットされています、ファイナライズされていないCDをセットしてください。」</p> <p>ファイナライズメニューで、ファイナライズ済みのCDがセットされた場合表示されます。</p> <p>このCDはファイナライズの必要がありません。</p>
Import File Not Found	<p>「インポートファイルが見つかりません、インポートCDをセットしてください。」</p> <p>CD IMPORTメニューでセットされたCDにインポートファイルがない場合表示されます。</p> <p>インポートデータが書き込まれたCDをセットしてください。</p>
Import File Too Big	<p>「インポートファイルが大きすぎます。」</p> <p>CD IMPORTメニューでインポートを実行する際、インポートするファイル容量がハードディスクの空き容量以上であった場合表示されます。</p> <p>ヒストリークリアーなどでハードディスク上の空き容量を増やし、ハードディスク上にインポートファイルを読み込めるだけの空き容量を確保してください。</p>
Invalid CD Insert Backup CD	<p>「無効なCDがセットされています、バックアップCDをセットしてください。」</p> <p>CD RESTOREメニューで、バックアップデータが書き込まれていないCDがセットされている場合表示されます。</p> <p>バックアップデータが書き込まれたCDをセットしてください。</p>
Invalid CD Insert Blank CD	<p>「無効なCDがセットされています、ブランクCDをセットしてください。」</p> <p>MASTER WRITE, CD BACKUP, CD EXPORTメニューでCDへの書き込みを行う際、ブランクCD以外のCDがセットされている場合表示されます。(Track at Onceで書き込みを行う場合は、ファイナライズ済みのCDがセットされた場合もこのメッセージが表示されます。)</p> <p>ブランクCDをセットしてください。</p>
Invalid CD Insert CD-RW	<p>「無効なCDがセットされています、CD-RWをセットしてください。」</p> <p>CD-RW ERASEメニューで、CD-Rなど消去できないCDがセットされた場合表示されます。</p> <p>消去したいCD-RWをセットしてください。</p>
Invalid CD Insert Import CD	<p>「無効なCDがセットされています、インポートCDをセットしてください。」</p> <p>CD IMPORTメニューでオーディオ CDやブランクCDなど、無効なCDがセットされた場合表示されます。</p> <p>インポートデータが書き込まれたCDをセットしてください。</p>
Invalid CD Insert Opened CD	<p>「無効なCDがセットされています、ファイナライズされていないCDをセットしてください。」</p> <p>ファイナライズメニューで、ファイナライズできないCDがセットされた場合表示されます。</p> <p>ファイナライズしたいCDをセットしてください。</p>

Low Capacity Insert Blank CD	<p>「容量の少ないCDがセットされました、適正な容量のブランクCDをセットしてください。」</p> <p>CDへのMASTER WRITE (Disc at Once)、CD BACKUPまたはCD EXPORT終了後、さらに同じ内容のCDを複数作成しようとしたとき、CDの容量が書き込みたいデータ容量以下であった場合表示されます。(例えば、最初の書き込み時にCDの容量が700 MB/データ容量が650 MBで書き込みを実行し、書き込み終了後“Another CD?”表示の後、640 MBのCDをセットした場合などに表示されます。)</p> <p>適正な容量のブランクCDをセットしてください。</p>
No disk Insert Backup CD	<p>「CDがセットされていません、バックアップCDをセットしてください。」</p> <p>CD RESTOREメニューで、CDがトレイにない場合表示されます。</p> <p>バックアップデータが書き込まれたCDをセットしてください。</p>
No disk Insert Blank CD	<p>「CDがセットされていません、ブランクCDをセットしてください。」</p> <p>MASTER WRITE、CD EXPORTメニューでCDへの書き込みを行う際、CDがトレイにない場合表示されます。</p> <p>CD BACKUPメニューでバックアップ準備完了後、CDトレイがオープンされた場合表示されます。</p> <p>ブランクCDをセットし、トレイをクローズしてください。</p> <p>ブランクCDをセットしてください。</p>
No disk Insert CD-RW	<p>「CDがセットされていません、ブランクでないCD-RWをセットしてください。」</p> <p>CD-RW ERASEメニューで、CDがトレイにない場合表示されます。</p> <p>消去したいCD-RWをセットしてください。</p>
No disk Insert Import CD	<p>「CDがセットされていません、インポートするCDをセットしてください。」</p> <p>CD IMPORTメニューで、CDがトレイにない場合表示されます。</p> <p>インポートデータが書き込まれたCDをセットしてください。</p>
No disk Insert Opened CD	<p>「CDがセットされていません、ファイナライズされていないCDをセットしてください。」</p> <p>ファイナライズメニューで、CDがトレイにない場合表示されます。</p>
No Room On CD Press EXIT	<p>「CDの容量以上のデータが書き込まれようとした、メニューを抜けてください」</p> <p>MASTER WRITEメニューでCDへの書き込みを開始時、指定したマスタートラックの合計容量がセットされたCDの容量以上になった場合表示されます。NO/EXITキーを押してメニューを抜け、再度書き込むトラックの指定を行ってください。</p>
No Room On HD Press EXIT	<p>「ハードディスクの容量が不足しています、メニューを抜けてください」</p> <p>MASTER WRITE、CD BACKUP、CD EXPORTメニューでCDへの書き込みを開始時、ハードディスク上にCDイメージファイルを作る空き容量がない場合表示されます。</p> <p>ヒストリークリアーなどでハードディスク上の空き容量を増やし、ハードディスク上にCDイメージファイルを作成できる空き容量を確保してください。</p>
Not Blank Insert Blank CD	<p>「ファイナライズされていないCDがセットされています、ブランクCDをセットしてください」</p> <p>MASTER WRITEメニューでDisc at Onceの書き込みを行う際、Track at Onceで書かれたCDがセットされている場合表示されます。</p> <p>ブランクCDをセットするか、Track at Onceで書き込みを行ってください。</p>
Track Full	<p>「空きのトラックがありません。」</p> <p>CD IMPORTメニューでインポートを実行する際、インポートするトラックがない場合(すべてのトラックが使用済み)表示されます。</p> <p>CLEAN OUTで空きトラックを作った後インポートを行うか、新規のソングを作成後インポートを行ってください。</p>
Wrong Order InsertBackup CD	<p>「CDの順番が間違っています、バックアップCDをセットしてください。」</p> <p>CD RESTOREメニューで複数枚のリストアを実行中、BACKUP CDの順番を間違えてセットした場合表示されます。</p> <p>適正なバックアップCDをセットしてください。</p>

CD操作に関するエラーメッセージ

CDメディアの読み取り／書き込みエラーなどにより、CD関連作業に問題があった場合、以下のポップアップメッセージが表示されます。

表示された場合は、**NO/EXIT** キーを押してメニューから抜け、メディアの状態などを確認後、作業を最初からやり直してください。

Backup Error Press EXIT

BACKUP実行の過程でエラーが発生しました。

CD Read Error Press EXIT

FINALIZE, BACKUP, RESTORE, IMPORT, EXPORT, ERASE実行の過程でCD読み込みエラーが発生しました。

CD Write Error Press EXIT

FINALIZE, BACKUP, EXPORT, ERASE実行の過程でエラーが発生しました。

Erase Error Press EXIT

ERASE実行の過程でエラーが発生しました。

Export Error Press EXIT

EXPORT実行の過程でエラーが発生しました。

Finalize Error Press EXIT

FINALIZE実行の過程でエラーが発生しました。

Import Error Press EXIT

IMPORT実行の過程でエラーが発生しました。

Media Error Press EXIT

CDプレーヤーメニューで、CDメディアにエラーが発生しました。

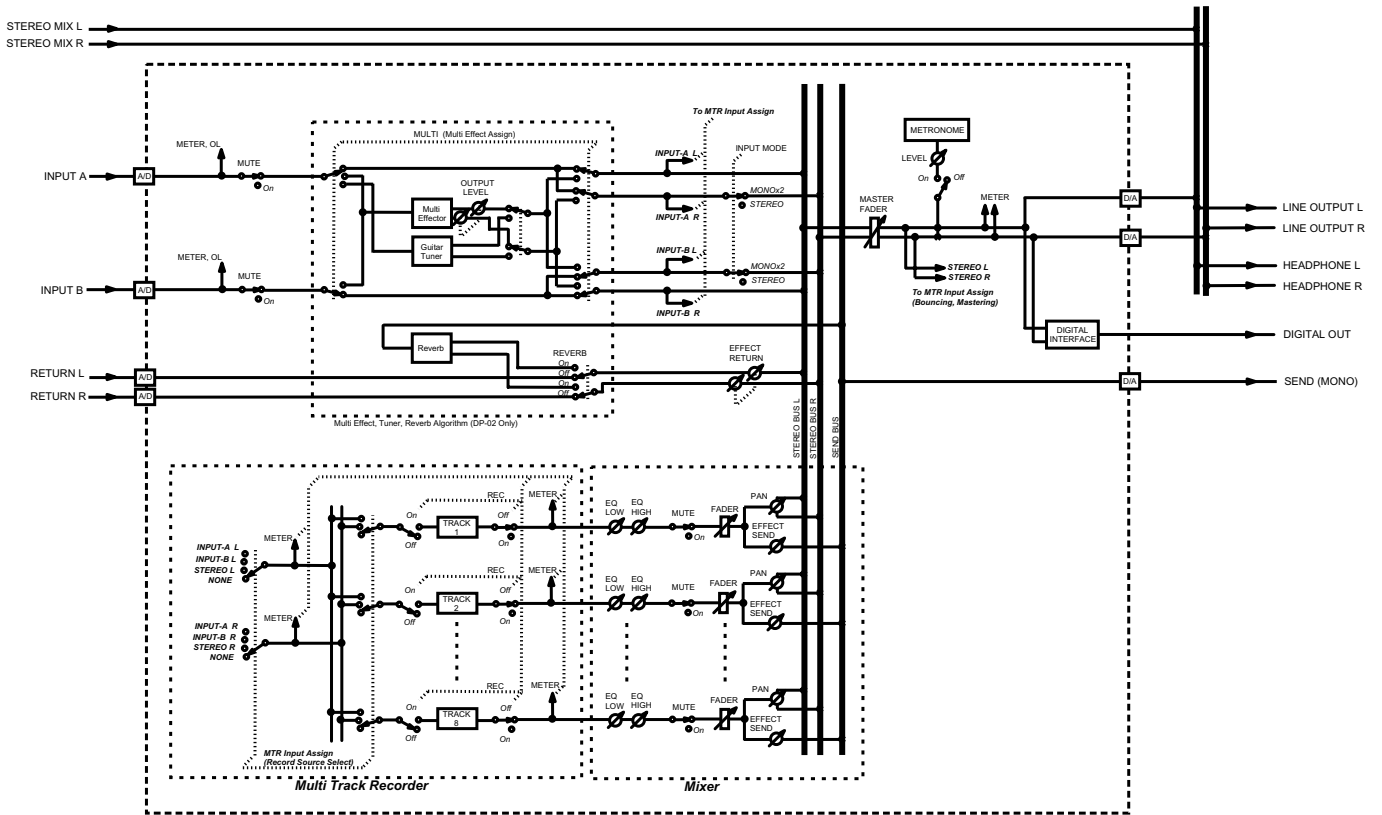
Restore Error Press EXIT

RESTORE実行の過程でエラーが発生しました。

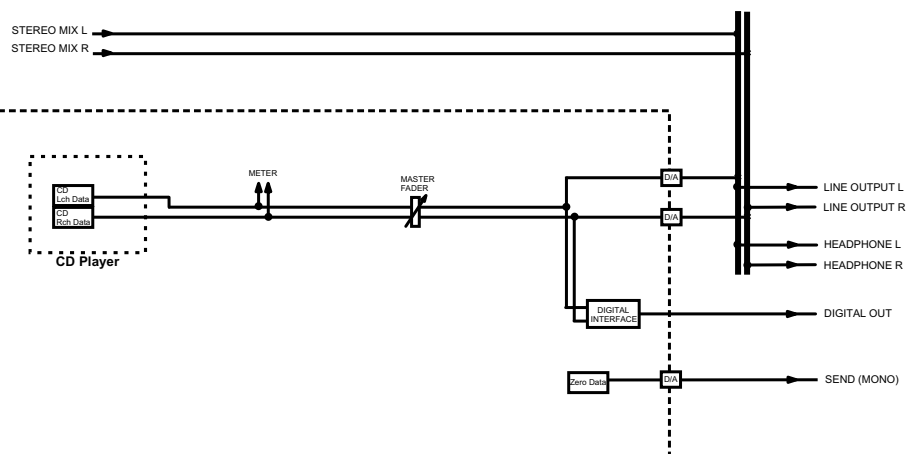
Writing Failed Press EXIT

MASTER WRITE,またはCD EXPORTメニューのCD書き込み過程でエラーが発生しました

ブロックダイアグラム (DP-02/DP-02CF)



Block Diagram (MTR mode)



Block Diagram (CD player mode) [DP-02 only]

第17章 こんなことをやるには

以下に、パネルを見ただけではやり方がわからないような機能の操作方法を一覧表にまとめます。メッセージ一覧と合わせてご利用下さい。

なお項目は五十音順に並んでいます。

- キー名称は **LOCATE** のように表記します。
- **SHIFT + LOCATE** のような表記は、「**SHIFT** キーを押しながら **LOCATE** キーを押す」という意味です。

- 「**MENU** キーを押し、メニュー選択画面から **DISK** メニューを選択し、**DISK** メニューの中から **FORMAT** 項目を選択する」という操作を「**MENU** ⇨ **DISK** ⇨ **FORMAT**」のように表記します。
- 複雑な操作の場合、全部の操作は表記しません。

こんなことをしたい	"操作方法、使用するキー"	詳しくはこちら
EQの周波数を変えたい	FREQ	「ミックスダウン」(35ページ)
FATパーティションをフォーマットしたい	MENU ⇨ DISK ⇨ FAT REFORMAT [DP-02] CARD ⇨ FAT REFORMAT [DP-02CF]	「FATパーティションをフォーマットする」(56ページ)
IN、OUT、TOポイントにロケートしたい	" IN、OUT、TO を押す"	「 IN / OUT / TO ポイント」(40ページ)
IN、OUT、TOポイントを設定したい	" SHIFT + IN、OUT、TO "	「 IN / OUT / TO ポイント」(40ページ)
IN、OUT、TOポイントを編集、トリミングしたい	POINT EDIT (SHIFT + TRACK EDIT)	「 IN / OUT / TO ポイント」(40ページ)
MIDIクロック用に、拍子とテンポを設定したい	MENU ⇨ MIDI ⇨ TEMPO/T.SIG	「テンポの設定」(50ページ)
MIDIタイムコードやMIDIクロックを使って外部機器を同期したい	MENU ⇨ MIDI ⇨ GENERATOR	「MIDIと一緒に使う」(51ページ)
USB接続を有効にしたい	MENU ⇨ USB [DP-02] USB [DP-02CF]	「USB接続する／解除する」(63ページ)
USBモードをオープンしたい	MENU ⇨ USB [DP-02] USB [DP-02CF]	「USB接続する／解除する」(63ページ)
WAVファイルをトラックにインポートしたい	MENU ⇨ WAVE ⇨ IMPORT TRACK	「トラックをインポートする」(65ページ)
アクティブパーティションを変更したい	MENU ⇨ DISK ⇨ PARTITION [DP-02] CARD ⇨ PARTITION ([DP-02CF]	「アクティブパーティションを選択する」(29ページ)
ギターやベースをチューニングしたい [DP-02]	MENU ⇨ TUNER	「ギター／ベース用チューナー」(52ページ)
現在のパーティションを知りたい	SHIFT + SONG	「ソング情報を見る」(31ページ)
コンパクトフラッシュカードをイニシャライズしたい [DP-02CF]	CARD ⇨ CF INITIALIZE	「カードをイニシャライズする」(57ページ)
コンパクトフラッシュカードをフォーマットしたい [DP-02CF]	CARD ⇨ FORMAT	「カードをフォーマットする」(55ページ)
最後に保存したときの状態にソングを戻したい	SONG ⇨ REVERT	「ソングを保存する」(30ページ)
自動操作でレコーディングしたい	AUTO PUNCH、RHSL など"	「オートパンチイン／アウト」(40ページ)
新規ソングを作成したい	SONG ⇨ CREATE	「新しいソングを作成する」(30ページ)
ステレオマスターを作成したい	MASTER	「マスタリング」(36ページ)
ステレオマスターをパソコンにエクスポートしたい	MENU ⇨ WAVE ⇨ EXPORT MASTER	「ステレオマスターをエクスポートする」(67ページ)

こんなことをしたい	"操作方法、使用するキー"	詳しくはこちら
操作を一回 REDO したい	UNDO/REDO	「実行した操作を取り消す (UNDO)」(37 ページ)
操作を一回 UNDO したい	UNDO/REDO	「実行した操作を取り消す (UNDO)」(37 ページ)
操作を複数回 REDO したい	HISTORY ⇨ CURSOR▲/▼⇨ YES/ENTER	「実行した操作を取り消す (UNDO)」(37 ページ)
操作を複数回 UNDO したい	HISTORY ⇨ CURSOR▲/▼⇨ YES/ENTER	「実行した操作を取り消す (UNDO)」(37 ページ)
ソングに名前を付けたい	SHIFT + MENU	「名前の編集」(24 ページ)
ソングのプロテクトを解除したい	SONG ⇨ PROTECT	「ソングをプロテクトする」(32 ページ)
ソング名を見たい	SHIFT + SONG	「ソング情報を見る」(31 ページ)
ソングをコピーしたい	SONG ⇨ COPY	「ソングをコピーする」(31 ページ)
ソングを削除 (消去) したい	SONG ⇨ ERASE	「ソングを消去する」(31 ページ)
ソングをバックアップしたい	MENU ⇨ BACKUP ⇨ SONG BACKUP	「ソングのバックアップとリストア」(64 ページ)
ソングをプロテクトしたい	SONG ⇨ PROTECT	「ソングをプロテクトする」(32 ページ)
ソングを保存したい	SONG ⇨ SAVE	「ソングを保存する」(30 ページ)
ソングをロードしたい	SONG ⇨ LOAD	「ソングをロードする」(29 ページ)
ディスクをフォーマットしたい [DP-02]	MENU ⇨ DISK ⇨ FORMAT	「ディスクをフォーマットする」(53 ページ)
トラック全体を消去したい	TRACK EDIT ⇨ CLEAN OUT	「クリーンアウト (トラック削除)」(61 ページ)
トラック内に無音パートを挿入したい	TRACK EDIT ⇨ OPEN	「OPEN (無音挿入)」(60 ページ)
トラックの一部をカットして詰めたい	TRACK EDIT ⇨ CUT	「CUT (部分削除)」(60 ページ)
トラックの一部をコピー/インサートしたい	TRACK EDIT ⇨ COPY INSERT	「コピー・インサート」(59 ページ)
トラックの一部を別の場所に移動したい	TRACK EDIT ⇨ MOVE PASTE	「ムーブ・ペースト」(59 ページ)
トラックの一部を別の場所にインサートしたい	TRACK EDIT ⇨ MOVE INSERT	「ムーブ・インサート」(60 ページ)
トラックの一部を無音にしたい	TRACK EDIT ⇨ SILENCE	「SILENCE (部分消去)」(61 ページ)
トラックのクローンを作りたい	TRACK EDIT ⇨ CLONE TRACK	「クローントラック (トラックの複製)」(61 ページ)
トラックの内容をパソコンにエクスポートしたい	MENU ⇨ WAVE ⇨ EXPORT TRACK	「トラックをエクスポートする」(66 ページ)
トラックの一部をコピー・ペーストしたい	TRACK EDIT ⇨ COPY PASTE	「コピー・ペースト」(58 ページ)
トラックバウンスをやりたい	BOUNCE	「トラックバウンス」(トラックをまとめる) (42 ページ)
入力をトラックにアサインしたい	ASSIGN + REC	「入力をアサインする」(33 ページ)
ノイズサプレッサーを設定したい [DP-02]	MENU ⇨ PREFERENCE ⇨ N. SUPPRESSOR	「ノイズサプレッサー」(44 ページ)
バー/ビート表示にしたい	"ホーム画面で""ABS""を DATA ダイアル で変更"	「バー/ビートを基準に作業する」(50 ページ)
パーティションをフォーマットしたい	MENU ⇨ DISK ⇨ REFORMAT [DP-02] CARD ⇨ REFORMAT [DP-02CF]	「MTR パーティションをフォーマットする (リフォーマット)」 (54 ページ [DP-02]、56 ページ [DP-02CF])
パソコンからソングをリストアしたい	MENU ⇨ DATA BACKUP ⇨ SONG RESTORE	「ソングのバックアップとリストア」(64 ページ)
不要なソングデータを削除したい	SHIFT + HISTORY	「使わないソングデータを消去する」(32 ページ)
プリロール/ポストロールの時間を設定したい	MENU ⇨ PREFERENCE ⇨ PreRoll/PostRoll	「プリロールタイムとポストロールタイムの設定」 (41 ページ)
別のトラックにピンポン (バウンス) したい	BOUNCE	「トラックバウンス」(トラックをまとめる) (42 ページ)

第17章 こんなことをやるには

こんなことをしたい	"操作方法、使用するキー"	詳しくはこちら
マルチエフェクトをオン/オフしたい [DP-02]	SHIFT + EFFECT	「マルチエフェクト」(44ページ)
マルチエフェクトの設定を変えたい	EFFECT	「マルチエフェクト」(44ページ)
メトロノームの設定をしたい	MENU ⇨ MIDI ⇨ METRONOME	「メトロノーム」(51ページ)
メトロノームを使いたい	MENU ⇨ MIDI ⇨ METRONOME	「メトロノーム」(51ページ)
リバーブを使いたい [DP-02]	SHIFT + REVERB、REVERB	「リバーブ」(49ページ)
録音残時間を知りたい	SHIFT + SONG	「ソング情報を見る」(31ページ)
ロケートマーク(指定)にロケートしたい	⏪ + ⏩ ⇨ マーク選択 ⇨ YES/ENTER	「ロケートマーク」(39ページ)
ロケートマーク(次または手前)にロケート したい	⏪ または ⏩	「ロケートマーク」(39ページ)
ロケートマークを設定したい	SHIFT + ⏪	「ロケートマーク」(39ページ)
ロケートマークを編集(微調整)したい	⏪ + ⏩ ⇨ マーク選択 ⇨ ▶	「ロケートマーク」(39ページ)
ロケートマークを削除したい	SHIFT + ⏩	「ロケートマーク」(39ページ)

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム営業技術までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く 10:00～12:00/13:00～17:00 です。

タスカム営業技術 〒180-8550 東京都武蔵野市中町 3-7-3

電話：0422-52-5106 / FAX：0422-52-6784

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く 9:30～17:00 です。

ティアック修理センター 〒190-1232 東京都西多摩郡瑞穂町長岡 2-2-7



一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

新電電各社をご利用の場合、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒180-8550 東京都武蔵野市中町 3-7-3

<http://www.tascam.jp/>

Printed in China